

多摩川にやさしい
ライフスタイルの研究

1992年

鈴木敬子・大和田順子

日本ヒーブ協議会

目 次

1章 調査・研究の概要	1
1. 調査の概要	
2. 調査対象者のプロフィール	
2章 調査結果の要約	7
3章 環境問題に関する意識	15
1. 生活環境問題への関心	
2. 問題の深刻さ	
3. 環境への負荷の認識	
4. 環境保全行動の実践	
5. 情報源	
6. 家族との話し合い	
4章 水と暮らし	25
1. 親しみを感じる水辺	
2. 多摩川とのかかわり	
3. 飲み水	
5章 生活雑排水に関する行動実態	31
1. 河川の汚染原因	
2. 炊事とのかかわり	
3. 洗濯とのかかわり	
4. 洗剤・洗浄剤の選択理由	
5. 入浴とのかかわり	
6. 環境に配慮して行っていること	
7. 生活雑排水をきれいにする行動の妨げになること	
6章 ゴミに関する行動実態	51
1. 家庭から出るゴミ	
2. 空き缶について	
3. 使い捨て商品	
4. 包装について	

参考資料 質問票

1章 調査・研究の概要

日本ヒープ協議会（注1）自主研究会エコリング・フォーラムは、平成2年春の発足以来、環境問題についてヒープの視点で、生活者、企業、行政の果たすべき役割とその方法について考えてきた。

この「多摩川にやさしいライフスタイル」の調査・研究は、古来より私たちの生活と関わりの深い川－多摩川－を中心に、飲料水から、生活雑排水まで、また河川や海などの親水に関する意識と行動の実態について、併せて家庭から出されるごみについて、同じく意識と行動の実態についてとりあげた。

生活者は、ふだん自分の生活が環境に対して及ぼしている負荷について余り実感してはいない。また実感していてもどうすればその負荷を少なくすることができるかについての答を持っていない。こうした現状について、主婦を対象とするアンケート調査「生活排水とごみに関する調査」を実施し、明らかにするとともに、調査結果の分析を通じて、環境に配慮したライフスタイルの方向性を検討する。

1. 調査・研究の概要

(1) 調査・研究の目的

生活者の生活排水やごみに対する関心、行動の実態、環境保全意識、保全行動の実態を把握し、課題を明かにし、解決の方向性を探る。

(2) 調査・研究の視点

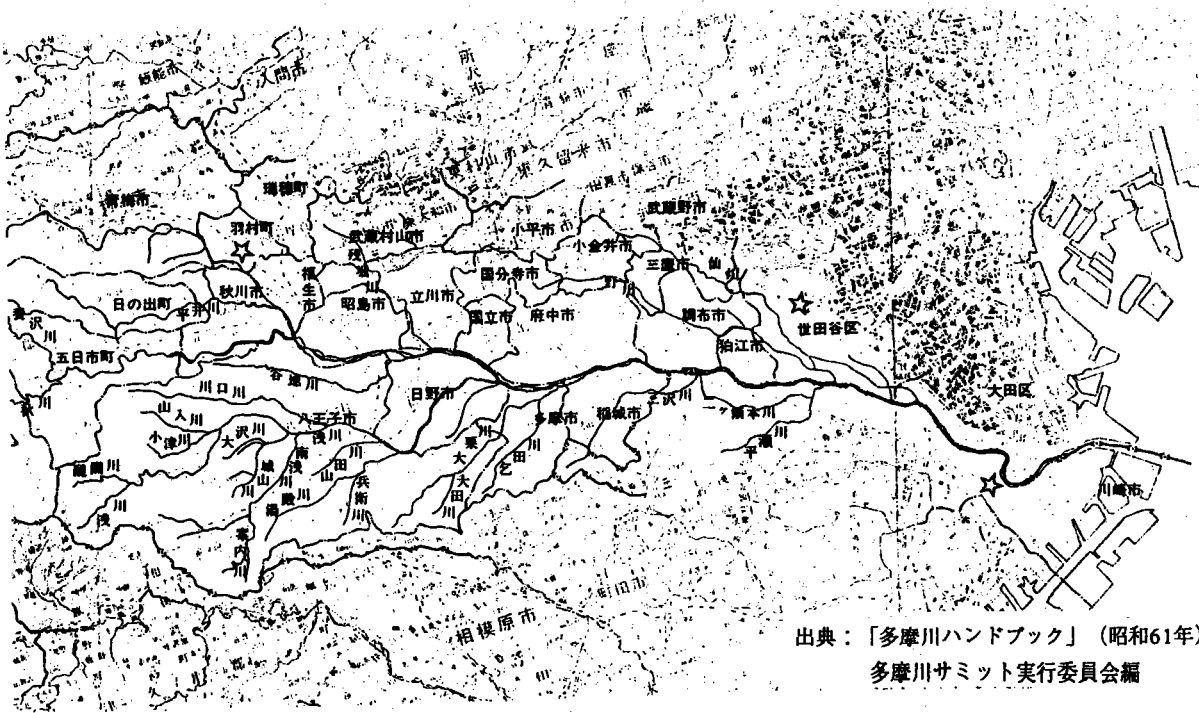
1. 河川・海などへの親水、飲料水、生活雑排水、河川の汚染や節水など暮らしをとりまく水についての意識と行動にどのような差があるか。
2. 多摩川流域－上流、中流、下流－で、自然環境が豊かな地域と、都市化が進んでいる地域とでは、川、水、環境問題についての意識や行動にどのような差があるか。
3. 専業主婦、パートタイマー、フルタイマーという就労形態の別で意識、行動にどのような差があるか。

(3) 調査の概要

調査対象者	多摩川の流域に居住する30、40歳代の主婦（専業、パートタイマー）を各地域 60サンプル設定（合計180サンプル）
調査対象地域	多摩川上流域の東京都羽村市 （条件：川の近く、かなり清流、飲み水の一部が地下水） 中流域の東京都世田谷区 （条件：川の見えない所、飲み水は多摩川の水） 下流域の神奈川県川崎市幸区 （条件：川の近く、蛇行、飲み水は相模川の水）
調査方法	調査員による個別訪問面接調査
調査期間	平成3年9月
調査実施機関	株式会社 日本リサーチセンター
実査結果	回収数 186

*なお、フルタイマー（ヒープ）主婦のデータは、日本ヒープ協議会の会員を対象に平成3年6月に同じ内容で行った調査から、30、40代の既婚者（計39人）のデータを集計し、比較データとして採用した。

<調査対象地域>下図☆印の場所



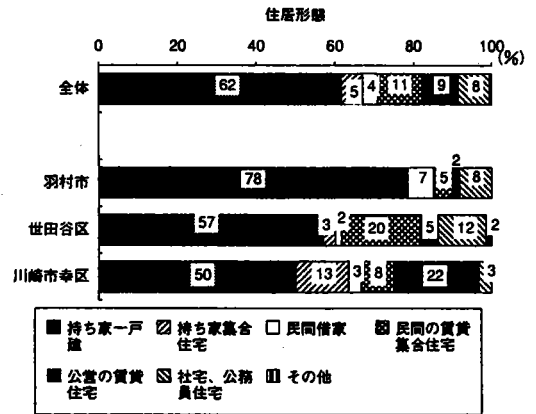
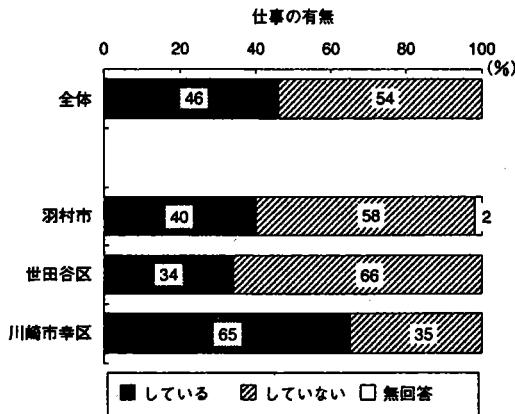
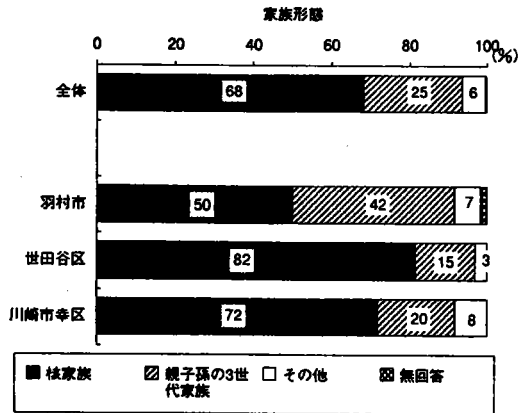
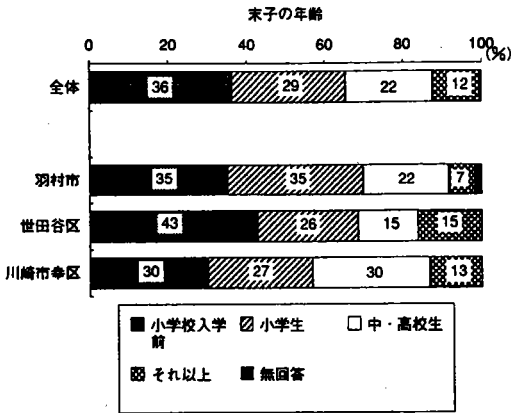
出典：「多摩川ハンドブック」（昭和61年）
多摩川サミット実行委員会編

注1)日本ヒープ協議会とは、企業の消費者関連部門で働く女性の会で、(昭和53年)1978年に設立された。この会は「消費者と企業のパイプ役として生活者の視点で仕事にあたる」ことを主眼とし、変化する社会の中で、消費者と企業の信頼ある関係を願い、活動を進めている。

2.調査対象者のプロフィール

(1) 基本属性

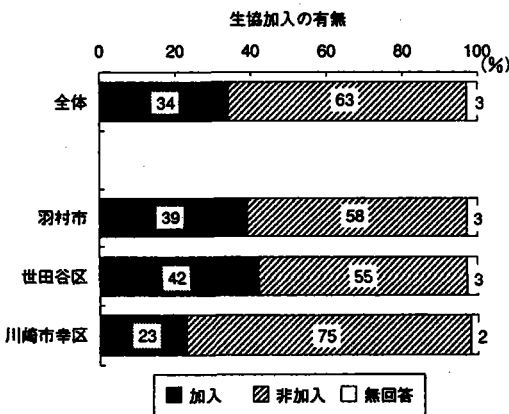
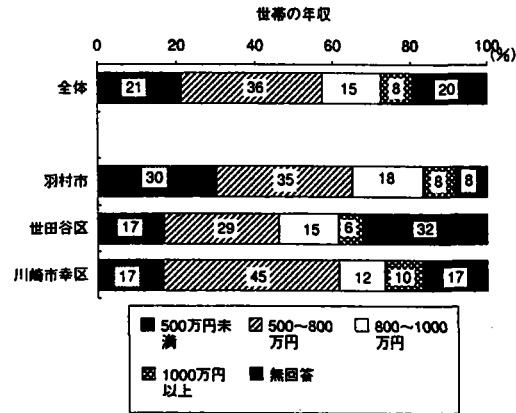
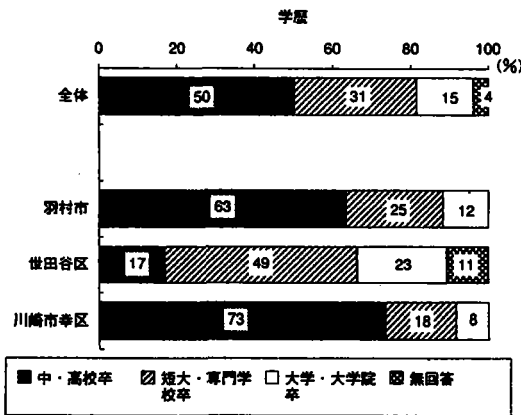
- ・調査対象地域は多摩川上流域の羽村市（川の近く、かなり清流）、中流域の世田谷区（川の見えない所）、下流域の川崎市幸区（川の近く、蛇行）の3ヶ所であるが、以下本文ではそれぞれ、羽村、世田谷、川崎と呼ぶ。
- ・年齢では3地区とも30代と40代の割合を半々と設定したので、平均年齢は羽村38.8歳、世田谷39.2歳、川崎39.3歳である。
- ・末子の年齢は羽村では小学入学前35%、世田谷は43%、川崎では30%で逆に中学生以上が4割を超える。
- ・家族形態で見ると羽村は三世代が42%と他の地域より高く、家族人数5人以上が53%を占める。川崎、世田谷の順に家族人数は減っており、ともに4人家族が約半数。核家族の割合は羽村50%、世田谷82%、川崎72%である。
- ・仕事（フルタイムではない）をしている人の割合は、川崎65%、羽村40%、世田谷34%。
- ・住居形態は、羽村で一戸建てが78%。一方世田谷、川崎ともに一戸建てはそれぞれ57%、50%と半数にとどまる。世田谷は民間賃貸20%、社宅・公務員住宅12%。川崎は公営賃貸住宅が22%ある。



- ・ 学歴は羽村、川崎では中・高校卒がそれぞれ63%、73%。世田谷は短大卒以上が 8割。
- ・ 年収は羽村は500万円未満が30%、川崎は500万～800万円という中間層が45%と多く、世田谷では無回答が32%ある。
- ・ 生協加入は羽村、世田谷では加入者が4割程度いるが、川崎は25%にとどまる。全体（3地域の合計）では30代で40%、40代で29%の加入率である。

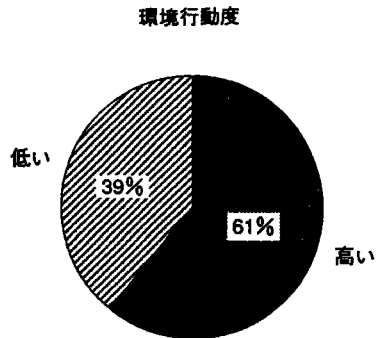
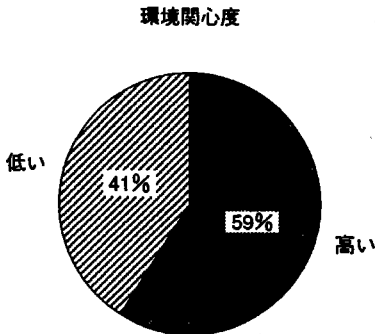
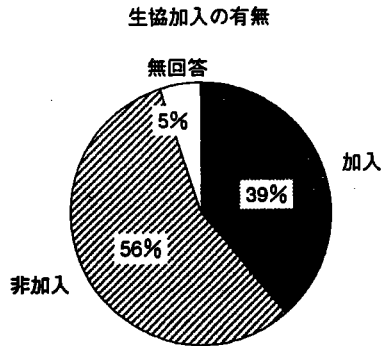
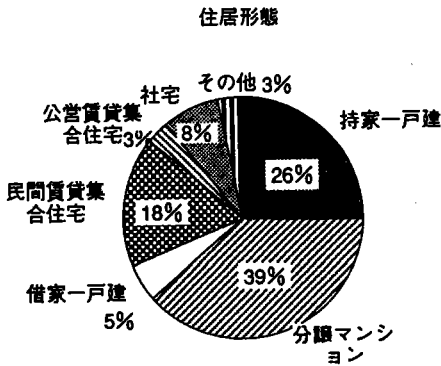
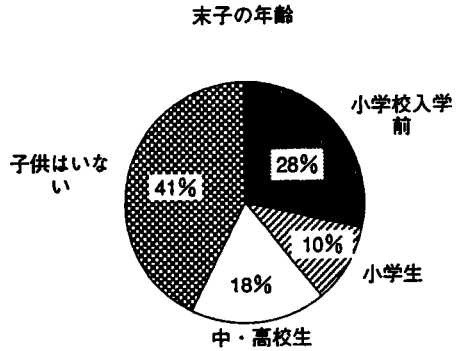
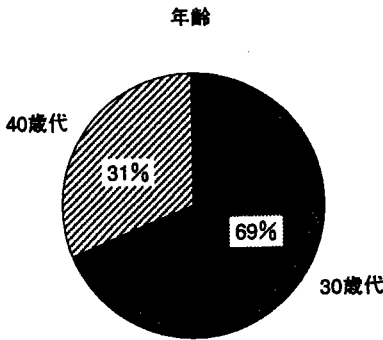
・ 属性の特徴をまとめると、羽村は一戸建ての家に大人数で住んでいる。世田谷は学歴が高く、核家族で、子どもの年齢が比較的小さく、専業主婦が多い。川崎は子どもを早く生んだ人が多く、手が離れ始めており、パートタイマーなど働きに出る人が多く、年収は中間層が多い。

・ なお、就労形態別の比較をする場合のみ、参考までに日本ヒープ協議会会員を対象に行った調査から既婚女性のデータをフルタイムのデータとして採用した。したがって、本文中で全体という場合には、フルタイムの人数は含まない185人を指している。



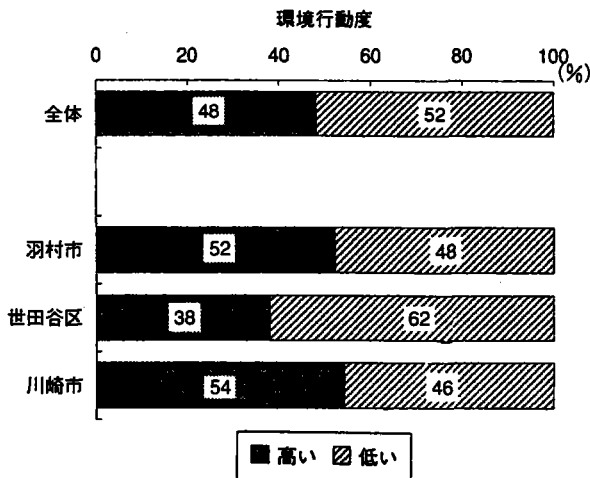
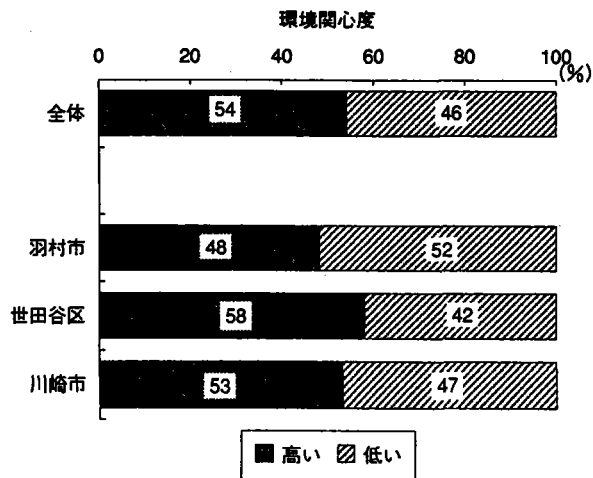
<参考>

- ・参考までに、フルタイムとして採用した39人の働く主婦（日本ヒープ協議会会員）の属性は下図のような特徴がある。
- ・年齢は30歳代が7割、子供のいない人が4割、住居形態はマンションなど集合住宅に住んでいる人が6割、生協には4割が加入している。
- ・環境関心度は高い人が6割、行動度も高い人が同じく6割である。



(2) 環境関心度・環境保全行動度

- ・ 関心の度合いを尋ねている設問（問1）で、「とても関心がある」を4点、「まあ、関心がある」を3点、「あまり関心がない」を2点、「全く関心がない」を1点とウエイトづけし、その総合点で29点以下の人を関心が低いグループ、30点以上の人を関心が高いグループとした。
- ・ 環境保全行動の実践を尋ねている設問（問12）で、実行している項目数が7項目までの人を「環境行動度」が低いグループ。8項目以上の人を「環境行動度」が高いグループに二分した。
- ・ 上記の分類によると、環境関心度の高い人は全体で54%と過半数。羽村48%、世田谷58%、川崎53%。環境行動度の高い人は全体で48%。関心の高い人の率よりは下がる。羽村52%、世田谷38%、川崎54%と、世田谷が低い。関心では世田谷がいちばん高かったが、実際の行動ではいちばん低くなっている。



2章 調査結果の要約

飲み水の味と安全性

水がまずいし、安全性が不安。けれど生活雑排水はあまり関心無い。

水がまずい。おいしい水を得るためには、煮沸したり、置き水をするという方法が有効である。が、そうした手間をかけるよりは、〇〇名水、〇〇の水と名のついた飲料水の購入や浄水器、整水器の購入の方が人気が高い。

今回の調査結果からも、水のまずさは都市部の集合住宅を中心に、多くの人から指摘されている。“水のまずさ”については、簡易水質検査キット「バックテスト」による塩素濃度の測定でも、実感値と同様の傾向が見られた。すなわち水がまずいと感じる人の多かった世田谷や川崎でいずれも塩素濃度が高かったのである。

そして、飲料水への関心は、味を通り越してその背後にある“安全性”ということに焦点が合わせられている。飲み水の安全性への関心は大変高い。生活排水が河川や海の汚染の最も大きな原因であることを知っている人も多い。ところが、こうしたことと密接な関わりを持つ“生活雑排水”への関心は決して高くはない。このことは、水がおいしい羽村においても同様で、毎日飲んでいる水はおいしいのに、水の安全性には不安を持っている人が多いのである。

また、関心事の上位2つであるごみ問題や食品の安全性については、関心も高く深刻さの認識も高い。が、この生活雑排水については、関心は高くないが、問題の深刻さは大いに認識されているのである。

こうした一連の原因を推察してみるに、やはり生活雑排水は水に流れてしまうので、それがもたらす負荷の実感を持ちにくいということなのだろう。しかしながら、体に入るものへの安全性にばかり関心を払うのではなく、排出するものについても関心と配慮を心がけたいものである。

多摩川への親和感と環境問題への取り組みとの関係

多摩川は庭の延長である羽村。都市型生活が浸透している世田谷。河川敷で楽しむ川崎。

羽村は未だに清流の多摩川を抱えている地域である。羽村堰は玉川上水の始点でもある。子供たちは水しぶきを上げながら、魚や沢蟹と戯れている。川岸には緑も多く、また河原にはごみも殆ど見られない、豊かな自然環境の残された所である。

この周辺に住んでいる人は、川（多摩川）へ頻繁にでかけ、散歩したりスポーツをする、時には清掃をするなど、自分の家の庭の延長として川や川辺と親しい生活を送っている。このような環境なので、生活環境問題の深刻さの認識度合いは他の2地域に比べて全般に低くなっている。が、保全行動や配慮行動はきちんと行われている。

世田谷は今回の調査では多摩川から少し離れた、しかし飲料水には多摩川の水が入っている地域を選んだ。電車や車に乗れば、30分以内で多摩川（二子玉川付近）に出ることができる場所である。が、親しみを感ずる水辺では、東京湾にせよ、横浜にせよ1時間30分以上かかるにもかかわらず海を挙げる人が圧倒的に多い。殆どの人に小さい子どもがいるが、多摩川へは殆ど出かけないという人が半数を超えている。

この地域の人は、環境問題について関心など意識は高いが、保全行動の実践では全般的に他の2地域より低いのが特徴的である。例えば、缶・ビンのボイ捨てをしない、省エネルギー・省資源に心がける、空きビン等のリサイクル、再生紙商品の利用などの項目で低くなっている。また、エコロジカルではない行動で使い捨て商品をよく購入する、飲料水の購入、使用済み油を一度だけで捨ててしまう人が多いなどを挙げることができる。ごみの処分でも、資源の再利用を考えるとよりよごみをゴミとして捨てている人が多い。

これらの原因として、小さい子どもを持つ人が多くなかなか行動をする時間が無いということも考えられるが、むしろ都市型の使い捨て型の生活が浸透しているのではないかということが推察される。

川崎は多摩川の下流で、調査地点は多摩川が蛇行している地点を選んだ。この辺りでは川の中で遊ぶというよりは、整備された河川敷でスポーツなどを楽しむ人が多い。多摩川に殆ど行かない人は2割以下で、週に1~2回以上でかけている人も1割強いる。また、河原に落ちているごみ

が目立つ。

この地域の人は、パートに出ている人が多く、所得は中間層が多い。環境問題に対する関心や保全行動の実践は羽村の人たちと同程度である。が、生活雑排水の負荷を少なくする為の行動を妨げる事として情報不足を挙げている人が多い。

環境配慮型の買い物行動

2割は環境対応型商品を購入。環境対応度が商品の選択基準のひとつになりつつある。

購買行動においては、低農薬・無農薬野菜の利用が4割弱、添加物の少ない食品を選ぶが7割、環境保全をうたった商品、再生紙商品、浄水器、飲料水の購入・利用などがいずれも2割程度と、食品を中心に環境保全に配慮した商品が購入されている。しかしながら、実際、スーパーやデパートなど小売りの店頭でこのような商品群が2割も展開されているだろうか。生活者のニーズに応えた品揃えが望まれる。

商品開発では、環境問題に関心の高い人たちは食器洗い洗剤や洗濯洗剤の選択の理由の中に環境への配慮といった要素が入ってきていることは見逃せない。また、台所の流し内のアミカゴの構造や家庭用の生活雑排水の一次浄化装置や洗濯機の洗濯工程の変更、生ごみ処理機など開発が望まれる。

小売りに関しては、過剰包装の問題もある。デパートを中心に簡易包装が進められているが、まだまだ過剰包装が多いというイメージが強く持たれている。また自家用のものであれば包装は簡易で良いと言いながらも、雨の日用の使い捨て傘袋、スーパーのビニール袋など便利さを拒否するには至っていない。また、サニタリー用品を紙袋に入れるのは必要だという人が多いが、トイレでの音消しの為に水を余計に流すのと同じで、格好や外見を気にする気持ちが無駄を産んでいる。企業が行政に意見を言うだけでなく、生活者自身の問題として考えてみたいものである。

就労形態による差

育児に追われる専業主婦。そこそこ実践のパートタイマー。時間の制約に悩むフルタイマー。

フルタイムで働く主婦は時間が無い。よく言われる事だが、今回の調査では就労形態別の差を見るために、羽村、世田谷、川崎の主婦を専業主婦とパートタイマーに分け、比較でヒープ協議会会員のデータをフルタイマー主婦として採用した。

全般に、専業主婦は関心、行動いずれもパートタイマーより低い項目が多い。負荷を与えているという認識も低く、油の処理に市販の処理剤を使い、汁ものの処理でもそのまま流してしまう率が他より高いなど、小さい子どもに手間がかかるのか、視野が狭くなりがちなのかなどの要因が推察される。

フルタイマーは情報の収集で多様なメディアを駆使しているが、これはヒープの特徴がでていると言えよう。また、リサイクルへの関心は高いが実際に地域でのそうした活動は平日が多く、参加できないようだ。自分の暮らしが環境に負荷を与えているという認識が高いが、時間の制約で行動にはなかなか移せないというジレンマが浮かび上がる。

また、主婦層において特徴的なことに家事の省力化と環境保全行動の両立というテーマがある。生活雑排水に配慮した行動を阻害する最大の要因として“台所仕事などに手間がかかる”が挙げられている。例えば三角コーナーに水切り袋を付けるのは、生活雑排水に配慮してというよりは、三角コーナーの手入れが楽で済むよう、あるいは後でゴミを捨てる時に水がよく切れるようにというニーズによるのである。もちろん、家事の手間も省かれ、かつ環境にも配慮されるという物やことは一挙両得というわけだが、現状では両立しないケースが多い。こういった観点からの商品やサービスの開発も考えられるだろう。

情報提供および環境教育

情報源は新聞とテレビ。図書館や消費者センター、企業の情報は埋もれている。

情報は知りたい時に気軽に得たい。現在、情報は家に居ながら手軽に新聞、テレビから得ている人が多いが、これらは必ずしも欲しいときに得られるとは限らないものである。一方、生活雑排水による河川への負荷を減らす行為を妨げることで、情報が不足しているという声も大きい。不足していると思ったら、時には図書館や消費者センターなどにでかけて調べてみることも必要ではないだろうか。

もちろん、企業や行政も作成している情報を伝達しやすくする工夫が必要である。

環境教育が学校でも導入されるようになってきた。子供用テレビ番組などにも環境問題をテーマにしたものが増えてきている。家庭教育でどのように教えていけば良いか、プログラムの開発や両親向けの啓蒙活動などを自治体や消費者センターで取り上げて欲しい。

リサイクル

生活者の自主的な取り組みを応援する。

リサイクルについては一部で行政の決めたごみの処理方法とは別に自主的な回収、再資源化の活動が行われているが、生活者、行政、企業のより一層の連携で長続きさせ、実効を上げていく事が望まれる。

調査・研究の今後の課題

人々は何故環境問題に関心を持ち、配慮した行動をとるのか。どのような想いから行動を起こすのか。今回の調査・研究で対象とした主婦の多くは生活実感—ごみの量が多い、毎日目の前で流れていく生活雑排水、子供や家族の健康を願っての飲料水や無農薬の野菜を購入する—に根ざして関心を持ち始めることが多い。他の属性はどのような想いや動機で関心を持ち行動を起こすのか、総合的な調査を行う事によって、動機の種類をすることができるだろう。そうすれば、そのタイプ別にアプローチの方法も考えていく事ができるだろう。

環境倫理学には3つの考え方がある。（『環境倫理学のすすめ』加藤尚武著 丸善ライブラリー 1991.12）「1. 自然の生存権の問題—人間だけでなく、生物の種、生態系、景観などにも生存の権利があるので、勝手にそれを否定してはならない。2. 世代間倫理の問題—現在世代は、未来世代の生存可能性に対して責任がある。3. 地球全体主義—地球の生態系は開いた宇宙ではなくて閉じた世界である。」

子供を持つ主婦の動機は抽象化すれば上記の2番に近い考えであると言えるだろう。また、この3つの考え方をエコ・ライフスタイル分類の足がかりとすることができるだろう。さらに、こうした学問をかみくだいて家庭や学校における環境教育に取り入れていきたいものである。

また、今回の調査・研究は多摩川の環境との対比において生活者の環境問題に対する意識と行動を明らかにすることによって、いくつかの仮説が導き出された。そのひとつである都市や街の形成と居住者の環境マインドや環境に配慮したライフスタイルの因果関係については、今後もアプローチを変えて考えていきたい。

調査結果の要約	考察
<p>1. 環境問題に関する意識 (本文P15)</p> <p><生活環境問題に関する意識></p> <ul style="list-style-type: none"> ・30歳代、40歳代主婦層での生活環境問題への関心は相当高く、かつ行動をしているのは約半数。 ・とても関心が高い項目は (全体) <ul style="list-style-type: none"> ①食品の安全性 (59%) ②家庭ごみの量の増大と処理 (52%) ③飲み水の安全性 (52%) ・問題がとても深刻な項目は (全体) <ul style="list-style-type: none"> ①家庭ごみの量の増大と処理 (67%) ②食品の安全性 (62%) ③生活排水による河川の汚染 (57%) ・実践している環境保全行動は (全体) <ul style="list-style-type: none"> ①古雑誌、古新聞等のリサイクル (89%) ②缶、ビン、たばこ等のお宝捨てはしない (82%) ③省エネルギー・省資源をこころがけている (77%) ④食品は添加物の少ないものを選ぶ (73%) ・購買行動で実践していることは (全体) <ul style="list-style-type: none"> ・環境保全をうたった商品を利用 (22%) ・世田谷では、関心など意識は高いが、行動は全般に他の2地域に比べて低い。 <p><環境問題に関する情報源></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報は2大情報源から得ている (全体) <ul style="list-style-type: none"> ①テレビ、ラジオ (82%) ②新聞 (73%) ・10%以下の情報源は (全体) <ul style="list-style-type: none"> ①書籍 (5%) ②消費者センターなどの講習会 (6%) ③家族 (8%) ④企業や業界団体のパンフレット、広報紙・誌 (10%) ・関心度の高い人や、行動度の高い人はそうでない人に比べ、多様な情報源から情報を得ている。 ・環境問題を話題にする家庭は三世帯に一世帯。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関心は持っているが、行動に移していない約半数をどうやって動機づけるか ・食品や飲み水など体に摂取されるものについての関心が高い。また、ゴミの様に実感しやすいものは関心を持ちやすい。が、生活排水への関心はあまり高くない。 ・生活排水は、水に流してしまうので問題が深刻なことは知っているが、関心事としては認識されていない。 ・環境に良かれと思って行動しているのか、その他の目的や価値観 (例えば他に良い、清潔好き、お金の節約など) によって行っているのかは不明。 ・グリーン・コンシューマーは環境に配慮した商品を購入し、非配慮商品を買わない人のことだが、少なくとも配慮商品の購買という面では約2割がグリーン・コンシューマーである。 ・都市化が早くから進んでいる地域は使い捨て型の生活が浸透し、羽村のように良好な自然環境が残っている地域は環境に配慮型の生活が実行されているというように、街の形成と生活様式に因果関係があるのだろうか。 ・テレビ、新聞は家に居ながら手軽にアクセスできるメディアである。 ・行政のパンフレットなどで3割、企業や業界団体などは1割程度しか利用されていないのは、入手しづらい、知られていないからだろうか。 ・学校では環境教育が導入されはじめたが、家庭教育ではこれからといったところか。家庭でどのように環境教育をしていけば良いか、プログラムの開発とその啓蒙が望まれる。

調査結果の要約

考 察

2. 水と暮らし (本文P25)

<水辺との関わり>

- ・親しみを感じる水辺は (全体)
 - ①河川 (63%)
 - ②海 (49%)
- ・環境保全行動度の高い人は、溪流や湖沼・池などにも親しみを感じている。

<多摩川との関わり>

- ・羽村では週に一度以上多摩川に出かける人が30% 一方、川に隣接していない世田谷では殆ど行かない人が55%。羽村の人は多摩川の川辺を散歩をしたり、スポーツをして親しんでいる。

<水のまずさと水質検査>

	水がまずい	何らかの対策	塩素ppm
羽村	2%	32%	0.25
世田谷	29%	68%	0.57
川崎	28%	73%	0.34

- ・集合住宅の方が、一戸建てに住んでいる人より水がまずいと感じている率が高い。

<おいしい水を得るための対策>

- ・現在行っていることは (全体)
 - ①煮沸して使う (22%)
 - ②おいしい水等飲料水の購入 (21%)
- ・今後行いたいことは (全体)
 - ①浄水器の設置 (32%)

<水を使いすぎない工夫>

- ・節水は、食器洗い、洗濯、洗髪、洗顔などいずれの場面でも「水をまめに止める」という方法で行われている。
- ・洗濯に関しては約半数が風呂の残り湯を使用し、節水にこころがけている。(特に一戸建ての人)

3. 生活雑排水に関する行動実態 (本文P31)

<河川の汚染原因についての認識>

- ・河川の汚染原因は (全体)
 - ①家庭からの生活雑排水 (80%)
 - ②工場からの排水 (64%)

<生ごみの処理>

- ・固形物の処理は (全体)
 - ①水切り袋をつけた三角コーナー (47%)
 - ②水切り袋をつけたアマガ (35%)

- ・川 (清流) の近くに住んでいる人にとって、その川は身近な存在であり、周辺の自然環境を守ろうと主体的に保全行動に関わるようだ。

- ・自然に近い形で河川環境が残っている地域では、河川や河原を自分の家の庭というような感覚で捉えている。

- ・塩素濃度の高い地域では、水がまずいと感じる人が多く、少しでもおいしい水を得ようと何らかの対策を行っている人が多い。

- ・パッケージという簡易水質検査キットを使うことによって簡単に水質の状態を知ることができる。塩素の濃度など目に見えないものを見えるようにすることによって、身近な問題とすることができる。

- ・浄水器はカートリッジを取り替えるなどメンテナンスが必要である。取り替え時期を知るためにパッケージによる塩素チェックも有効である。(塩素が検出されたら取り替え時期)

- ・「まめに水を止める」以外は手軽にできる節水方法が無い。非使用時に自動的に止水する機器、装置の開発が望まれる。

- ・風呂や家屋の構造にかかわらず、残り湯がもっと利用し易い工夫が望まれる

- ・都の調査によると、東京湾の汚濁原因のうち7割が生活系で、産業系は2割である。生活排水については正しく認識している人が多いが、産業系については未だに大きな原因と思われている人が多い。

- ・アマガは現在の流し台(シンク)の構造では水の排出口の上についており、生ごみを通過して水が流れるので排水に余計な負荷がかかる。

調査結果の要約	考察
<ul style="list-style-type: none"> ・三角コーナーやアミカゴに水切り袋を付ける人が多い。 <汁ものの処理> <ul style="list-style-type: none"> ・そのまま流してしまうもの（全体） <ul style="list-style-type: none"> ①米のとぎ汁(80%) ②汁もの(69%) <廃油の利用>（揚げ物をする人N=177） <ul style="list-style-type: none"> ・揚げ物に使った油を、炒め物や揚げ物等に再利用する人は86%と高率である。 ・廃油の処理方法は（N=177） <ul style="list-style-type: none"> ①紙等に吸わせたりピンを使いゴミに出す(55%) ②市販の処理剤を使いゴミに出す(36%) ・廃油をそのまま流してしまうという人はごく僅か(2%) <使用洗濯機> <ul style="list-style-type: none"> ・保有洗濯機の種類は、全自動47%、二層式39%（全体） <洗濯方法> <ul style="list-style-type: none"> ・「糸くずネット」を利用しているのは66%で、現在の全自動にも二槽式にも装備されているわりには、認知度が低い。（全体） <洗剤を使いすぎない工夫> <ul style="list-style-type: none"> ・洗剤を使いすぎないように洗濯では洗剤の使用量を計量する人が多く、食器洗いでは洗剤はなるべく使わない、薄めて使うなどの工夫がなされている <洗剤・洗浄剤を選ぶ基準> <ul style="list-style-type: none"> ・食器洗い洗剤では（全体） <ul style="list-style-type: none"> ①汚れ落ち(39%) ②価格が安い(26%) ③安全性が高い(23%) ・洗濯用洗剤では（全体） <ul style="list-style-type: none"> ①汚れ落ち(54%) ②価格が安い(29%) ③使用量が少なくてすむ(23%) ・環境関心度の高い人の洗剤の選び方は <ul style="list-style-type: none"> 食器洗い洗剤 …… ①汚れ落ち(37%) <li style="padding-left: 40px;">②安全性(29%) <li style="padding-left: 40px;">③環境配慮(20%) 洗濯用洗剤 …… ①汚れ落ち(52%) <li style="padding-left: 40px;">②環境配慮(23%) <li style="padding-left: 40px;">③価格(23%) <li style="padding-left: 40px;">④使用量(23%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由記入の意見などから判断して、三角コーナーなどに水切り袋をつける理由は生ゴミの水を切る、三角コーナーの汚れを防ぐなど家事の手間を省くことの方が生活排水への負荷を配慮することより強いようだ。 ・汁もの、米のとぎ汁など流すのは良くないと知りつつも処理方法が無く困っている。 ・廃油を石けんなどにリサイクルする方法もあるが、ごく一部でしか回収はされていない。 ・主婦でさえ、使用済み油を直接流してしまう人が若干いるということは、他の属性ではもっと多くの人が直接流しているかもしれない。 ・「糸くずネット」は現在の全自動にも二層式にも装備されているが認知は低い。認知されていないということは糸くずを取る能力が落ちている可能性がある ・「糸くずネット」が必要と思っている人は排水への負荷を軽減するために利用しているのか、それとも糸くずが洗濯物に再付着することを避けるために利用しているのか、いくつかの理由が考えられる。 ・環境に高い関心を示す人の、洗剤の選択基準は、まず性能や安全性が重視されているが、次いで環境への配慮が挙げられている。

調査結果の要約

考 察

<入浴>

- ・風呂の残り湯を活用している人は(全体)(71%)
- ・残り湯活用は(N=130)洗濯(70%)や入浴(45%)

- ・集合住宅などで追い炊きできないタイプのものがあり、沸かし直せず、1回ごとに捨てることになる。
- ・活用しない理由としては浴槽から洗濯機に水を運ぶ手間がかかるなどがある

<環境を配慮して行っていること>

- ・生活排水への負荷を減らすために配慮して行っていることは(全体)
 - ①廃油は流さない(86%)
 - ②糸くずネット使用(65%)
 - ③食器用洗剤の節約(65%)
 - ④洗濯用洗剤の節約(64%)
 - ⑤三角コーナー使用(62%)
 - ⑥風呂の残り湯の活用(62%)

- ・洗剤については、今後も「適量を守る」ことが、重要である。
- ・あらためて、生活排水への負荷を配慮して行っている行動について尋ねてみると、主婦の間では全般にかなり高い割合で生活排水への配慮がなされていることがわかる。

<生活雑排水に配慮した行動を阻害する要因>

- ・配慮行動を妨げるのは(全体)
 - ①台所仕事などに手間がかかる(40%)
 - ②情報が不足している(37%)

- ・手間がかかるので、良くないとはわかっていても汁ものの残りや米のとき汁はそのまま流してしまう。手間がかからずに汁物を台所で一時浄化できるような設備の開発が望まれる。

4. ゴミに関する行動実態 (本文P51)

<ゴミの捨てかた>

- ・基本的には、行政の決めた分類に従っているが、一部で市民独自の分別収集、リサイクルなどが行われている。
- ・世田谷区はゴミをゴミとして捨てている人が多い
- ・フルタイムで働く主婦は、地域のリサイクル活動への参加率が低い。
- ・紙オムツ、エアゾール缶、乾電池、電球などの捨て方がわからない人が多い。(15%)

- ・どのようにすれば市民、行政、企業が連携して息長く実効のある活動を続けていくことができるか。

<牛乳パックの処分方法>

- ①燃えるゴミとして処分(52%)
- ②自治体廃品回収で処分(18%)

- ・どのような条件(ライフスタイル、自然環境など)の地域が浪費型か。
- ・働く主婦は平日の活動には参加できない。駅などでいつも受付してくれるリサイクルの窓口があると良いのでは。
- ・分別収集している地域でもそれを知らない人がいる。また、なぜそれを捨てると環境に悪いのかを知らない人もいる。

<処分方法がわかりにくいゴミ>

- ①紙ナプキン、サニタリー用品、エアゾール缶(16%)
- ②乾電池(14%)
- ③蛍光灯電球(13%)

- ・牛乳パックは、リサイクルが話題になっており、処分理由では再資源化が多く挙げられているが、行動としては燃えるゴミに出す人が多く、意識と実態にギャップがある。

- ・燃えるゴミ、燃えないゴミの区別がつきにくいのではないかと考えられる。

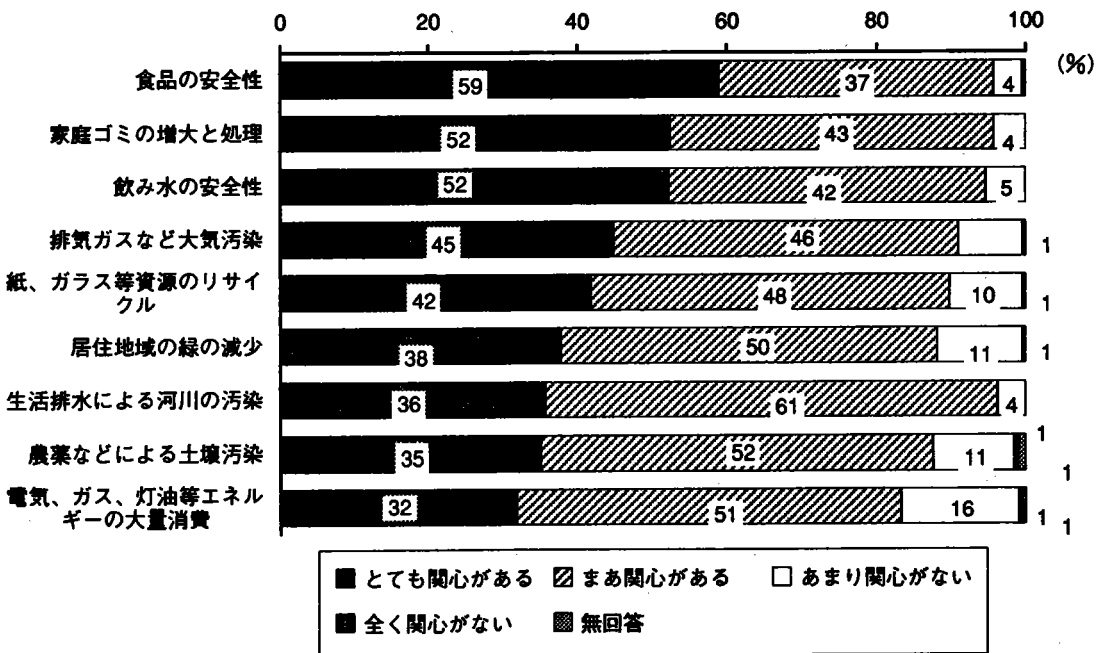
調査結果の要約	考察
<p><あき缶について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スチール缶とアルミ缶の区別が、できる (82%) ・ステイオンタブの認知している (24%) ・エアゾール缶の処分方法 <ul style="list-style-type: none"> ①使いきる (67%)、②穴を開ける (53%) <p><包装について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・過剰包装と思うことがある (全体) (88%) ・大型小売り店での包装の仕方は、自家用の買い物である限りは、もっと簡易でよいと考えられている。ただし、便利さを拒否するところまではしていない。 ・過剰包装の多い店 (全体) <ul style="list-style-type: none"> ①デパート、衣料雑貨売り場 (64%) ②デパート、食料品売り場 (50%) ③衣料、バック、靴の専門店 (43%) ④スーパー (33%) ・包装の断り方 (全体) <ul style="list-style-type: none"> ①自家用の物は断る (87%) ②最初の売り場でのみもらう (85%) ③小さい商品はシールのみ (84%) ・包装が必要でない物 (全体) <ul style="list-style-type: none"> ①売り場ごとの紙袋 (55%) ②食品用トレーとラップ (49%) ③デパートの商品別包装 (47%) ④本屋で本にカバーをかける (45%) ・包装が必要な物 (全体) <ul style="list-style-type: none"> ①陶器等の包み (96%) ②プレゼント用のラッピング (86%) ③サニタリー商品の袋 (81%) ④雨の日の使い捨てかさ袋 (77%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステイオンタブという名称はまだあまり認知されていない。 ・日本古来の「包む文化」をどの程度どの様に生かしていくか。 ・デパートなどで簡易包装が進められているが、まだまだ過剰包装が多いというイメージを強く持たれている。 ・自家用の物であれば、包装は簡単でよいと思いつながらも、ギフト、プレゼントなど「見栄え」のための包装やスーパーでもらうビニール袋、かさの袋等「便利さ」の拒否には至っていない。

3章 環境問題に対する意識

1.生活環境問題への関心

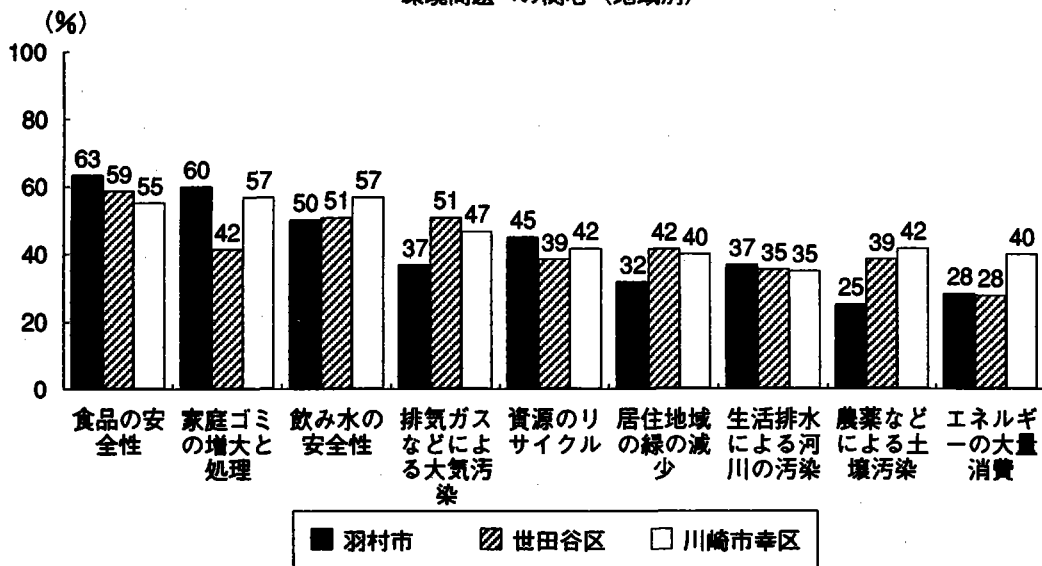
・生活環境問題に対する関心（「とても関心がある」）は、全体では「食品の安全性」（59％）「ごみの増大と処理」（52％）「飲み水の安全性」（52％）が上位3項目である。生活排水への関心は下から3番目と低い。

環境問題への関心（全体）



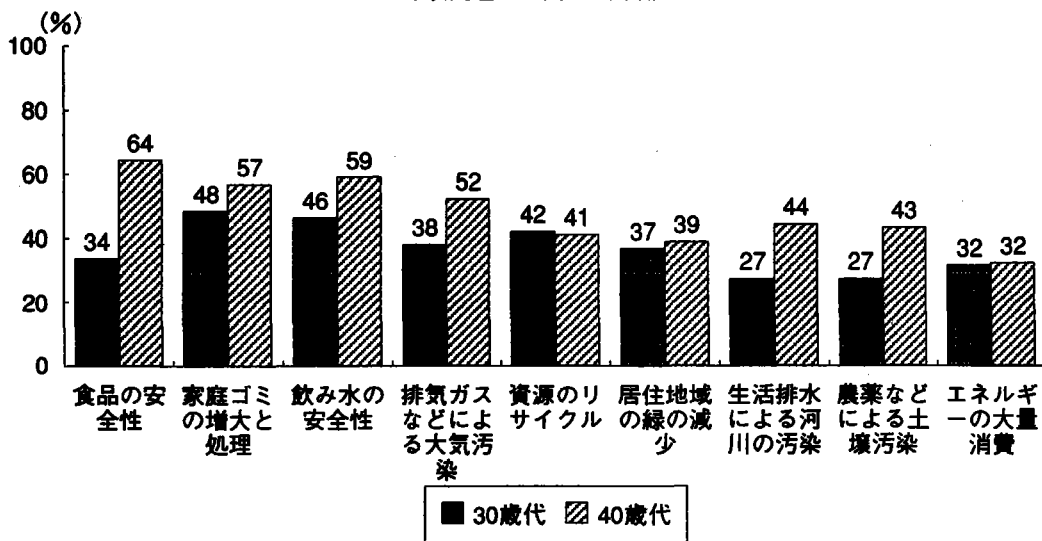
- ・地域別では、羽村では食品、ゴミ、飲み水への関心は高いが、大気汚染、緑、土壌汚染については他の地域より低くなっている。世田谷では食品、飲み水に次いで大気汚染が第3位になっている。ゴミへの関心は他の地域より低い。川崎の上位3項目は羽村と同様、食品、ゴミ、飲み水であるが、大気汚染も高い。

環境問題への関心（地域別）



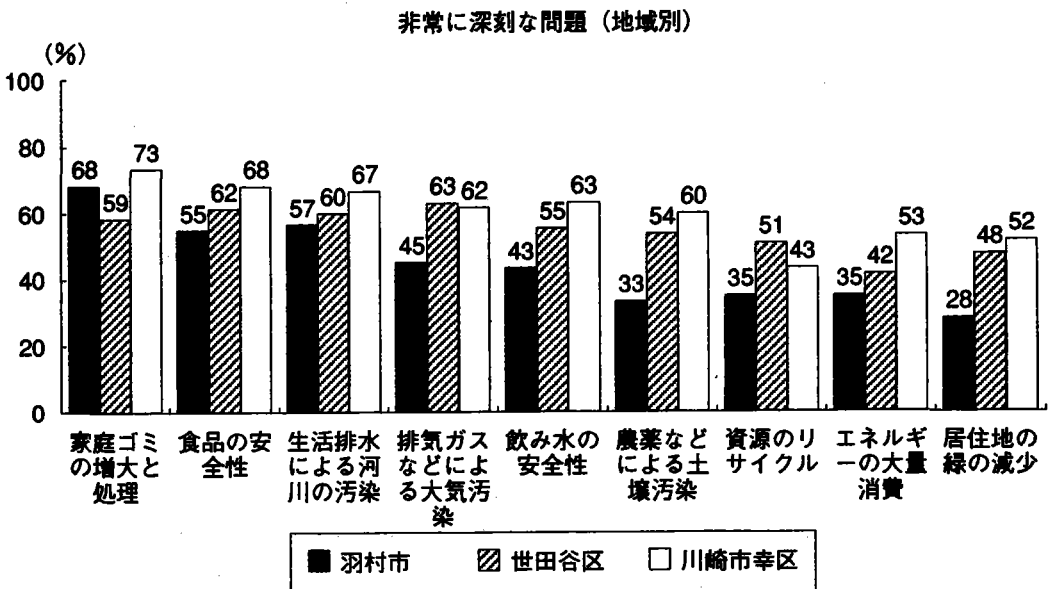
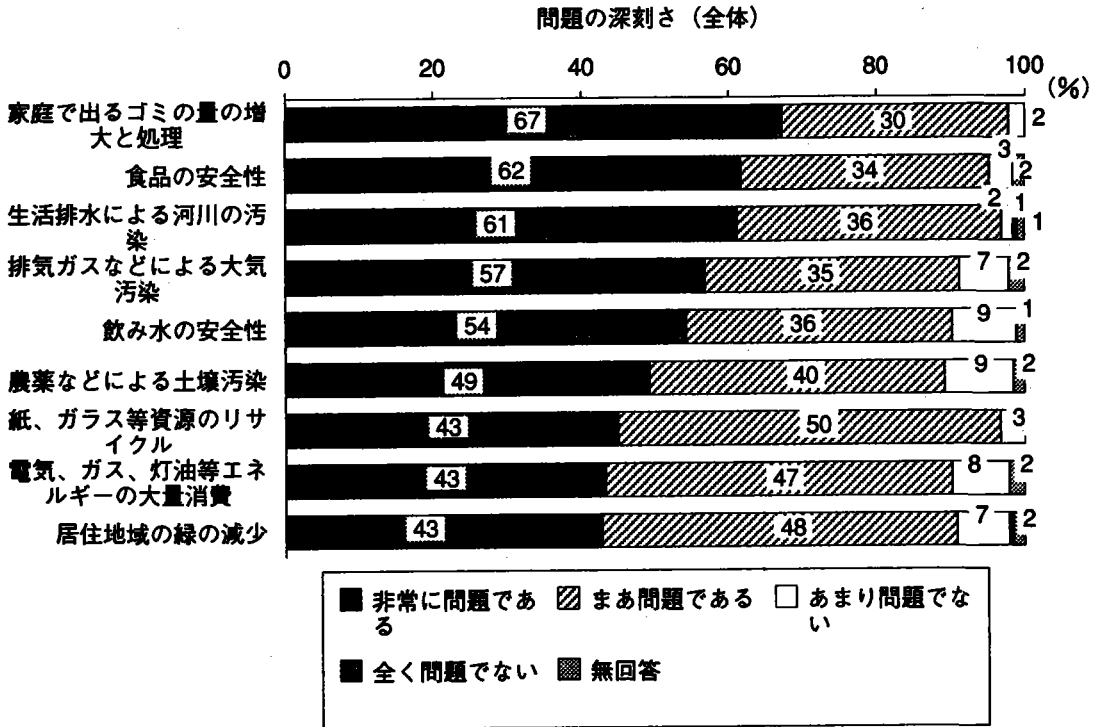
- ・就労別では全般にパートタイマー主婦の方が専業主婦より高い項目が多い。
- ・生協加入の有無では、加入者は食品の安全性への関心が最も高く、次いで飲み水、ゴミ、資源のリサイクルの項目が高く、いずれも非加入者に比べて高い。
- ・年齢別では、全般に30歳代より40歳代の方が関心の高い項目が多い。差が顕著なのは、食品、生活排水、土壌、大気汚染、飲み水などである。

環境問題への関心（年齢別）



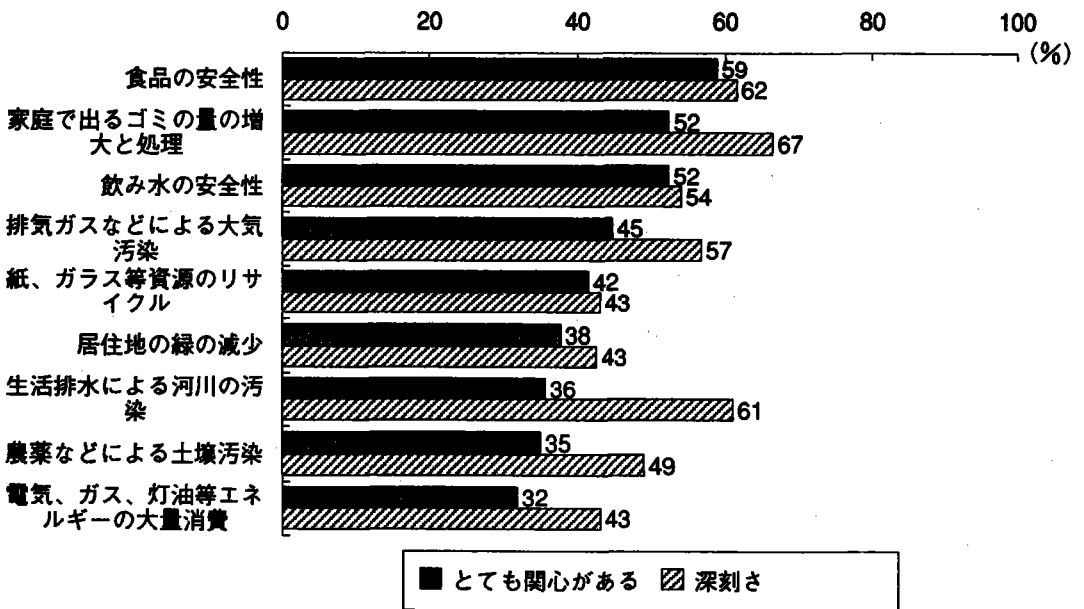
2.問題の深刻さ

- ・それぞれの問題について、それらがどれくらい深刻であるか尋ねたところ、全体で「とても深刻である」が最も高いのは「家庭で出るゴミの量の増大と処理」(67%)、次いで「食品の安全性」(62%)「生活排水による河川の汚染」(61%)となっている。
- ・地域別では羽村は他の地域よりゴミを除いて全般に低い項目が多い。



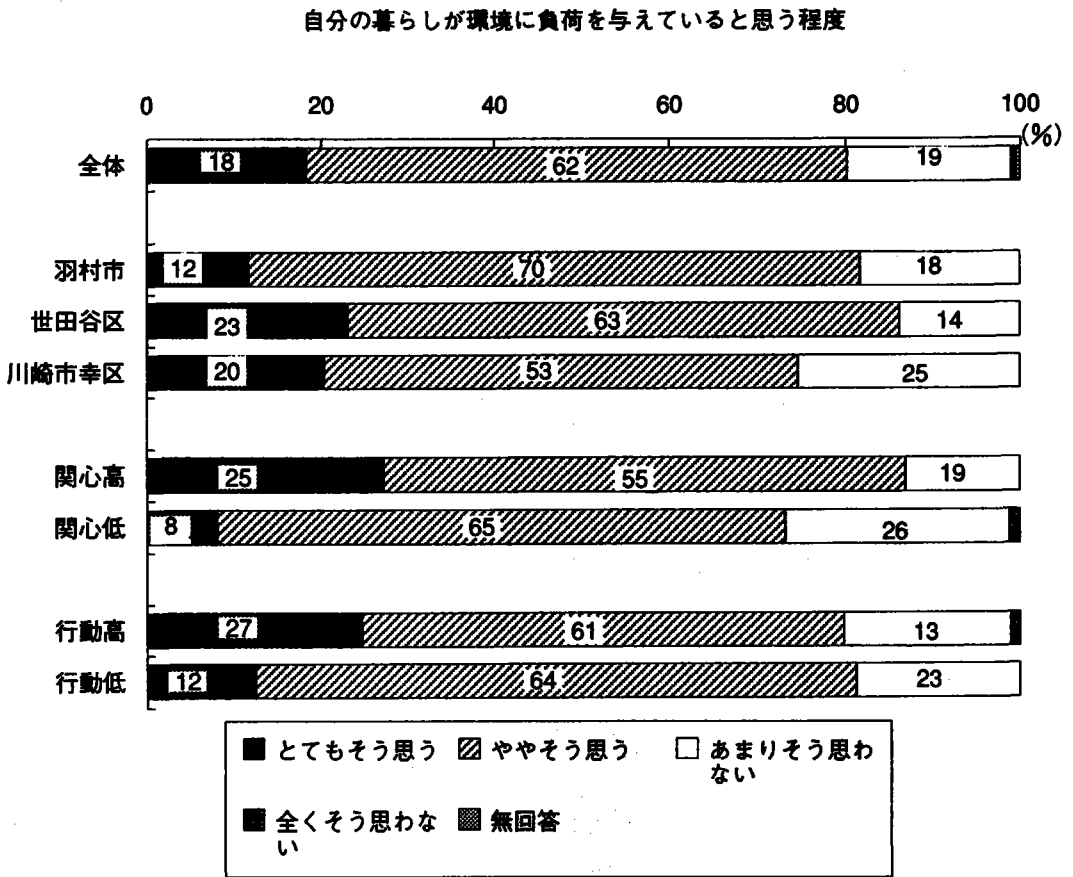
・各々の項目について、「とても関心がある」と「非常に深刻な問題である」を比べてみると、全般に、深刻さの方が高い項目が多い。
 特に、生活排水についてはゴミや食品の安全性に次いで「非常に深刻だ」と思う率が高いが、「とても関心がある」項目としては下から3番目である。

関心と深刻さの関係（全体）



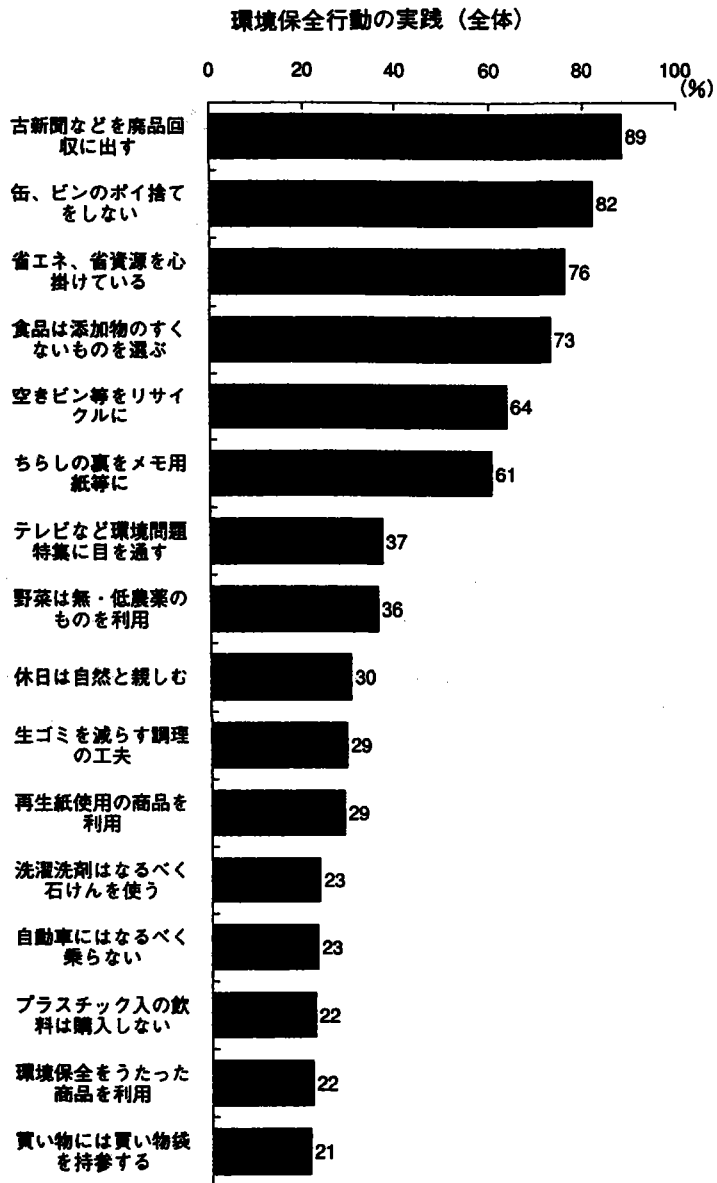
3.環境への負荷

- ・自分たちの暮らしが環境に負荷（悪い影響）を与えていると思っている率は「ややそう思う」までを含めると、全体で8割がそう思っている。
- ・地域別では羽村と世田谷は8割を超えているが、川崎は7割でかつ「あまりそう思わない」率も25%ある。ただし、「とてもそう思う」だけを取り出してみると、羽村が一番低い。
- ・環境関心度や行動度別では、「とてもそう思う」は、いずれも高いグループの方が高い。



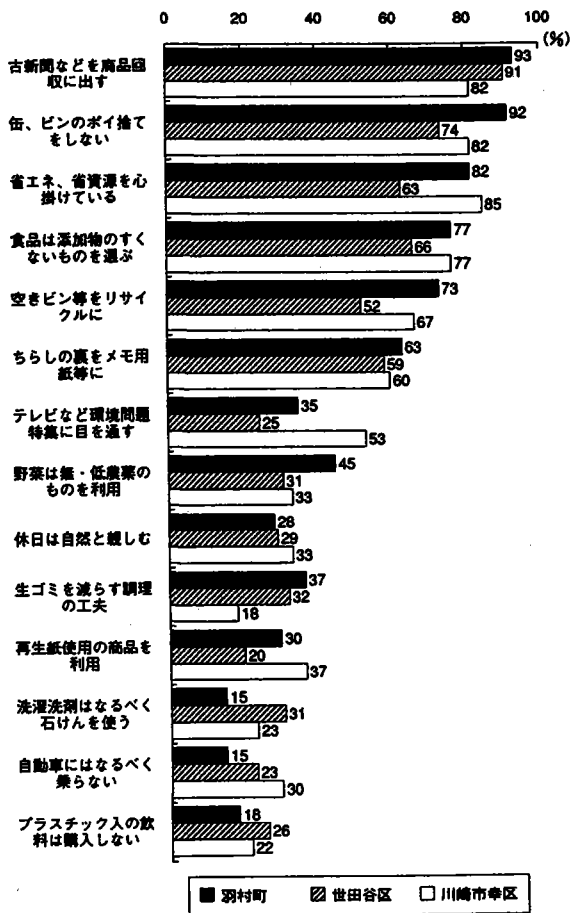
4.環境保全行動の実践

・では、実際にはどのような環境保全のための行動をとっているのだろうか。全体で6割を超えているのは「古新聞、古雑誌のリサイクル」「缶、ビン、たばこのポイ捨てはしない」「省エネルギー、省資源にこころがける」「食品は添加物の少ないものを選ぶ」「空きビン、缶をリサイクル」「チラシの裏をメモに」の6項目である。購買行動に関する項目では、「環境保全をうたった商品を利用」が2割強となっている。

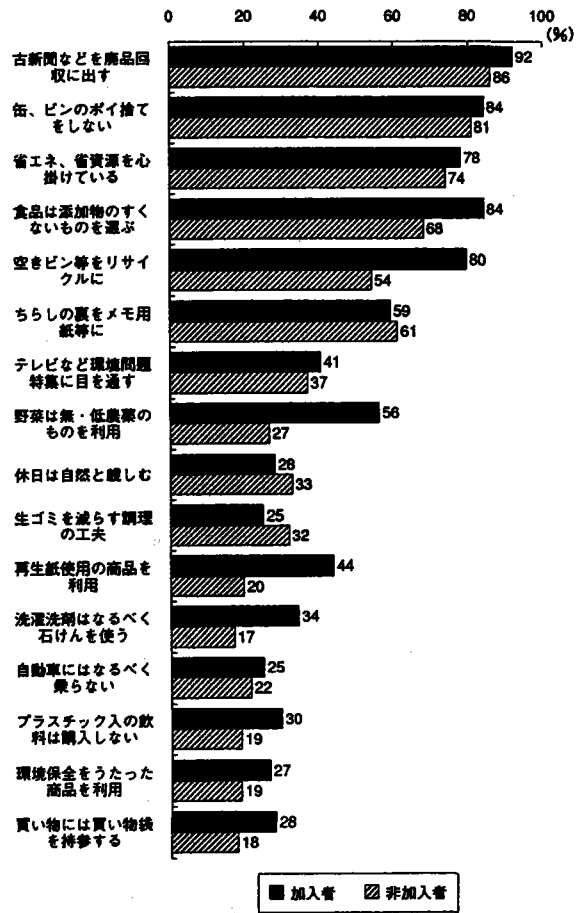


- ・地域別では、世田谷で他の地域より低い項目が多い。世田谷は関心の高い人は最も多いのに、実際の行動は低いという結果になっている。
- ・生協加入の有無では、加入者と非加入者の差が大きい項目としては「食品は添加物の少ないものを選ぶ」「空きビン等をリサイクルに」「野菜は無・低農薬のものを利用」「再生紙使用の商品を利用」「洗濯洗剤はなるべく石けんを使う」などがある。

環境保全行動の実践（地域別）

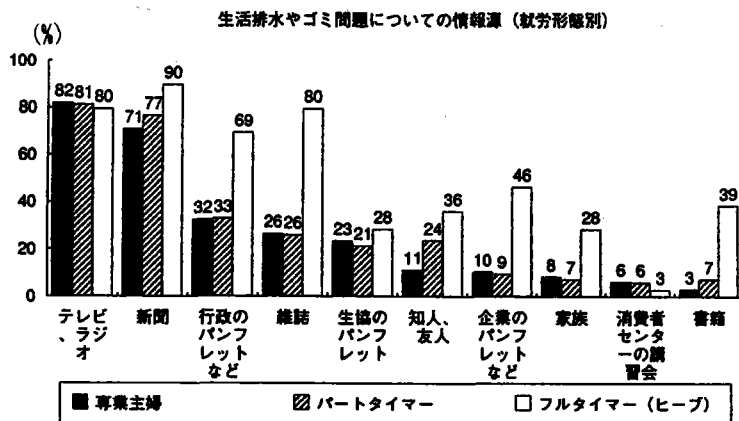
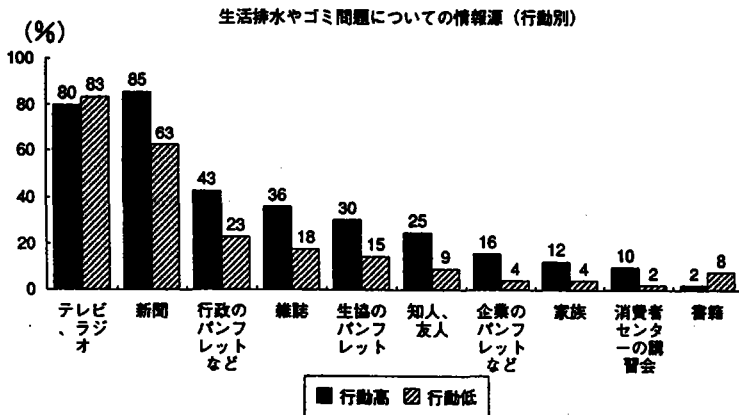
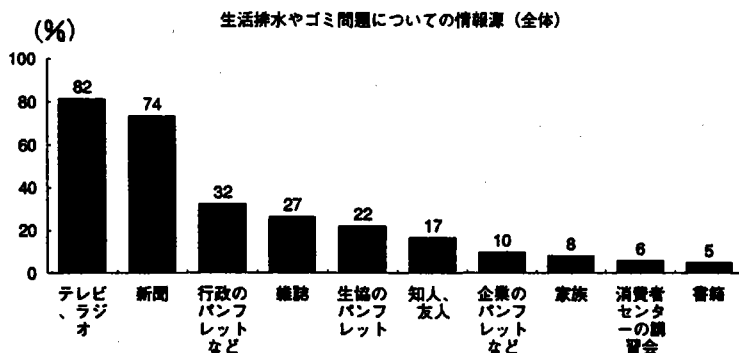


環境保全行動の実践（生協加入の有無）



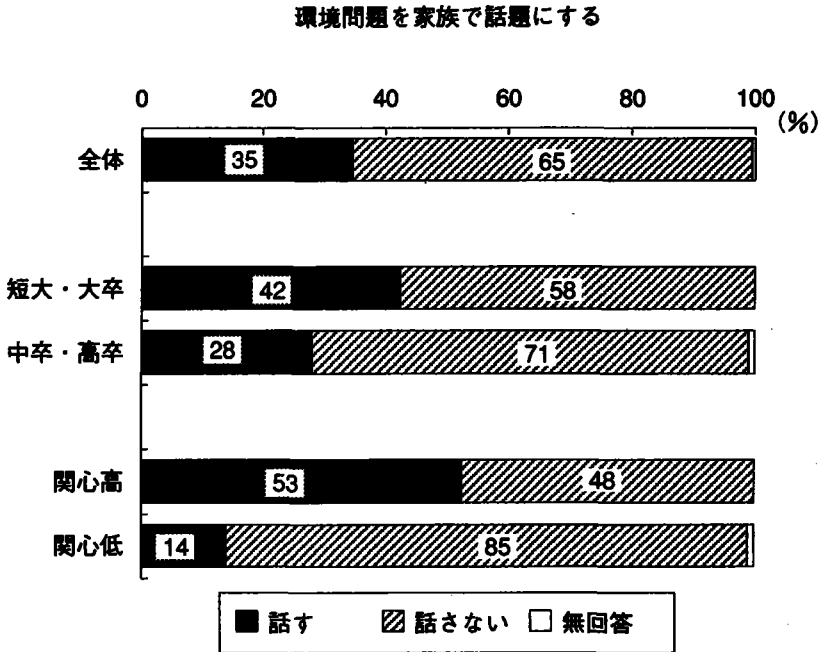
5.情報源

- ・生活排水やゴミ問題についての情報を何から得ているか尋ねたところ、全体ではテレビ・ラジオ、新聞というマスコミ情報が2大情報源（約8割）であった。次いで高いのが「行政が作成するパンフレットや広報紙・誌」（32%）。一方、「企業や業界団体が作成するパンフレットや広報紙・誌」は10%と低い。
- ・就労別ではフルタイマー（ヒープ）は、全般に多くのメディアから情報を得ている。特に他の属性と差が大きいものは雑誌、書籍、行政のパンフレット、家族などで、いずれも高い。



6. 家族との話し合い

- ・家族で環境問題を話題にしている家庭は、全体で3割強である。地域別には差が見られない。
- ・学歴別では短・大卒は42%が家族と話をしている。
- ・環境関心度の高いグループでは53%が話をしている。

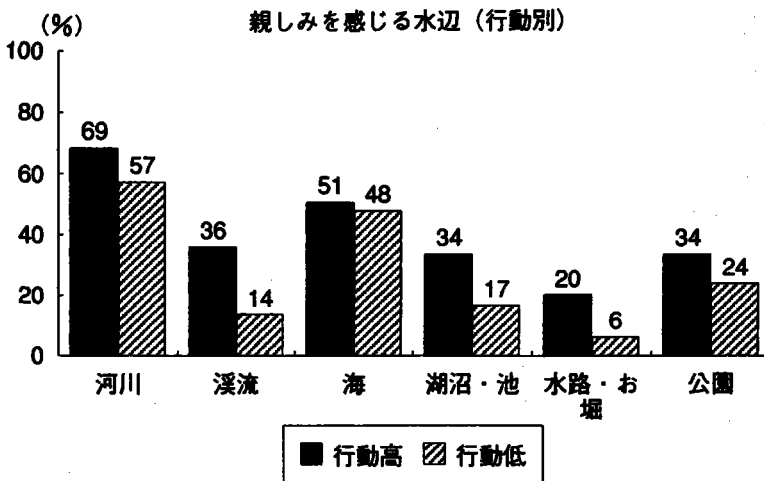
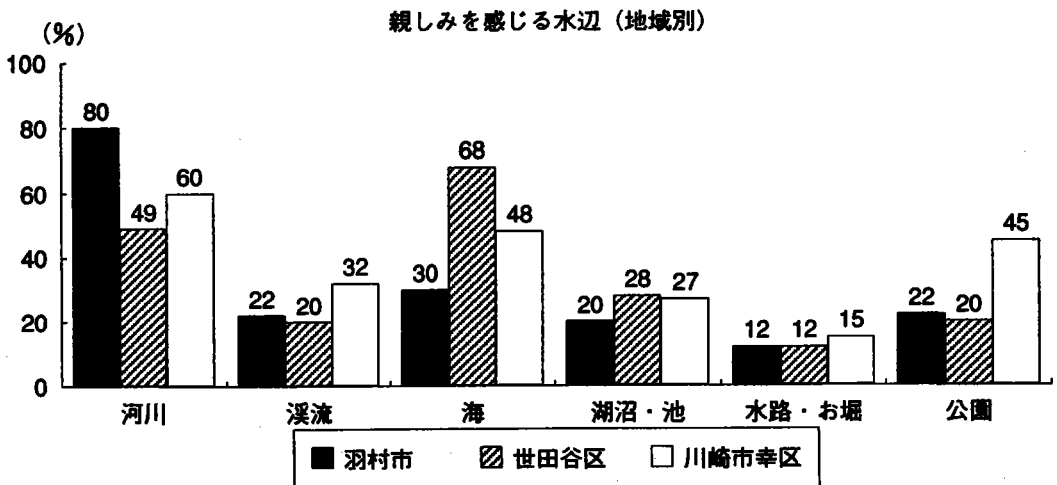


4章 水と暮らし

1. 親しみを感じる水辺

この章では、川、海など水辺から飲料水、下水まで水とわたしたちの暮らしのかかわりを調査の結果から見てみたい。

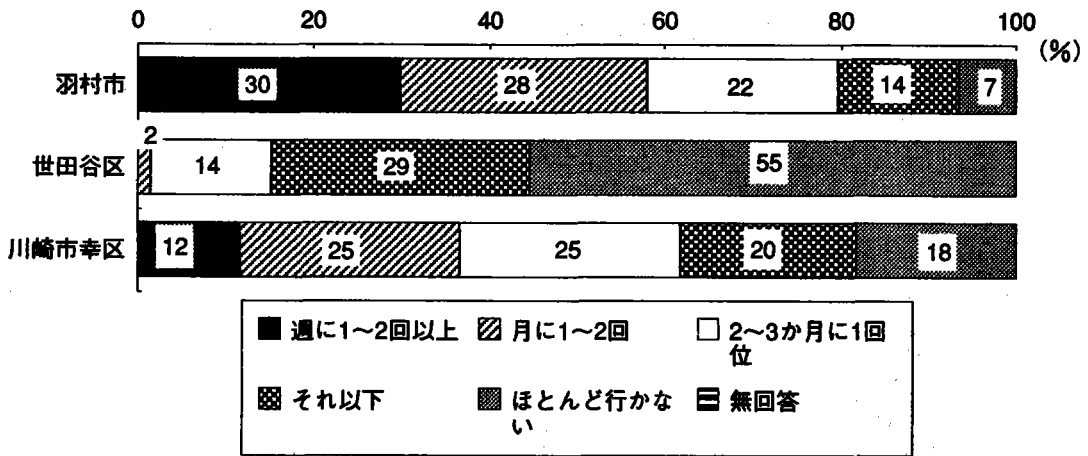
- ・まず、親しみを感じる水辺について尋ねたところ、地域別でかなり差があった。羽村は河川へ親しみを感じる人が8割にのぼる。美しい川辺に住んでいる人にとっては川はまだ親しい存在であることがわかる。世田谷は海への親しみが最も高く、次いで河川への親しみが高い。川が見えない所に住んでいる人にとっては川は必ずしも親しい水辺ではないことがわかる。川崎では河川に次いで海への親しみが高いが、公園の水辺への親しみも4割以上である。
- ・環境保全行動度の高い人の方が全般に水辺に親しみを感じる率が高い。溪流・滝、湖沼・沼での差が大きく、この人たちが自然と親しい様子がうかがわれる。



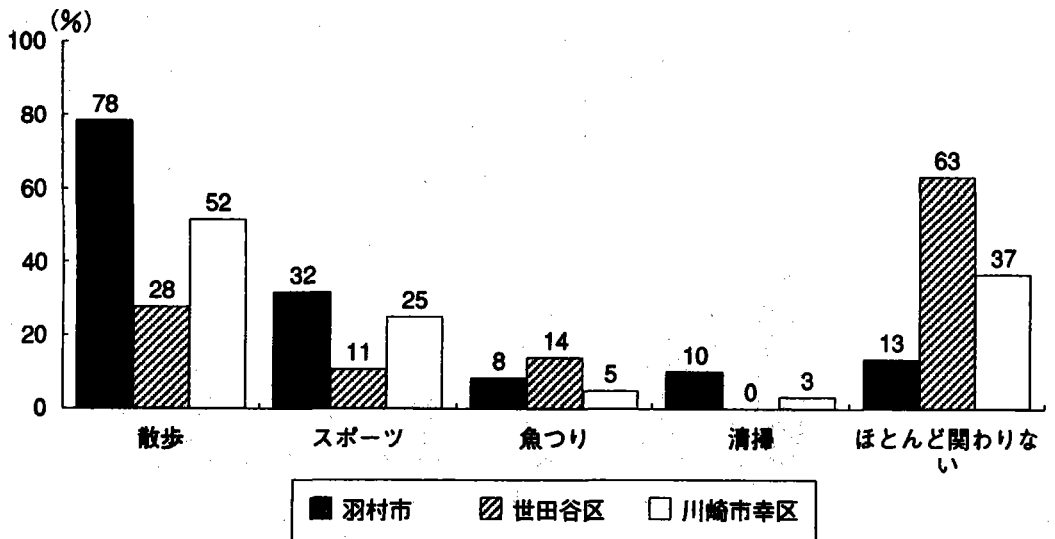
2.多摩川とのかかわり

- ・家の近くの川、多摩川へでかける頻度は、羽村の人は3人に一人が週に1回以上でかけている。一方、川に近接していない世田谷ではほとんど行かない人が過半数を占める。
 - ・また、河川とのかかわり方は、羽村では川辺を散歩する人が8割弱に達する。一方、世田谷ではほとんど関わり無いとする人が6割を超えている。
- 子供の年齢でも差があり、末子の年齢の低い世帯の方が、川に散歩やスポーツにでかける機会が多い。

多摩川にでかける頻度



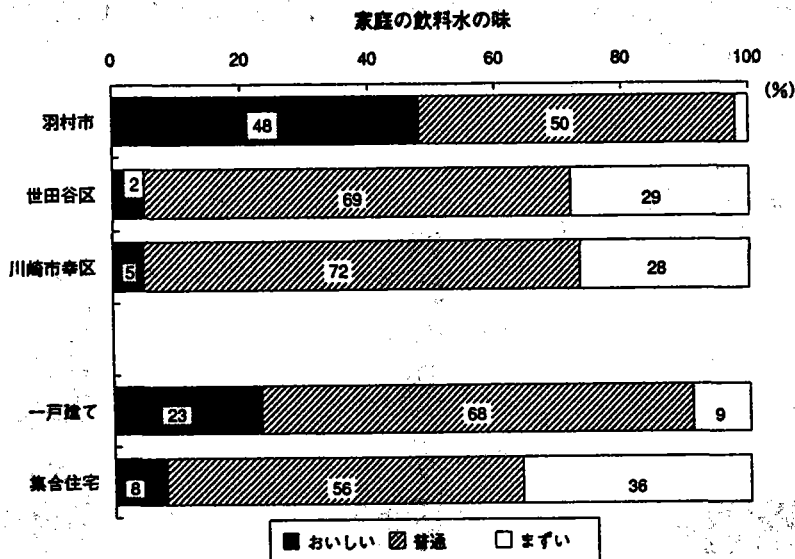
河川とのかかわり方 (地域別)



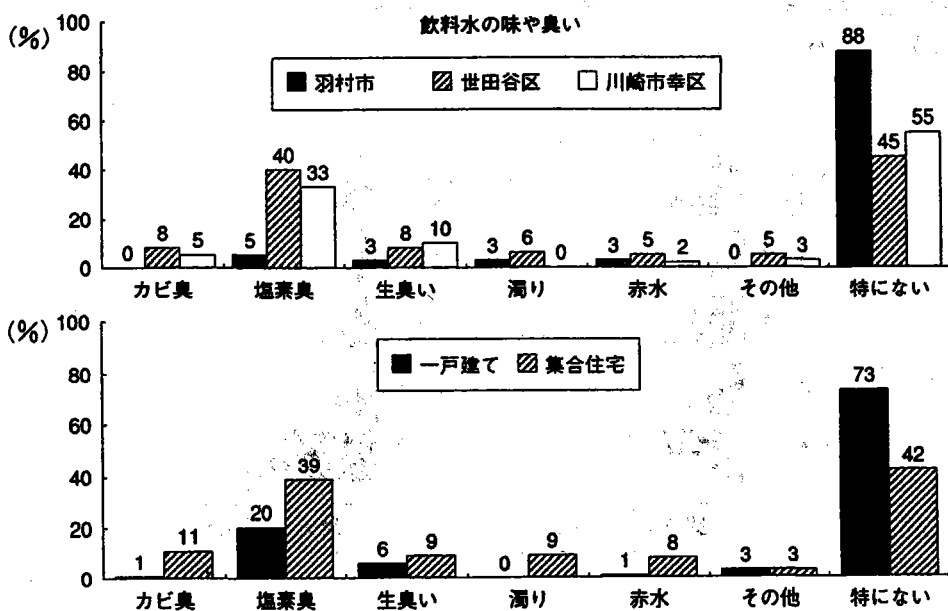
3. 飲み水

(1) 飲み水の味

- 次に、家庭の水道から出てくる飲み水の味や臭いについて尋ねた。羽村は約半数の人が「おいしい」と回答し、「まずい」と答えている人がほとんど無いのに対し、世田谷、川崎は「普通」が過半数、「まずい」が3割近くと味に大きな差がある。

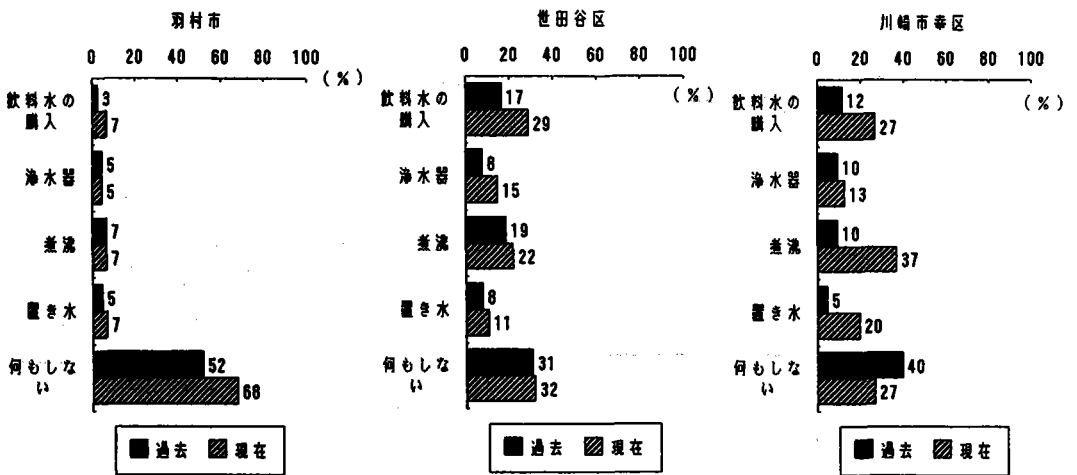


- 臭いについては羽村では「特に無い」が9割を超えるが、世田谷、川崎で「塩素臭がある」とする人が3~4割と水質の実感による差が顕著である。
- 住居形態別では、集合住宅に住んでいる人で塩素臭など色々な臭いや赤水などに悩んでいる家庭が多い。

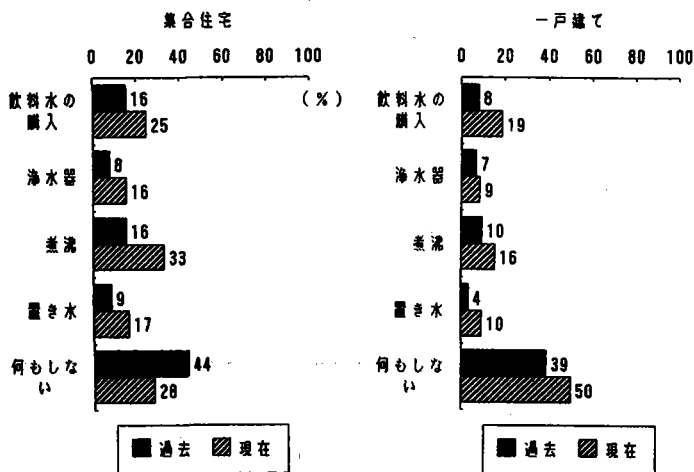


- ・おいしい飲料水を得るためにおいしい水を購入したり浄水器を設置したり、煮沸したりする人が最近増えている。現在どのような対策をとっているかを尋ねてみた。羽村では3人に2人は何もしていない。世田谷は何もしていない人は逆に3人に一人であり、その他の人たちは、おいしい水を購入、煮沸、浄水器を利用するなどしている。川崎では何もしない人は4人に一人。つまり4人に3人は、煮沸、飲料水を購入、置き水などを行っているのである。
- ・過去に行っていたことと現在行っていることを比較すると、羽村では何もしない人が増え、逆に川崎では減った。世田谷では煮沸を行う人は過去と現在であまり増減はないが、川崎ではとても増えている。

おいしい水への対策



- ・住居形態別では、過去も現在も集合住宅に住んでいる人の方が、おいしい飲料水を得るための対策の実施率が高い。特に何もしていない率は集合住宅で過去より15%ほど下がっているが、一戸建では逆に増えている。



(2) 水質検査の結果

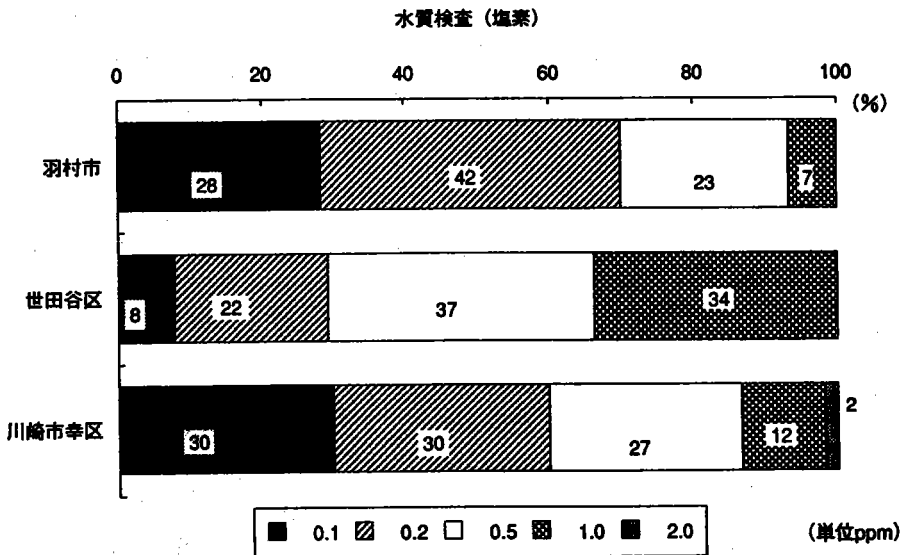
今回の調査では、アンケート調査と同時に「バクテテスト」による水質検査を行った。生活者がふだん感じている味が、果たして水質検査をして数値として現われるものなのか、つまり実感している味と水質の状態の相関を確かめるためである。今回検査をしたのは味とかかわりの深い残留塩素である。

<残留塩素>

水道の中に入れられている消毒用の塩素のことで、日本の水道では0.1mg/l以上検出されれば良いことになっている。

一般的には0.2mg/l (=ppm)～1mg/l(=ppm)の範囲が多い。浄水場での塩素の投入量が少ないと末端ではほとんど検出されなくなり、多いとカルキ臭がきつく、水を飲んでも、お茶にしてもおいしくない。0.4mg/l (=ppm)程度が消毒効果はあり、臭いも気にならないといわれているが、原水の汚れている地域では安全性を重視してもっと高濃度になっている。

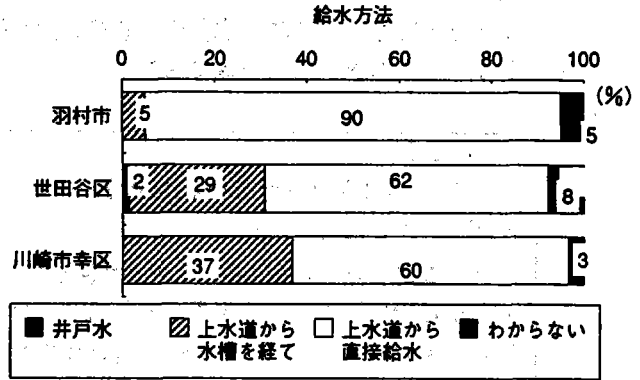
- ・今回の水質検査結果では、図のように塩素は水質基準の安全性の範囲であるが、実感の塩素臭と同じような傾向を示していることがわかる。
- ・世田谷では濃度が高い家庭が多い。また、臭いが気になる0.5ppm以上の家庭が羽村で30%、世田谷で71%、川崎で40%ある。これは、先に述べた飲み水のおいしさ、まずさと相関していることが分かる。



(3) 給排水の方法

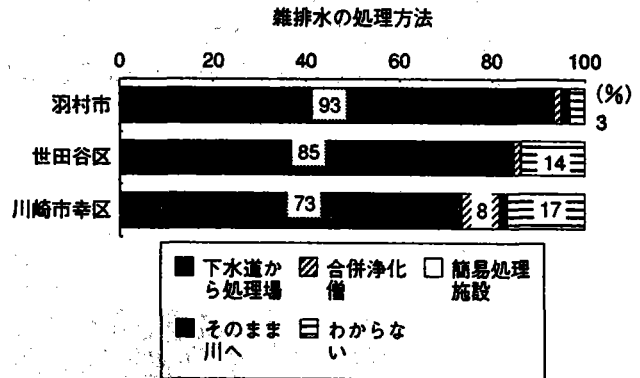
a. 飲み水の給水方法

- 羽村では、上水道からの直接給水が90%を占め、世田谷、川崎の60%前後と比較すると高い。



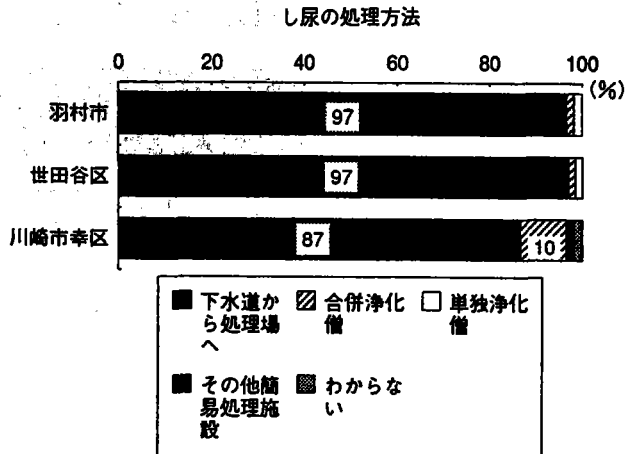
b. 雑排水の処理方法

- 川崎では、合併浄化槽が他地域よりやや多い。また、雑排水の処理の方法がわからないという人が、世田谷で14%、川崎で17%いる。



c. し尿の処理方法

- 川崎で、合併浄化槽が他地域よりやや多い。



5章 生活雑排水に関する行動実態

この章では、生活雑排水に関する実態行動を細かくみてゆく。

東京都の調査（注1）によれば、東京都での平成元年度一日当りの汚水排出量は626万mである。東京都民は、一人一日当たり約250 lの水を利用しており、その大部分が汚水として排出されている。東京都でも下水道など処理施設が未整備の家庭が12%ほどあり、そこから排出された生活雑排水は、そのまま河川や海に流れこんでいる。

また環境庁の調査（注2）によれば、東京湾の汚濁負荷量（COD）一日当たり413 tのうち、工場などの産業系は3割だが、家庭の台所、風呂、トイレ等から出る生活系の排水による汚れが7割を占めている。（図1）

家庭からの生活雑排水について一人一日当りの汚濁負荷量（BOD）は平均で43gである。そのうち法律で義務づけられているし尿を除いた風呂や台所から出る生活雑排水の汚濁負荷量（BOD）は30gと生活排水全体の70%となっている。（図2）つまり生活雑排水による負荷が今や河川の汚染の最大の原因となっているのである。

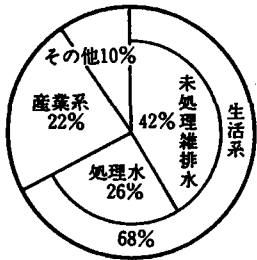
その生活雑排水のなかでは、炊事による排水が最も汚れており55%を占めている。次いで風呂（30%）、洗濯（13%）と続いている。（図3）

このような現状をふまえ、水質汚濁の大きな要因である生活雑排水についての行動を「炊事」「入浴」「洗濯」などを中心に行動の実態をとらえた。また、省資源、省エネルギーという観点から節水についてもあわせて尋ねた。

注1) 環境トピックシリーズNo.4「生活排水」東京都 平成3年3月

注2) パンフレット「なぜ今生活排水対策か!？」環境庁 平成3年

図1 東京湾の汚濁負荷量



BOD（生物学的酸素要求量）

水中の有機物が微生物の働きによって分解されるときに消費される酵素の量で、河川の有機汚濁を測る代表的指標

COD（化学的酸素要求量）

水中の有機物を酸化剤によって化学的に分析したときに消費される酸素の量で、湖沼、海域の有機汚濁を測る代表的な指標

図2 生活排水中の汚濁負荷割合

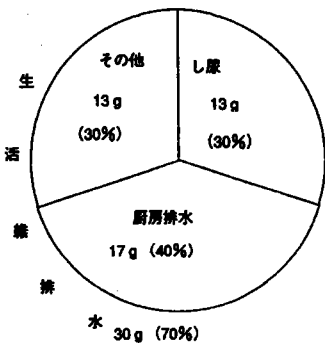
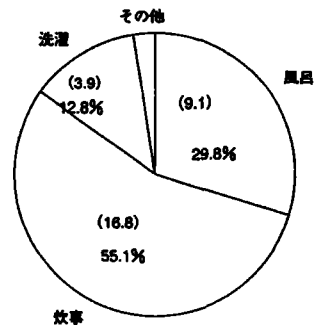
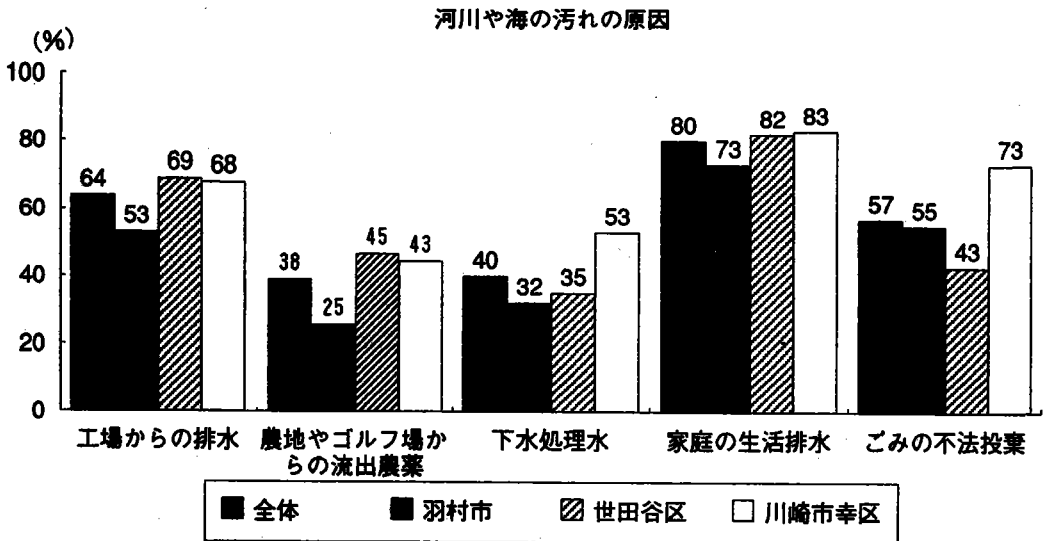


図3 生活雑排水中の汚濁負荷割合 (BODg/人・日)



1.河川の汚染原因

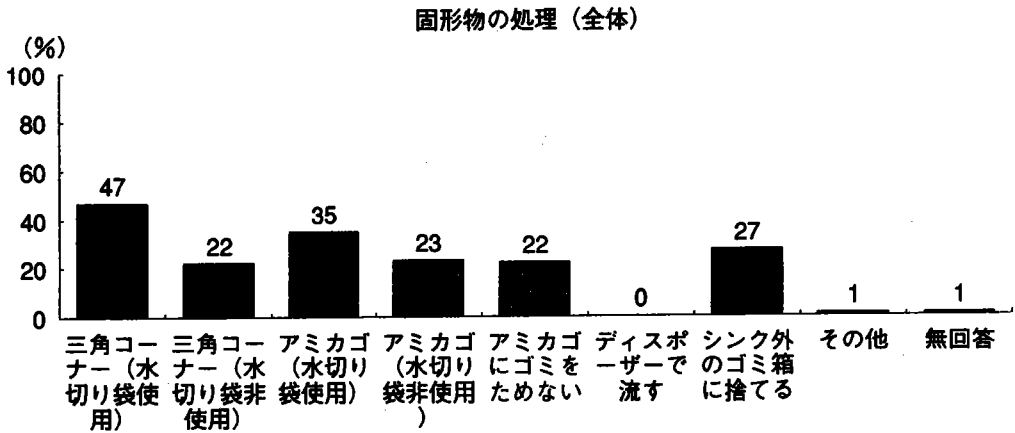
- ・まず、河川や海の汚染原因としてどのようなものを認識しているか尋ねてみた。全体では「家庭の台所や浴室から流出した生活排水」が80%と最も高く、次いで「工場からの排水」(64%)「ごみの投げ捨てや不法投棄」(57%)と続く。
- ・地域別では羽村はごみの不法投棄を除いた各項目で他の地域より低い。川崎では生活排水、ごみの不法投棄、工場排水、下水処理場から排出される処理水の順であげられており、特にごみの不法投棄と下水処理水が他の地域より高くなっている。
- ・東京都や環境庁の調査結果より、工場排水やゴミの不法投棄が意識では高い率になってはいるものの、生活者自身、自分たちの排出している生活雑排水がその最も大きな原因であることを認識していることがわかった。



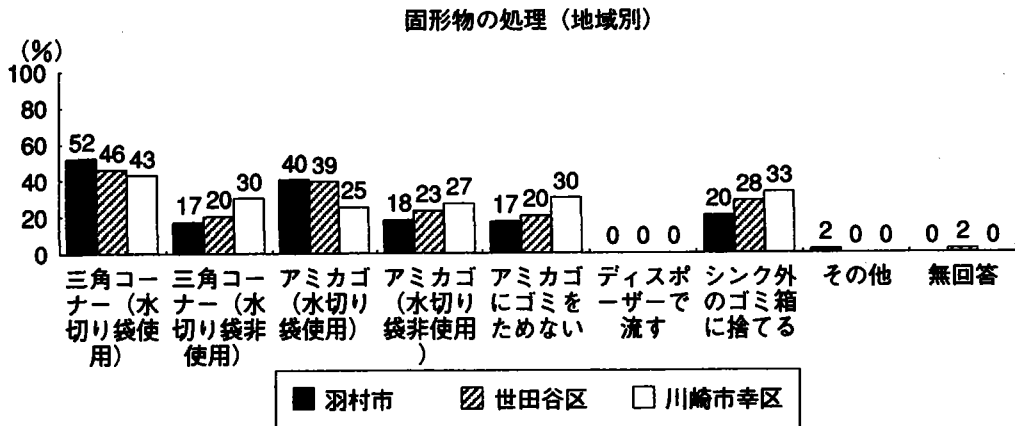
2.炊事とのかかわり

(1) 固形物の処理

- 調理くずや食べ残しなど固形物の処理に三角コーナーを使用している人は全体の69%である。水切り袋を使用している人は、三角コーナー使用者の中の68%、アミカゴ使用者の60%となる。
- 環境を意識して（P 48 参照）三角コーナーを使用している人は全体の62%、環境を意識して水切り袋を利用している人は57%であり、ほとんどの人が環境を意識してこの行動をとっていることがわかる。

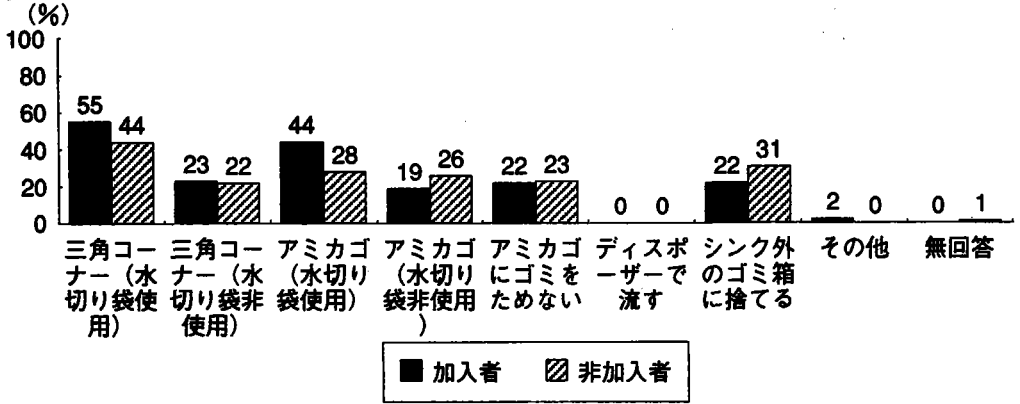


- 地域別では、三角コーナーの使用では差は見られない。水切り袋の使用は羽村が最も高く、世田谷、川崎の順に低くなる。アミカゴにごみをためないようにしていたり、シンクの外のごみ箱に捨てるようにしている人は、逆に川崎が最も高く、世田谷、羽村の順で低くなる。



・生協加入の有無では、三角コーナーの使用者は加入者78%、非加入者66%となり、加入者の方が高い。水切り袋使用者は、三角コーナー使用者ではあまり差がないが、アミカゴ使用者では加入者の70%、非加入者の52%と加入者の方が高い。

固形物の処理（生協加入の有無）



＜生活者の声＞

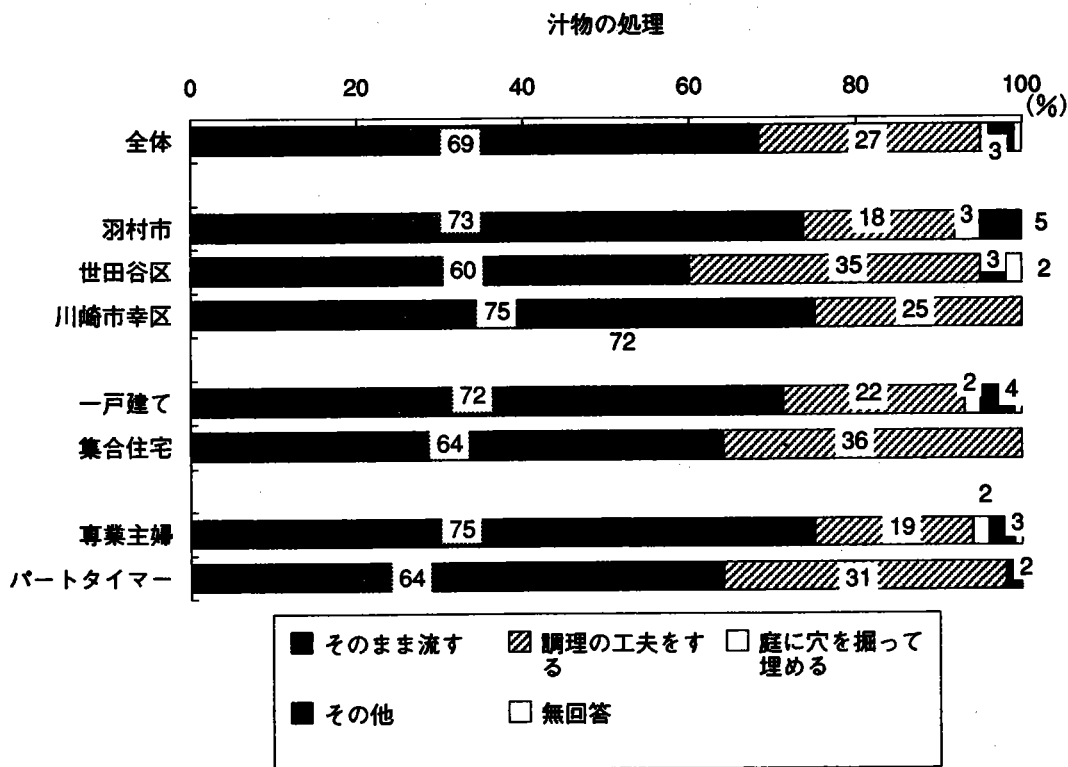
* 固形物の処理について

- ・古いストッキングを使って、細かいゴミが出ないようにしている。
- ・アミカゴにさらに袋をかけたいのだが、そうすると水切れがすごく悪くなり不便に思う。もっと水切れの良いゴミ取り袋を開発してほしい。

注) 生活者の声とは、アンケート調査で自由に記入していただいた意見の抜粋である。

(2) 汁物の処理

- ・全体ではそのまま流している人が69%と高い。
- ・地域別では世田谷は他の地域より調理の工夫をする人が多く、そのまま流す人が少ない。
- ・就労別では専業主婦は調理の工夫をする人が少なく、そのまま流してしまう人が多い。
- ・就労形態別では、専業主婦の方がパートタイマーより調理の工夫をしている人が少なく、そのまま流している人が多い。
- ・住居形態別では、集合住宅の方が一戸建てに比べ、調理の工夫をしている人が多く、そのまま流している人が少ない。



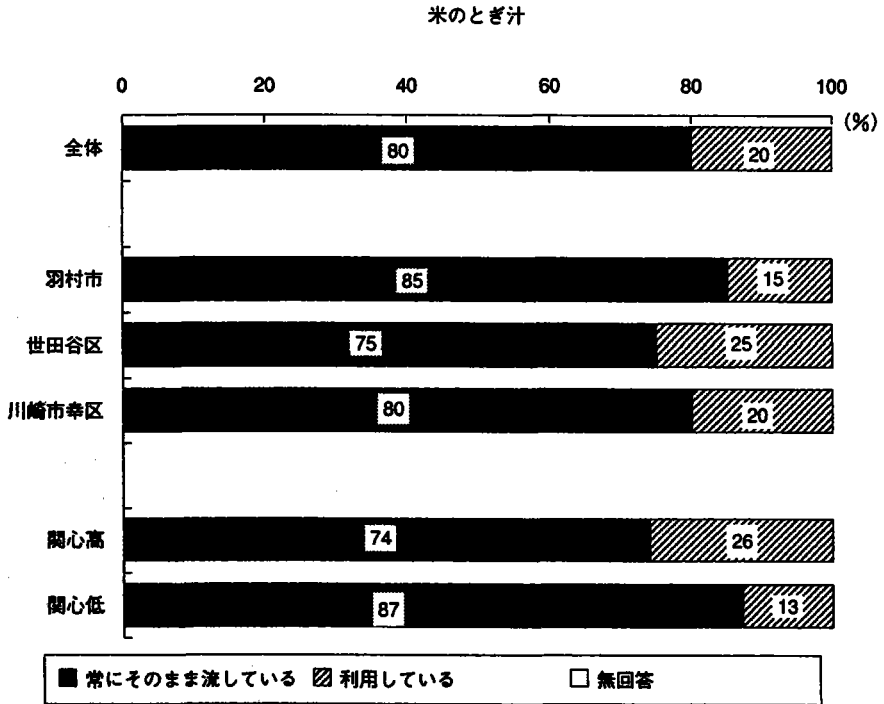
<生活者の声>

*汁ものの処理について

- ・集合住宅に住んでいるので、汁の余りなど流しに流すほかなく、心が痛む。

(3) 米のとぎ汁の処理

- ・全体では常にそのまま流す人が80%と多い。
- ・環境関心度別では関心の高いグループの方が、そのまま流す率は低い。
- ・地域別、就労形態別による差は特に見られない。



＜生活者の声＞

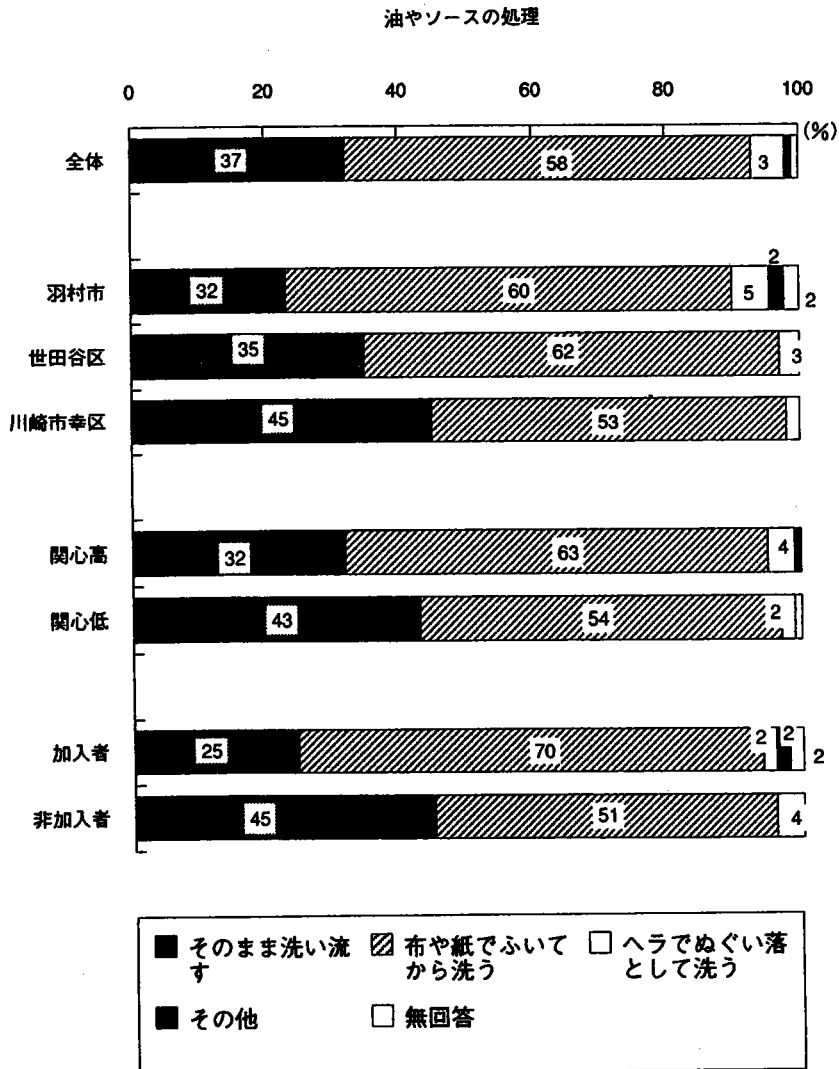
***米のとぎ汁の使いみち**

- ・畑にまく、庭にまく、植木にやる (34人)
- ・調理に使う (4人)

- ・最近、お米のとぎ汁がいかに河川を汚しているのを知り、びっくりしたが、全部流さずに利用するのは難しい。知ってはいるけれどどうもできないことが多いと思う。
- ・米のとぎ汁やぬか漬のぬかなど流す度に心が痛む。庭もなくなすすべがない。それをくぐらせれば水がきれいになるような布、紙など発明してほしい。
- ・米のとぎ汁を流さないようにするといってもマンションやアパートの人はできないし、庭があったとしても、その手間を考えると難しいのでは。

(4) 皿、なべのソース等の汚れの処理

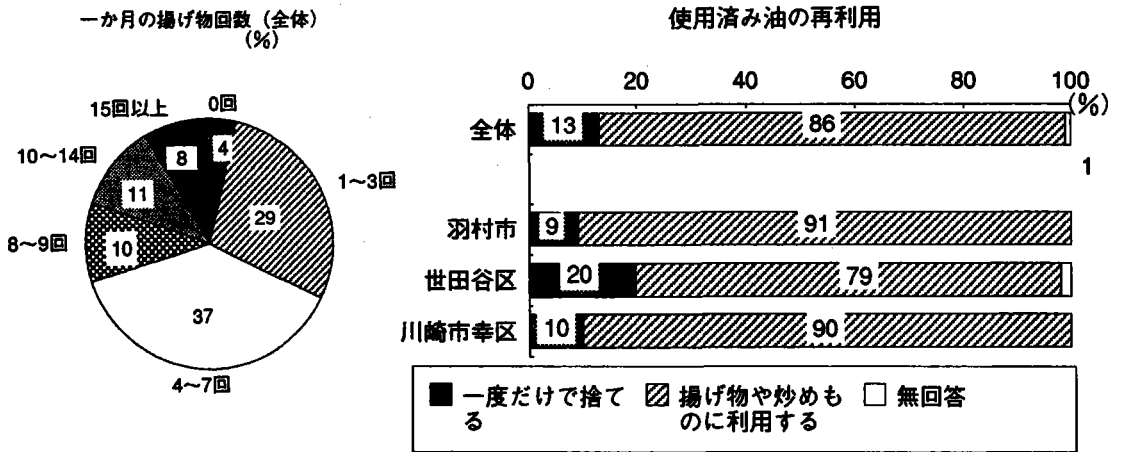
- ・全体では、そのまま洗い流すと答えた人は37%で、残りの62%の人が何らかの工夫をしてから洗っている。
- ・地域別では、川崎でそのまま洗い流している人が多い。
- ・環境関心度別では、関心の高い人の方がそのまま流す人が少ない。
- ・生協加入の有無では、加入者の方がそのまま流す人が少なく、ふいてから洗う人が多い。



(5) 油の処理方法

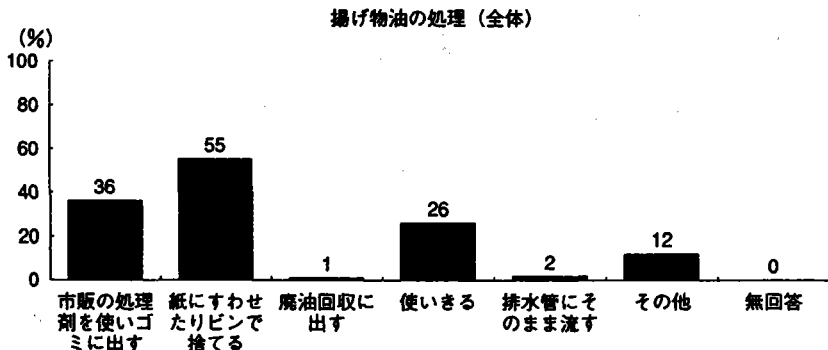
a. 油の利用

- ・揚げ物の回数は、全体でバラつきがあるが、平均すれば月に6.2回である。月に一度以上揚げ物をする人(177人)を対象とすると、そのうち油を揚げ物や炒めものに再利用している人は86%と高い。残りの人は一度使っただけで油を捨てているということになる。
- ・地域別では、世田谷で1度だけの使用で捨ててしまう人が20%で他の地域より多い。

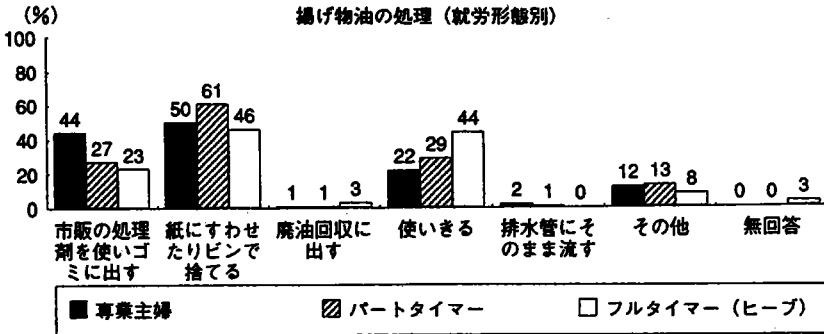
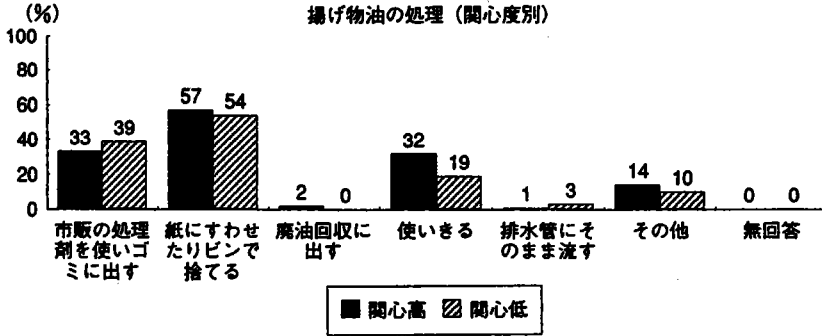
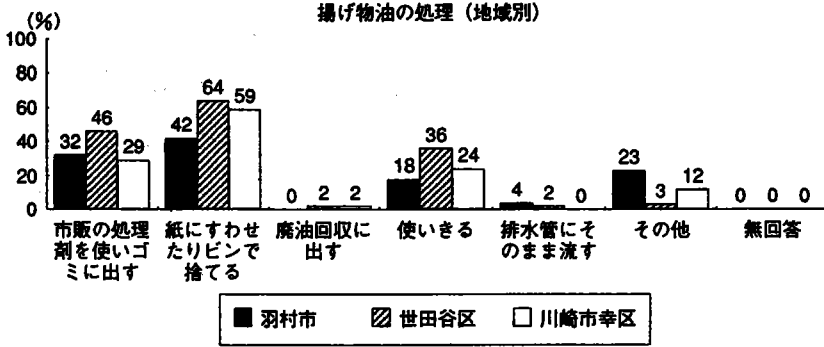


b. 使用済み油の処理方法

- ・月に一度以上揚げ物をする人(177人)のうち、使用済み油の処理に何らかの工夫をしている人は98%であるが、未だにそのまま流してしまう人も2%ほどいる。
- ・処理方法では、紙などに吸わせたり、ビンに入れてゴミに出すが55%と最も多い。



- ・地域別では、世田谷区で廃油の回収に出す以外の工夫をしている率がいずれの項目でも他の地域に比べて高くなっている。
- ・環境関心度別では、関心の高い人の方が使いきる率が高い。
- ・就労形態別では専業主婦は油処理剤の利用が他の属性より高く、パートタイマーは紙に吸わせたりビンに入れて捨てる人が多い、フルタイマー（ヒープ）は使いきる人が多い。



＜生活者の声＞

*使用済み油の処理について

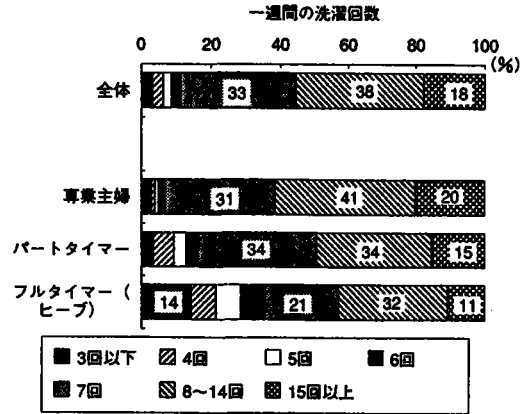
- ・庭に埋める（8人）
- ・自分で燃やす（5人）
- ・せっけんを作る（4人）

・量の多い油を捨てる時、市販の処理剤を使うとその量がたくさんいるし、牛乳パック等に入れると漏れるのではないかと心配になる。

3.洗濯とのかかわり

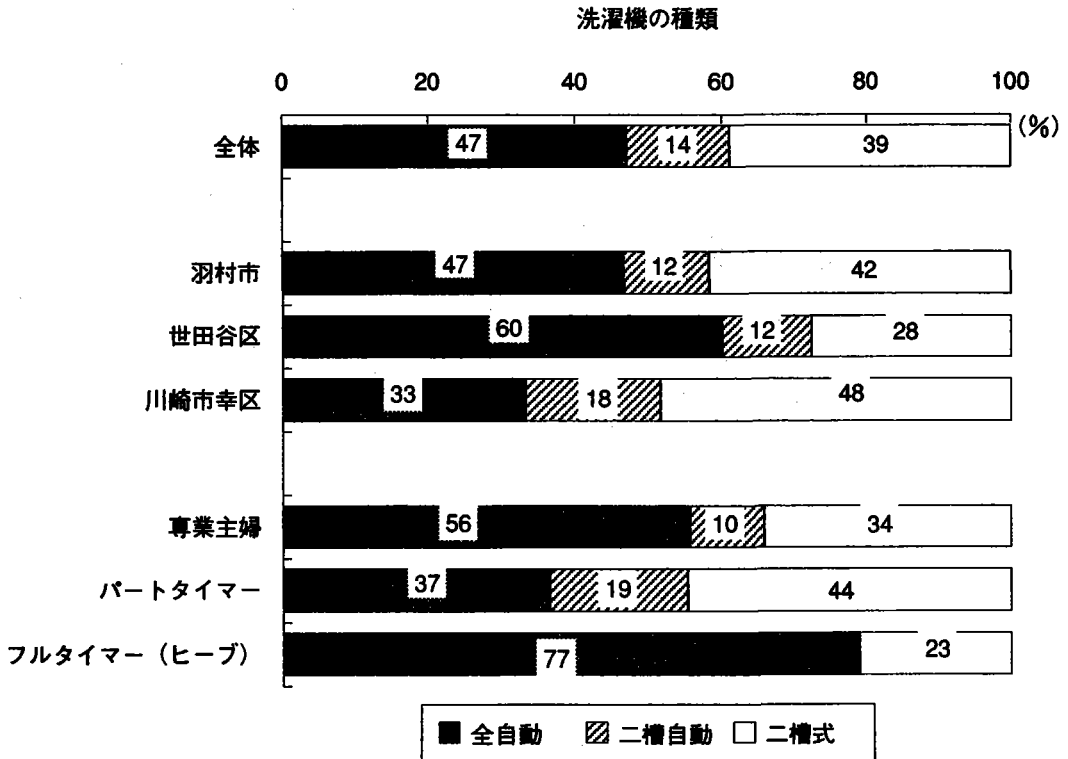
(1) 洗濯回数の実態

- ・全体では、一週間の平均洗濯回数は11回である。
- ・地域別、環境関心度別、環境保全行動別による差は見られない。
- ・就労形態別では、フルタイマー（ヒープ）は他に比べて洗濯回数が少ない。



(2) 洗濯機の種類

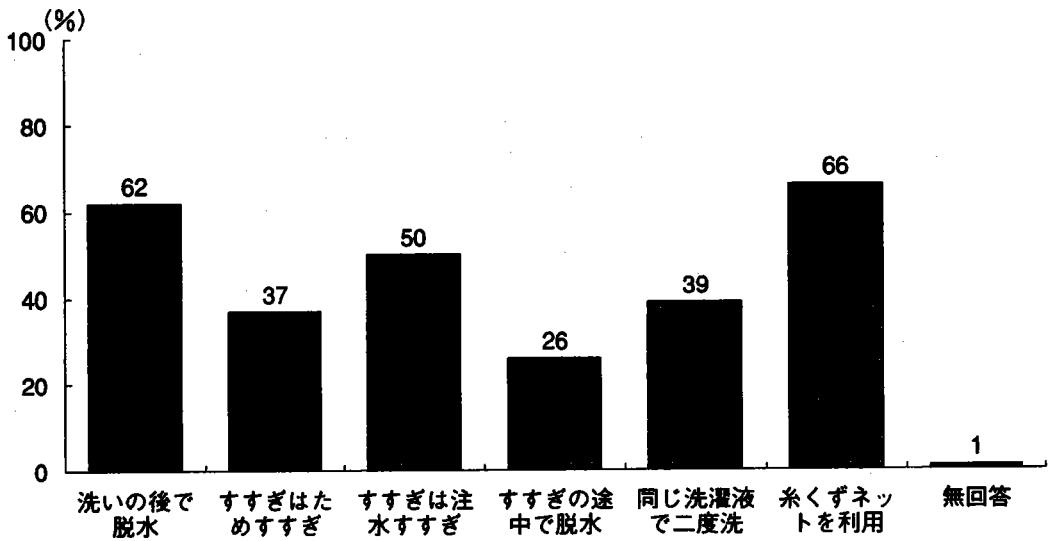
- ・全体では、全自動洗濯機の保有が47%で一番多い。
- ・地域別では、世田谷は全自動、川崎は二層式が多く、羽村は半々である。
- ・就労形態別では、全自動はフルタイマー（ヒープ）が最も多い。
- ・環境関心度別では、関心度が高い人ほど二層式が多く、低い人は逆に全自動が多い。
- ・環境保全行動度別も関心度同様、行動度の高い人で二層式が多い。



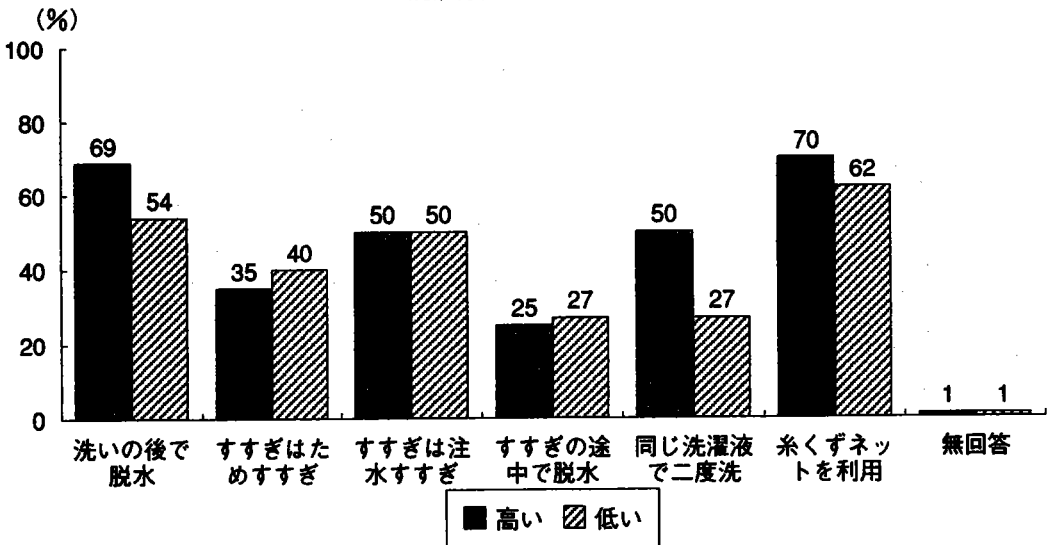
(3) 洗濯方法

- ・洗濯方法について尋ねたところ、全体では糸くずネットを使用している（66%）、洗いの後で脱水をしている（62%）が高かった。すすぎに関しては水の節約になる“ためすすぎ”を行っている人は少ない。
- ・地域別、就労形態別による差は見られない。
- ・環境関心度・行動度別では、共に高い人は洗濯後の中間脱水や洗濯液の二度使いを心がけている。

洗濯方法（全体）

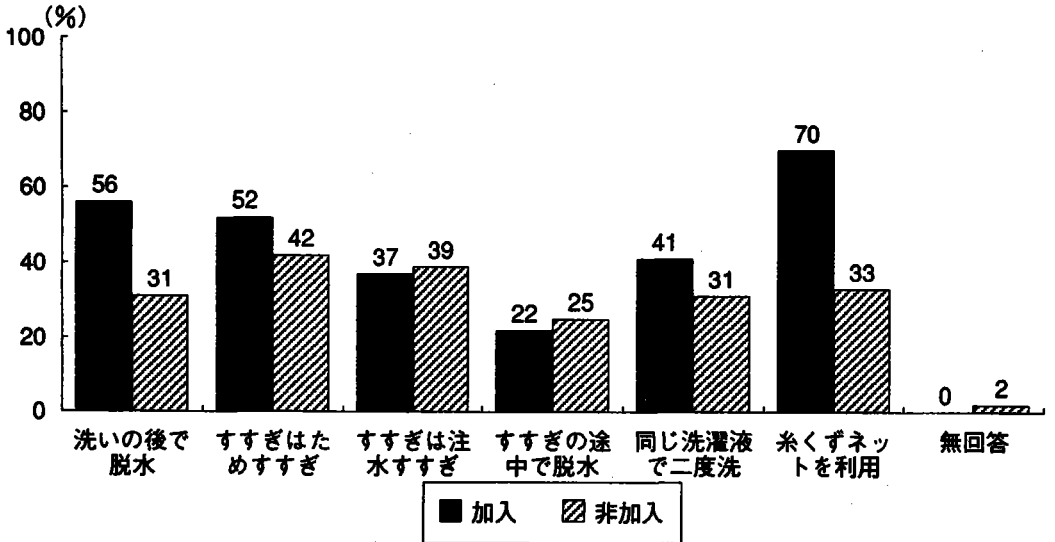


洗濯方法（環境関心度別）



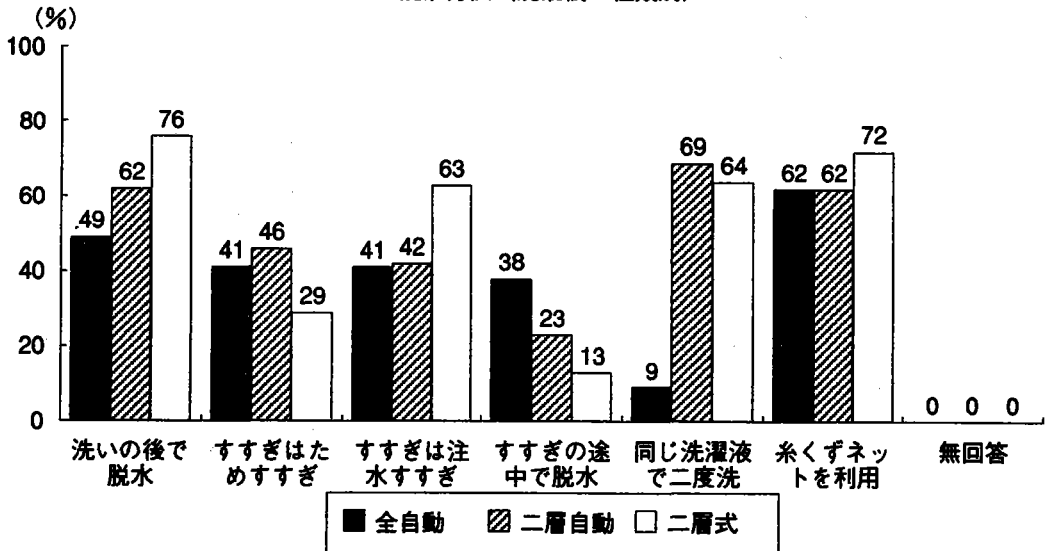
- ・生協加入の有無では、加入者は糸くずネットの使用が高い。また、洗濯後の脱水、ためすぎ、洗濯液の二度使いをしている率が高い。

洗濯方法（生協加入の有無）



- ・洗濯の方法は洗濯機の種類別によるところが大きい。全自動洗濯機において洗濯液の二度使いは9%しかなされていないし、洗いの後で脱水する（49%）も低い。二層式洗濯機ではためすぎを行っている人が少ない。

洗濯方法（洗濯機の種類別）



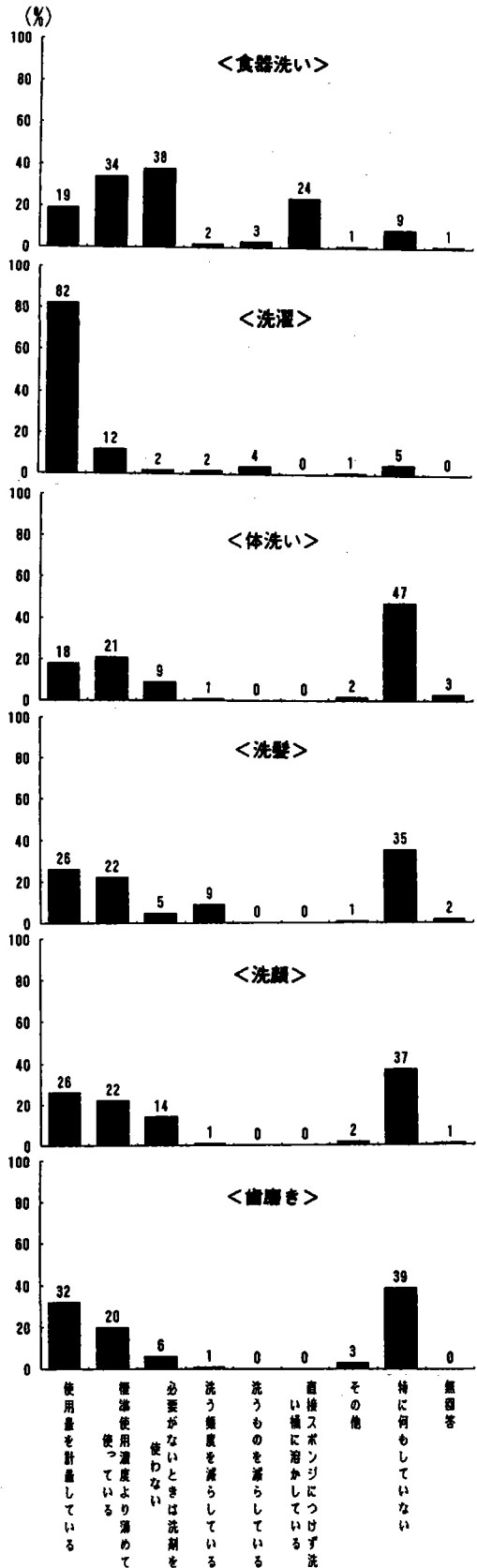
(4) 洗剤を使いすぎない工夫

- ・洗剤を使いすぎない工夫を何らかの方法で行っている人は、食器洗い (90%) や洗濯 (82%) で多い。
- ・一方、体洗い、洗髪、洗顔、歯磨きでは特に何もしていない人がいづれも40%前後いる。
- ・環境を意識して洗剤を使いすぎない工夫をしている人は (P48 参照)、食器洗い (65%)、洗濯 (64%) と、工夫をしている人の3人に2人が環境を意識していることがわかる。

<生活者の声>

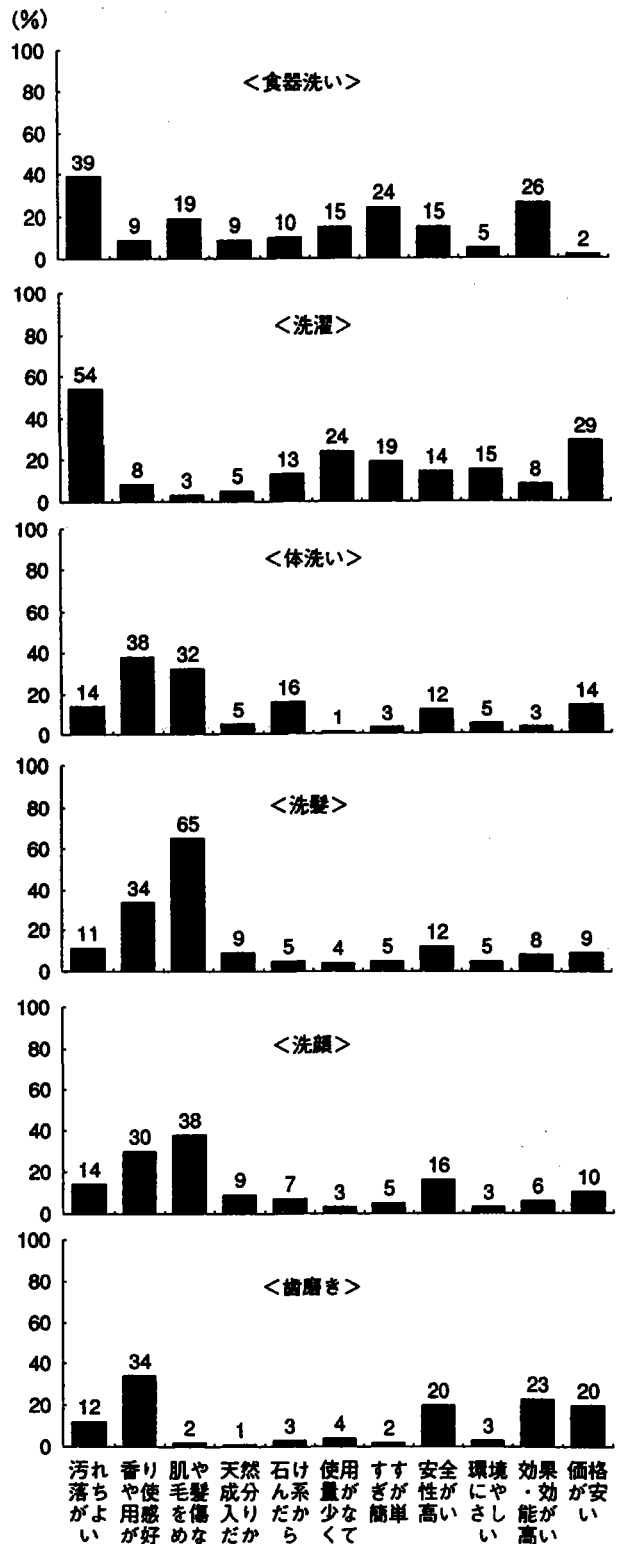
* 洗剤を使いすぎない工夫をしていない理由

- ・余り影響無いと思うから
- ・天然のものだから影響は大きくないと思っている。
- ・そんなに汚れているとは思われないし、行動がきちんとすれば何とかなるのではないかな。



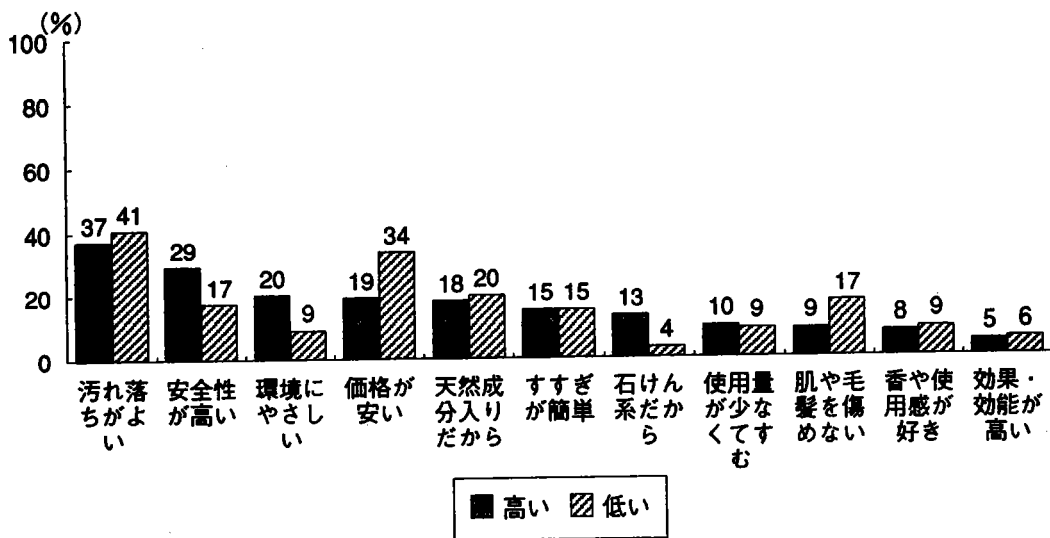
4. 洗剤・洗浄剤の選択理由

- ・洗濯用洗剤から洗顔、歯磨きのよ
うな洗浄剤まで、どのような基準
で選んでいるのか尋ねてみた。
(複数回答)
- ・全体で見ると、食器洗い洗剤も洗
濯用洗剤も、やはり「汚れ落ちが
良い」という本来の性能を最も重
視して選ばれている。2番目に重視
されているのが、価格の安さであ
る。
- ・洗剤・洗浄剤の選択理由に「環境
にやさしい」をあげているのは、
食器洗い用、洗濯用で共に15%前
後。
- ・自分の身体の洗浄については、肌
や毛髪への影響や使用感などが重
要視されている。

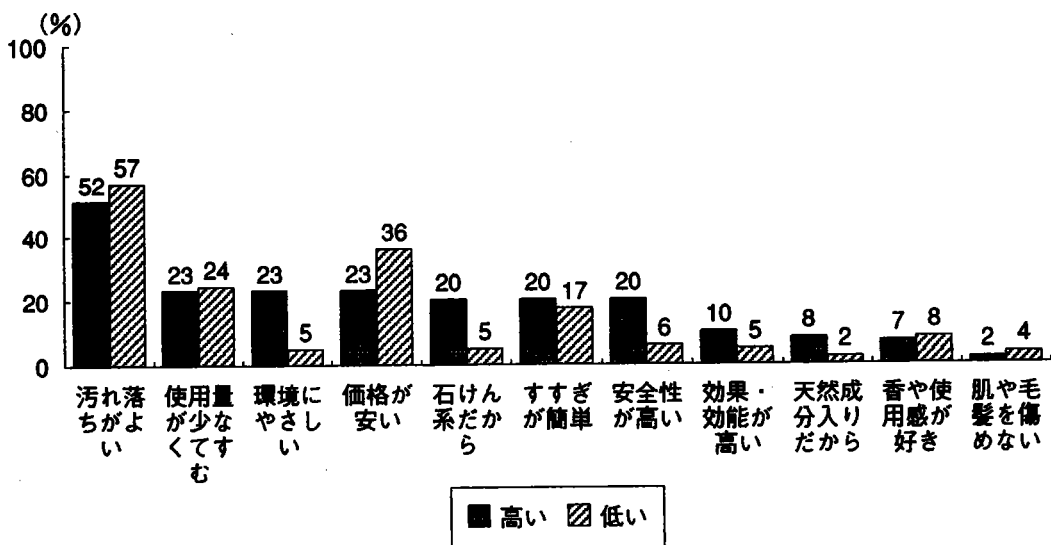


・環境関心度別にみると、関心度の高い人では、食器用洗剤に関しては、まず汚れ落ち（37%）を重視し、次に安全性（30%）、そして環境への優しさ（20%）、価格の安さ（19%）、天然成分入りだから（18%）を挙げている。洗濯用洗剤に関しては、汚れ落ち（52%）では石けん系、少ない使用量、簡単すぎる、安全性、環境への配慮、価格がいずれも2割前後で並んでいる。一方、関心の低い人では、食器用、洗濯用ともに汚れ落ちと価格の安さが2大選択基準となっている。

食器洗い洗剤を選ぶ理由（環境関心度別）



洗濯洗剤を選ぶ理由（環境関心度別）



5.入浴とのかかわり

(1) 入浴の実態

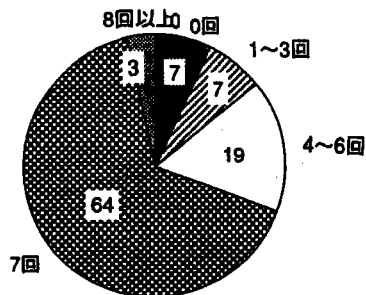
- ・入浴回数は、週に7回入浴する人が全体の64%で、平均5.9回である。シャワーの回数は、週に0回が51%で、平均2.1回である。洗髪回数はばらつきがあるが平均は週に4.4回である。
- ・地域による差はややあるが、特徴的な傾向は出なかった。
- ・就労形態による差は、調査時期が異なるので、季節性の影響があるこの項目については比較しなかった。

(2) 残り湯の活用

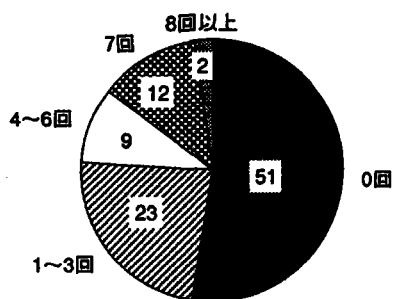
a. 湯はり方法

- ・湯はり方法は、沸かし直しできる設備を持っている世帯は、全体の82%（「蛇口から湯を入れ、追いだきする」と「蛇口から水を入れ、たく」の合計）である。
- ・地域差はとくにみられない。
- ・住居形態別では、沸かし直しできる設備は、一戸建の87%、集合住宅の78%である。

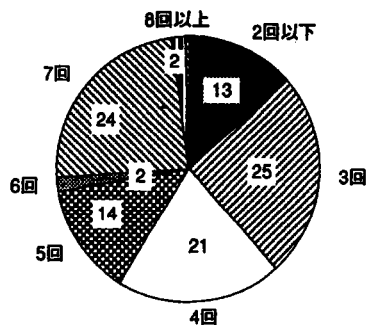
入浴回数（全体）（%）



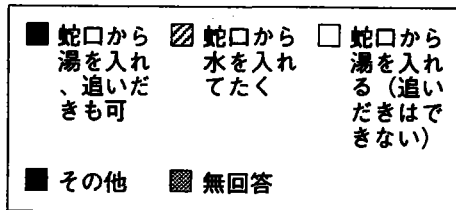
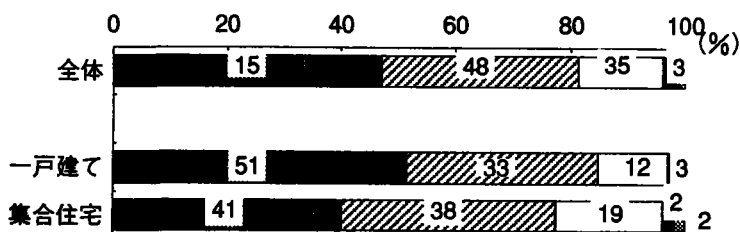
シャワー回数（全体）



洗髪回数（全体）



湯はり方法



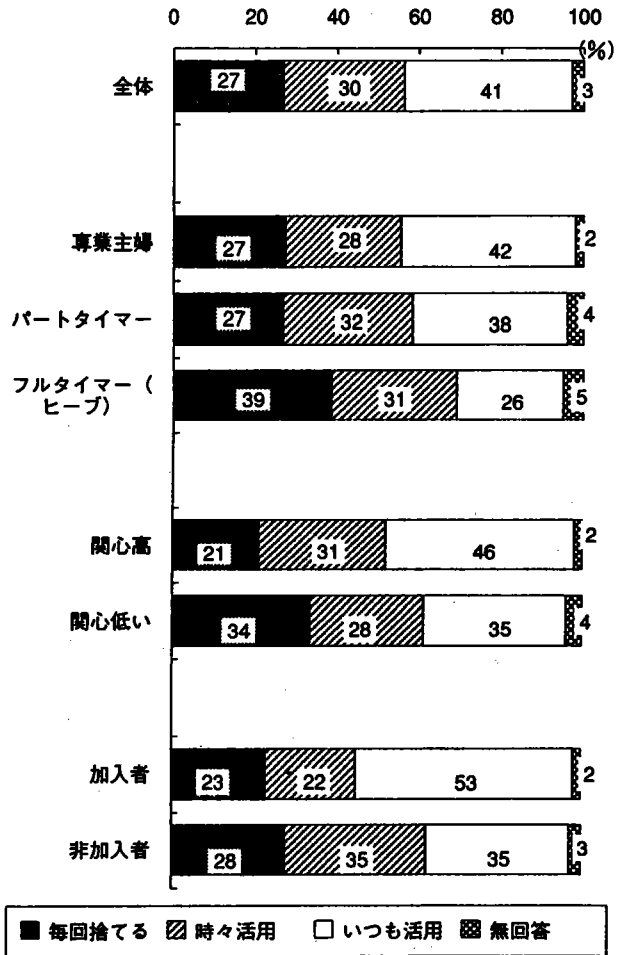
b. 残り湯の活用

- ・全体では71%の人が洗濯や掃除などに残り湯を活用している。
- ・環境を意識して（P 48 参照）残り湯を利用している人は62%である。
- ・地域差は特に見られない。
- ・就労形態別では毎回捨てる人はフルタイマー（ヒープ）に多い。
- ・環境関心度・行動度別では、高い人の方が活用する率が高い。
- ・生協加入の有無では、加入者の方が何らかの活用をしている率が高く、加入者の53%がいつも活用している。

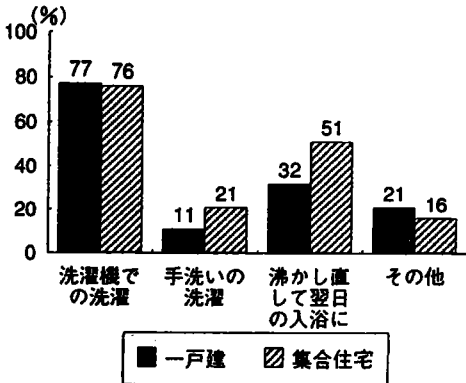
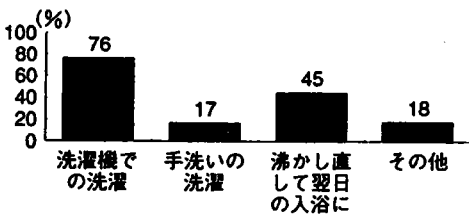
c. 活用方法

- ・残り湯を活用している人のみを対象とし（130人）活用方法を尋ねたところ、76%が洗濯に利用している。
- ・居住形態別では、一戸建てで沸かし直して翌日の入浴に使う人が多い。

残り湯の活用



残り湯の活用方法 (全体) (N=130)

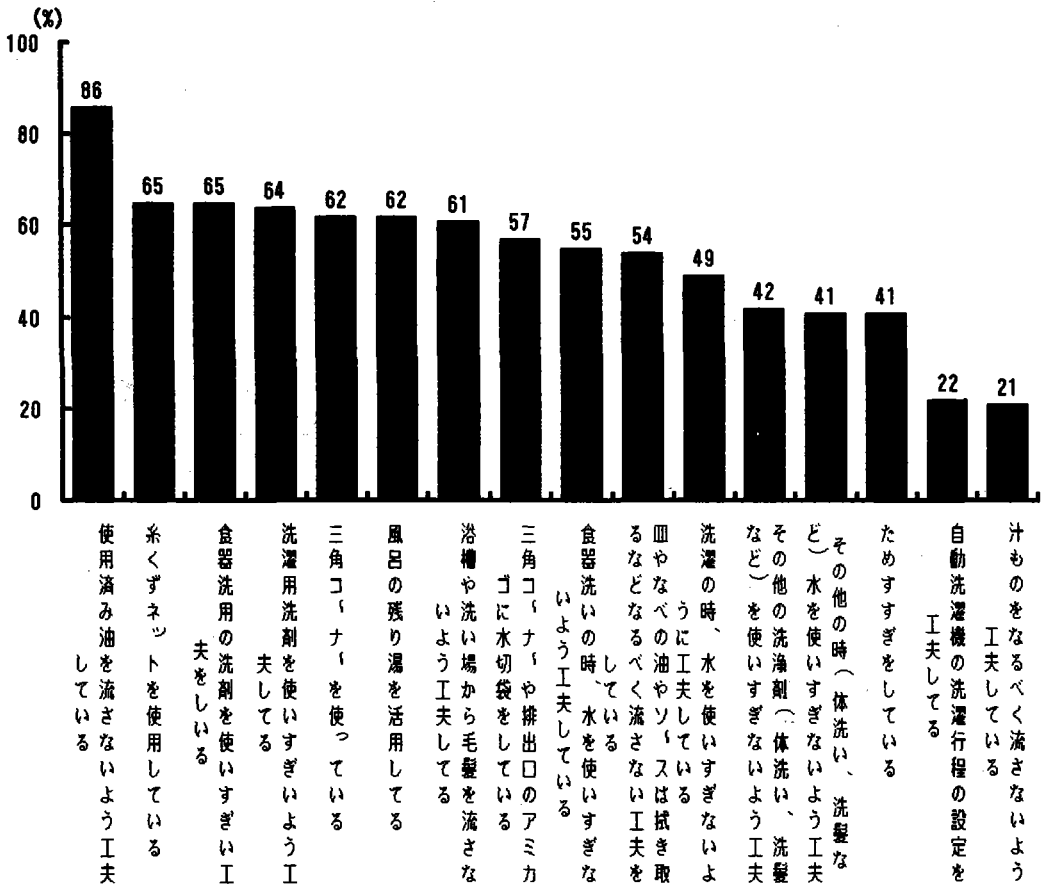


6.環境を意識して行っていること

(1) 環境を意識して行っていること

すでに5章のこれまでの部分で随時ふれてきたことであるが、生活雑排水に関連した行動の中で、環境を意識して行っている行動をあらためて尋ねてみると、図のようになる。最も高いのが「使用済み油をなるべく流さない工夫」(86%)である。一方低いところでは「汁物をなるべく流さない」(21%)「自動洗濯機の洗濯行程の設定を工夫している」(22%)が挙げられている。洗剤や水を使い過ぎない工夫については、全般に実際の行動率にくらば環境を意識して行っている割合が低く、意識のなかで環境にむすびついでいない人が多いことがわかる。

環境を意識して行っていること (全体)

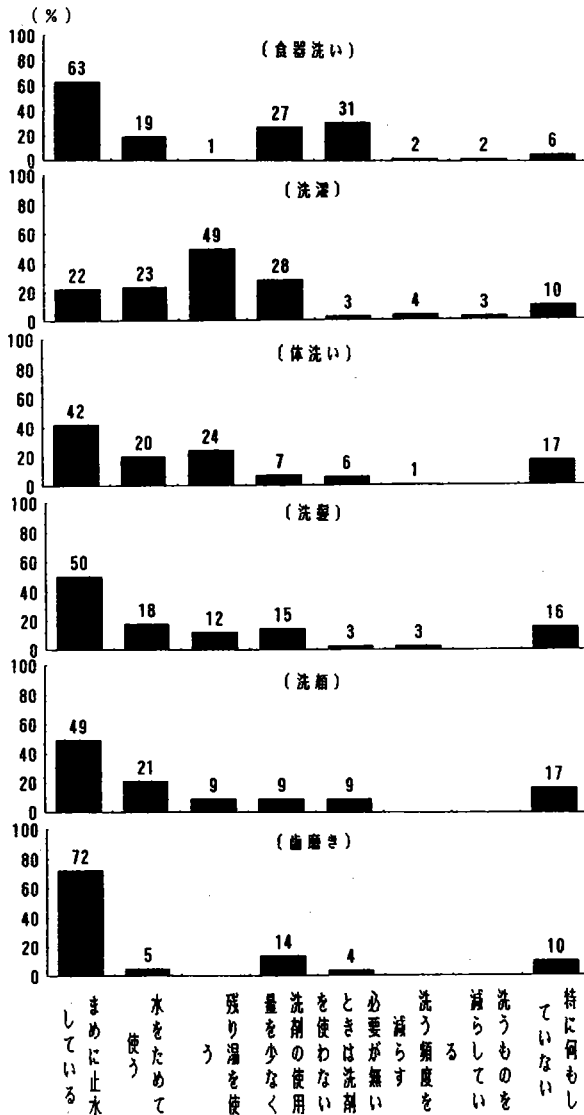


(2) 水を使いすぎない工夫

環境問題に配慮して行っていることとして、さらに節水についても尋ねてみた。

(複数回答)

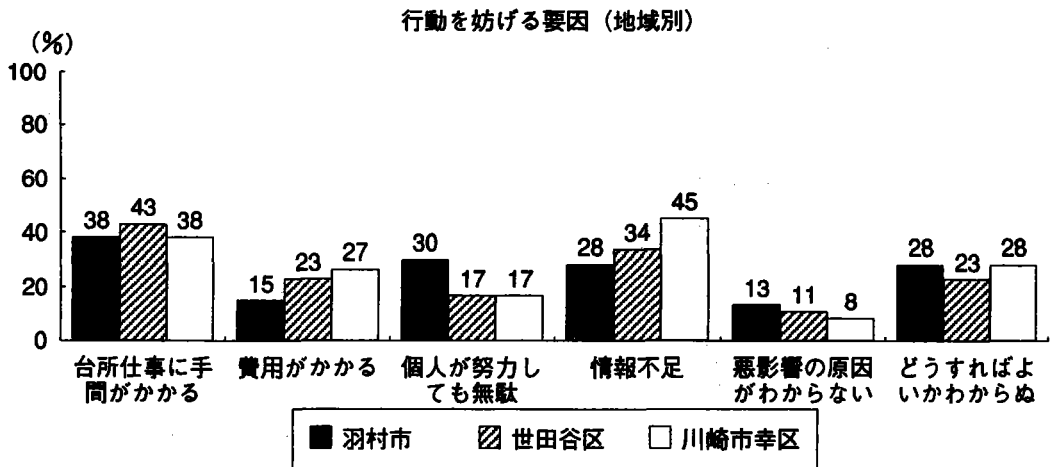
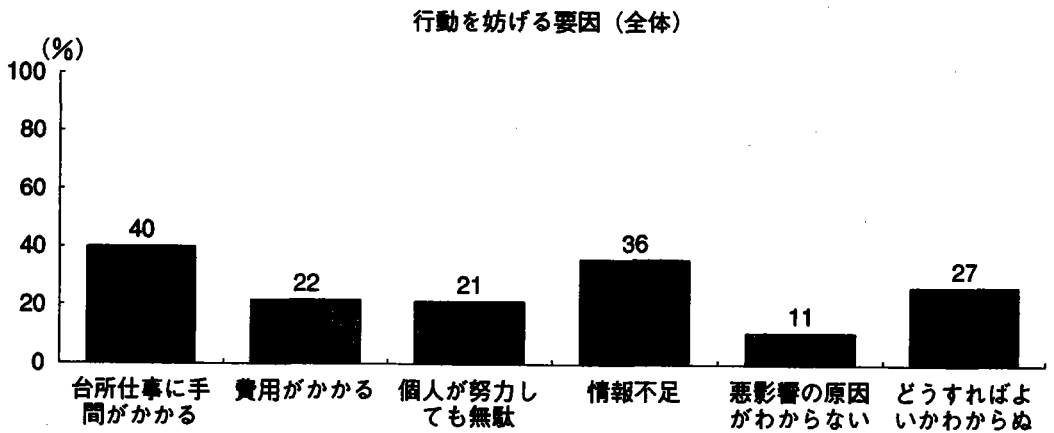
- ・節水については、全般的に「まめに水を止める」ことが行いやすいようだ。
- ・食器洗については、「まめに水を止める」(63%) 「洗剤の量を少なくして使用する」(27%) 「洗剤が必要でないときは使用しない」(31%)が多く、洗剤の量を適量にして、すすぎやすくしている様子うかがわれる。
- ・洗濯については、「風呂水の利用」(49%)が特徴的。身体洗い、洗髪については「まめに水を止める」や「風呂水の利用」が、洗顔、歯磨きについては、「まめに水を止める」が手軽にできる節水の工夫として定着している。



7.生活雑排水をきれいにするための行動を阻害する要因

以上のように、生活雑排水についての意識や行動について細かく見てきた。できれば、ふだんの生活で生活雑排水をきれいにしたい、ころろがけたいと思っている人が多いことがわかった。では、そうした行動を妨げることはどのようなことなのか。

- ・全体では最も妨げになることとして、「台所仕事などに手間がかかる」(40%)、「情報が不足している」(36%)、「なにをどうすればいいのかわからない」(27%)となっている。
- ・地域別では羽村は手間がかかる(38%)の次に「個人が努力しても川や海はきれいにならない」(30%)がくる。世田谷は手間(43%)の次に情報不足(34%)、そして川崎は情報不足(45%)の次に手間(38%)という理由がそれぞれ挙げられている。



6章 ゴミに関する行動実態

この章では、ゴミの処分に関する実態行動を細かくみていく。

今回調査を行った3地域については、多摩川を基本に抽出しているため、一般ゴミの回収手法についての行政の取り組み方は特に考慮していない。また、特に羽村市においては、調査当時（1991年9月）は未だ羽村町であり、翌月の10月1日から“市”となったのを機に、資源ゴミ回収を始めており、丁度その過渡期にあたってしまい、調査結果にも多少の混乱がみられるが、結果には影響ないものと判断した。（下表参照）

まず、各家庭から出るゴミの処分方法について尋ねた。ゴミの種類については、主に東京都のゴミ収集のお知らせ等で使われている分類をもとに作成した。これらのゴミをどのような方法で、また何故その方法で捨てたのかをきいた。中でも資源ゴミとして注目を集めている「缶」についてどの程度の認識があるかをきいた。加えて前調査（日本ヒープ協議会会員対象）の自由回答に目立った“過剰包装”に関して場面設定を行った上で対処の仕方をきいた。

※1991年9月現在

〈参考〉

地域ごとの行政のゴミ収集方法

	〔羽村市〕			〔世田谷区〕			〔川崎市〕	
	可燃	不燃	回数	可燃	不燃	回数	一般	回数
生ゴミ	○		週6	○		週3	○	週6
新聞紙	○		〃	○		〃	○	〃
ダンボール	○		〃	○		〃	○	〃
チラシ、ダイレクトメール	○		〃	○		〃	○	〃
包装紙、紙袋	○		〃	○		〃	○	〃
牛乳パック	○		〃	○		〃	○	〃
紙ムツ、サニタリー	○		〃	○		〃	○	〃
ガラスびん		○	週1		○	週1	○	〃
プラスチックレ・カップ		○	〃		○	〃	○	〃
発泡レ・カップ		○	〃		○	〃	○	〃
空かん類		○	〃		○	〃	(別)	月1
乾電池	(別回収)		〃		○	〃	(別)	週1
蛍光灯、電球		○	〃		○	〃	○	週6
エアゾール缶		○	〃		○	〃	○	〃
家具	(申込み)			(申込み)			(申込み)	
大型家電製品	(申込み)			(申込み)			(申込み)	

※10月から市制となり
回収方法に変更あり

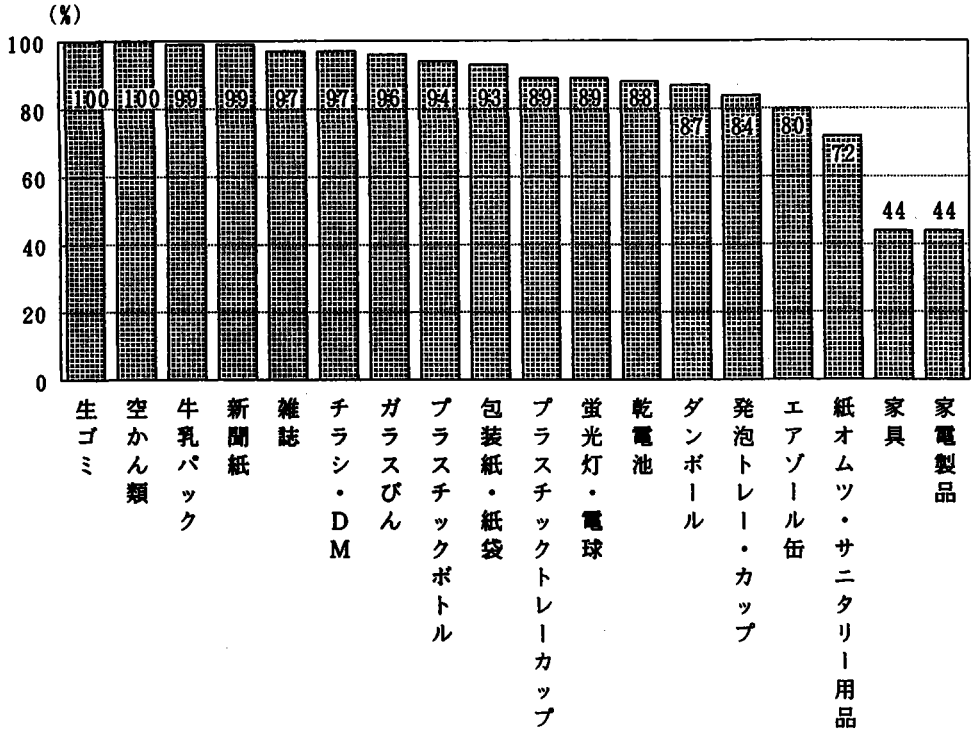
※可燃、不燃の
区別なし

1. 家庭から出るゴミ

(1) 処分方法

- ・生ゴミ、食品・飲料などのパッケージ、新聞・雑誌等の紙類は、殆どの家庭から『ゴミ』として捨てられている。
- ・家具、家電製品などの耐久消費財は、2軒に1軒の割合で『ゴミ』となっている。

〔最近1年間に家庭から出たゴミの種類〕



- ・ゴミの処分方法を全体で見ると、大部分のゴミは行政で指示された回収方法で処分されている。しかし、このうち資源ゴミ回収で処分されているのは、雑誌、ダンボール、空かん類、乾電池でわずか1割ほどみられるのみである。
- ・行政のゴミ回収以外では、以下のような処分方法がみられる。
 - 販売店回収 …………… 新聞紙、ガラスびん、大型家電製品
 - メーカー回収 …………… 大型家電製品
- ・上記のうち、新聞紙、雑誌、ダンボール、チラシ・DMについては「資源の再利用を考えて」という理由をあげている人が、他のゴミに比べると多い。

- ・最近リサイクルが話題になっている牛乳パック、プラスチック類はリサイクルにつながるような処分はあまりなされていないが、牛乳パックについては3割の人が「資源の再利用を考えて」捨てていると答えている。
- ・また、紙オムツ・サニタリー用品、乾電池、蛍光灯・電球、エアゾール缶、大型家電製品は「捨て方がわからない」という人が1割強ほどみられる。

〈生活者の声〉

*工夫していること

- ・リサイクルの催し（イベント）に積極的に参加する
- ・無駄使いをしない
- ・燃やせるものは自宅で燃やす

*困っていること

- ・資源ゴミの回収ルートをもっと整備してほしい
- ・カラスやネコがゴミをちらかすので困る
- ・乾電池の回収を徹底してほしい
- ・ゴミを自宅で燃やすと煙が出て困る
- ・消費者の勉強の機会をつくってほしい

ゴミの処分方法とその理由

(%)

全体	過去二年間に家庭から出たゴミ	処 分 方 法										左記の方法で処分する理由				
		行政のゴミ収集で処分					行政のゴミ収集以外で処分					送られた方法なので	資源の再利用を考えて	量などで	持たねがわからないので	その他
		燃えるゴミとして 行政の回収に出す	燃えないゴミとして 行政の回収に出す	ゴミの燃焼を分けて 行政の回収に出す	資源ゴミとして 行政の回収に出す	行政に届けて 回収してもらう	古物屋出す	メカに取ってもらう	自給水などの 廃品回収に出す	家庭で処分する	販売店に 回収してもらう					
生ゴミ	100	85	5	11	1	-	-	-	3	1	1	91	1	14	-	2
新聞紙	99	7	1	1	10	1	11	-	2	20	5	21	75	12	1	2
雑誌	97	26	-	2	12	-	11	-	3	3	4	28	62	16	2	1
ダンボール	87	48	-	4	10	-	4	1	35	6	1	43	42	22	2	3
ラッピング用紙	97	49	-	6	4	1	7	-	31	6	4	40	37	25	4	2
包装紙・紙袋	93	58	-	7	4	-	1	-	13	15	1	46	27	27	2	5
牛乳パック	99	52	2	7	5	-	1	2	18	4	9	33	33	27	6	6
紙おむつ・ナプキン用品	72	65	20	10	-	-	-	-	1	5	-	52	2	33	16	2
ガラスびん	96	10	60	6	7	-	-	-	3	10	-	58	22	19	9	1
プラスチックボトル	94	18	69	10	1	-	-	-	1	2	-	70	2	23	10	1
プラスチック・カップ	89	19	67	11	1	-	-	-	1	2	-	67	1	25	10	1
発泡トレイ・カップ	84	19	63	13	-	-	-	-	2	3	3	69	5	21	10	2
空き缶類	100	1	66	1	15	1	-	-	21	-	-	61	27	15	3	4
乾電池	88	1	77	2	12	-	-	-	4	1	1	74	4	13	14	2
蛍光灯・電球	87	12	68	9	6	1	-	-	3	1	1	70	2	21	13	-
エアゾール缶	80	5	82	3	6	1	-	-	2	1	-	70	3	17	16	-
家具	44	-	15	4	4	4	70	2	5	4	2	72	10	12	10	-
大型家電製品	44	-	9	2	2	2	51	1	2	-	16	59	9	22	13	-

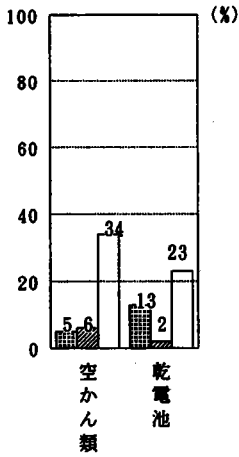
(2)地域別の傾向

- ・地域ごとのゴミ処分方法の差が、調査結果にもはっきりあらわれている。

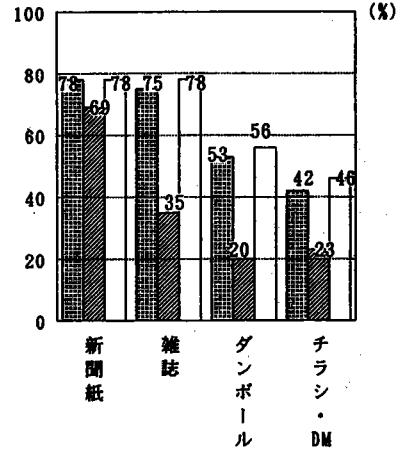
(羽村市, 世田谷区——分別収集)

- ・川崎市幸区は、他の二地域に比べ、空かん類, 乾電池の「資源ゴミ回収」が進んでいる。

〔行政の資源ゴミ回収で処分している〕



〔資源の再利用を考えて処分している〕

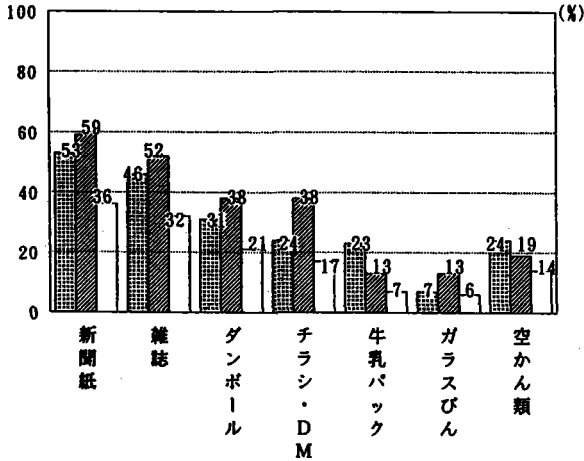


■羽村市 ■世田谷区 □川崎市幸区

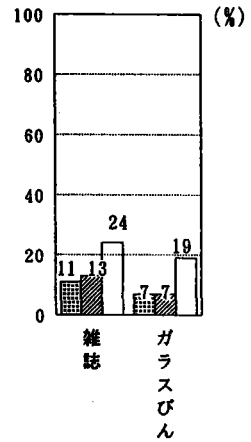
(3)就労形態別の傾向

- ・フルタイム（ヒープ）よりも、専業主婦，パートタイマーの方が「自治体の廃品回収」を利用しており、「資源の再利用を考えて」ゴミを処分している人が多い。
- ・フルタイム（ヒープ）は逆に雑誌，ガラスびんで「行政の資源ゴミ回収」を利用している人が多い。

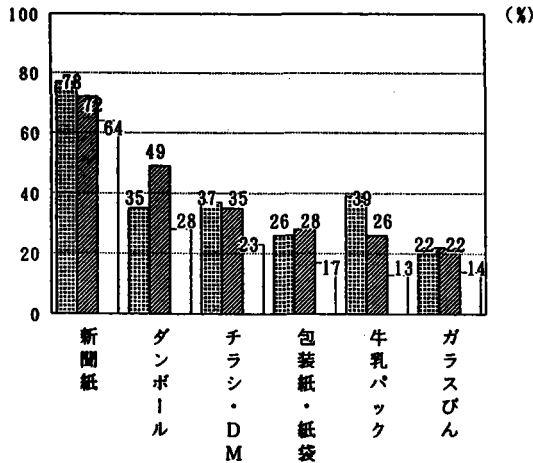
〔自治体の廃品回収で処分している〕



〔行政の資源ゴミ回収で処分している〕



〔資源の再利用を考えて処分している〕



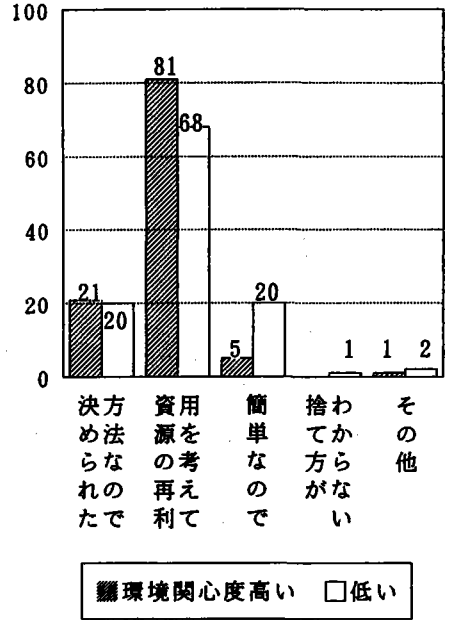
■専業主婦 ■パートタイマー □フルタイム（ヒープ）

- ・このほか、環境関心度，環境保全行動度別では、各々関心度，行動度が高い方が「自治体の廃品回収」の利用に積極的であり、「資源の再利用を考えて」ゴミを処分している人が多く、逆に低い方は「簡単なので」をゴミ処分方法選択の理由としてあげている人が多い。

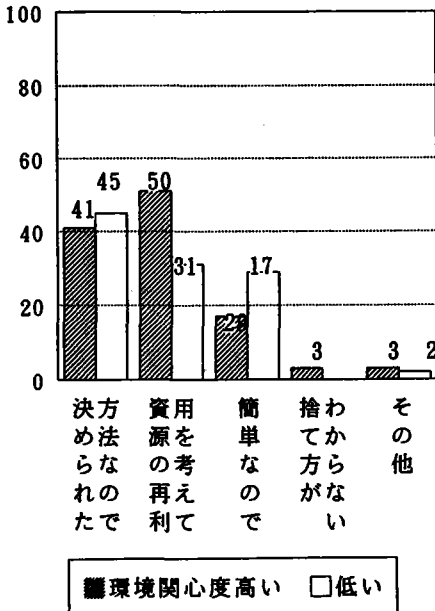
(4)ゴミの資源化

- ・環境関心度別にゴミの処分方法をみると、関心の高い方が、新聞紙、ダンボール、牛乳パックについて「資源の再利用を考えて」や、プラスチックボトル、プラスチックカップについて「決められた方法」をあげる人が低い方に比べると多い。
- ・逆に関心が低い方はこれらのゴミについて「簡単なので」を理由としてあげる人が、高い方に比べると多い。

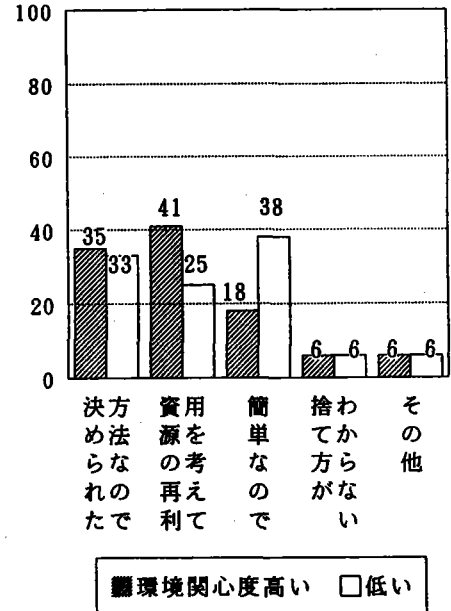
〔新聞紙〕 (%)

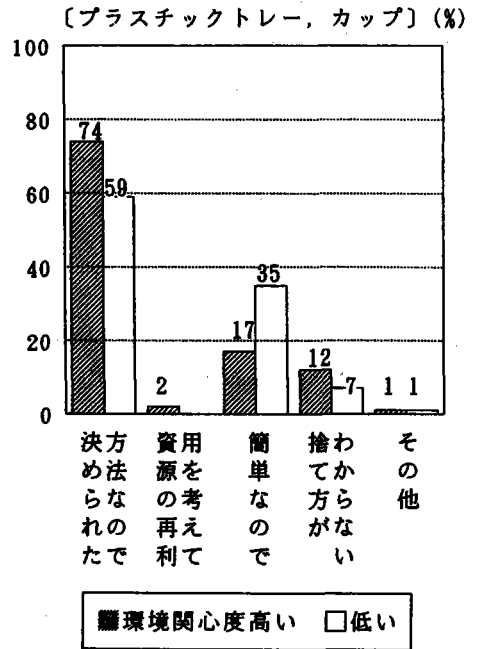
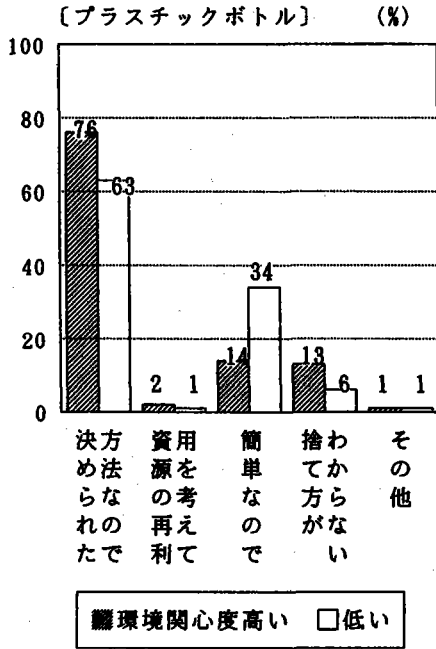


〔ダンボール〕 (%)



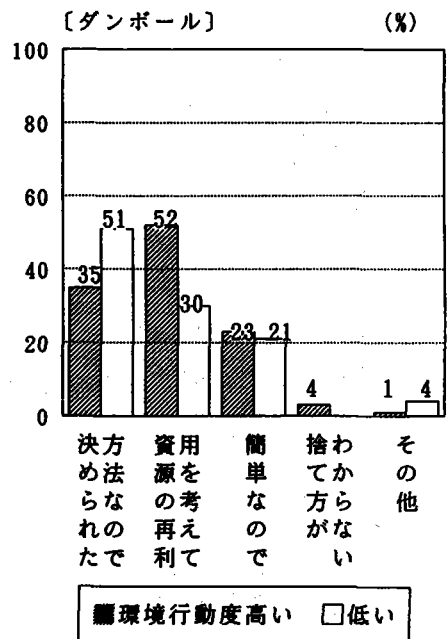
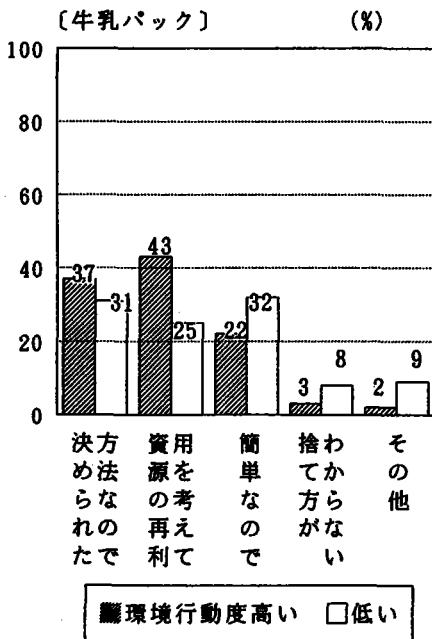
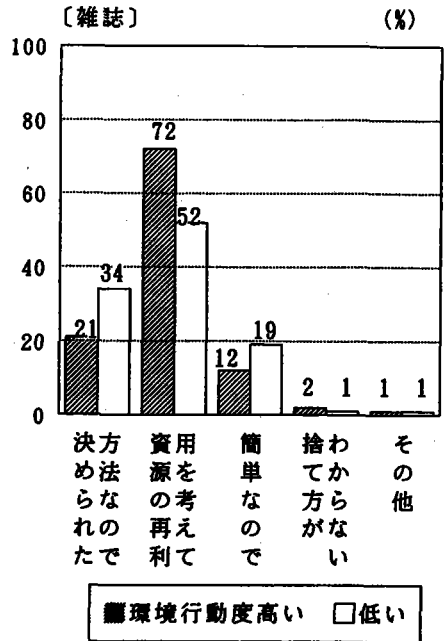
〔牛乳パック〕 (%)



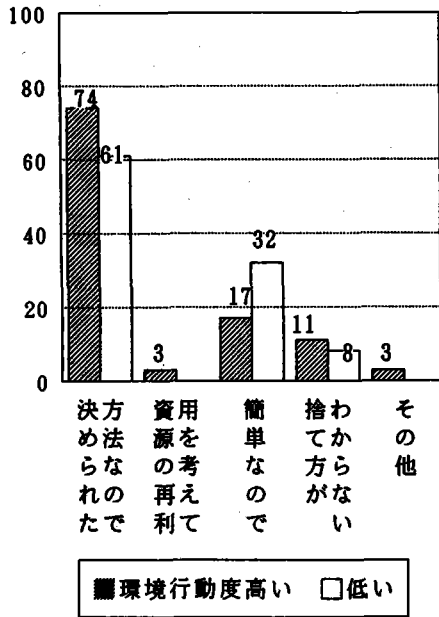


・環境保全行動度別では、行動度が高い方が、雑誌、ダンボール、牛乳パックについては「資源の再利用を考えて」を理由にあげている人が、低い人に比べると多い。

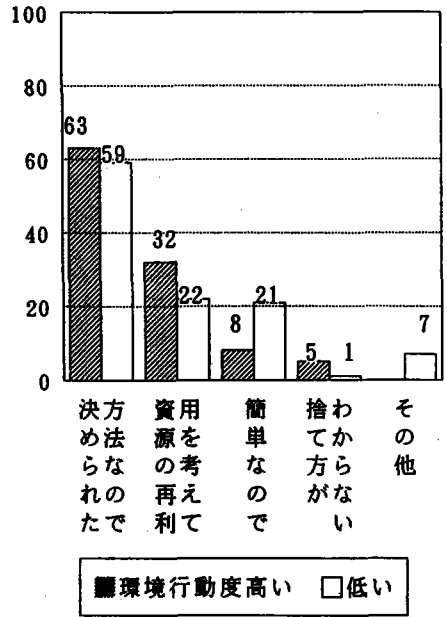
・逆に低い方は、雑誌、ダンボールについて、「決められた方法なので」をあげる人が多く、牛乳パックについては「簡単なので」をあげている人が多い。



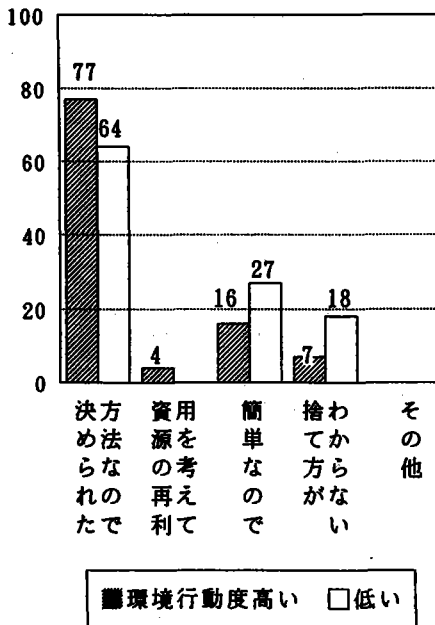
〔プラスチックトレー、カップ〕 (%)



〔空かん類〕 (%)



〔蛍光灯、電球〕 (%)

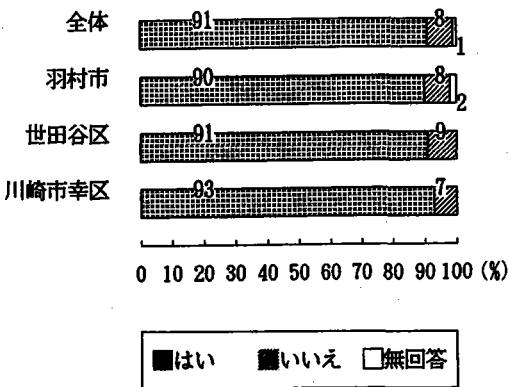


2. あき缶について

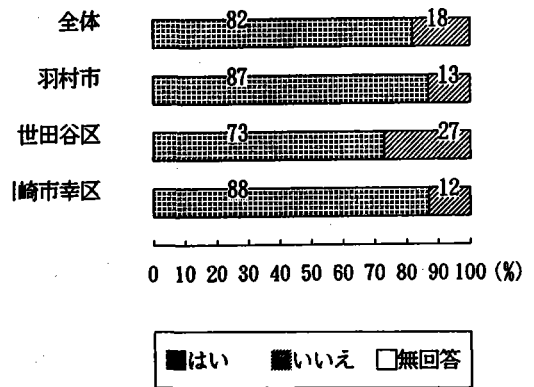
資源ゴミのリサイクル活動として、取り組みが進んでいると思われる「缶」について、その認識度合いを尋ねてみた。

- ・缶の種類に「スチール缶」と「アルミ缶」があることは、9割以上の人を知っており、8割以上の人で区別をすることができる。
(本調査のあと、缶にスチール、アルミの表示がなされるようにもなったが、区別して回収することは難しくないことだと考えられる。)

〔缶の素材の認知〕

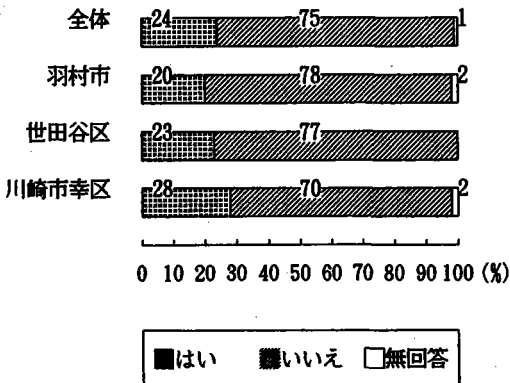


〔スチール缶とアルミ缶の区別〕



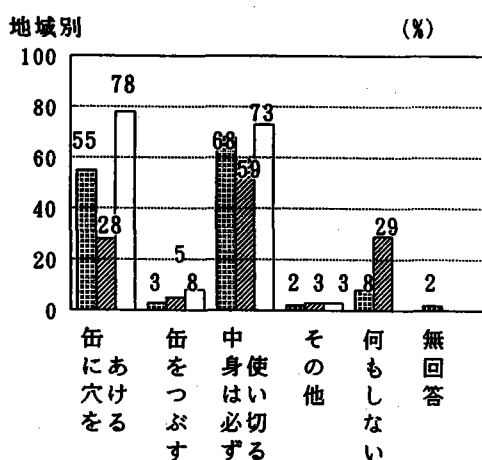
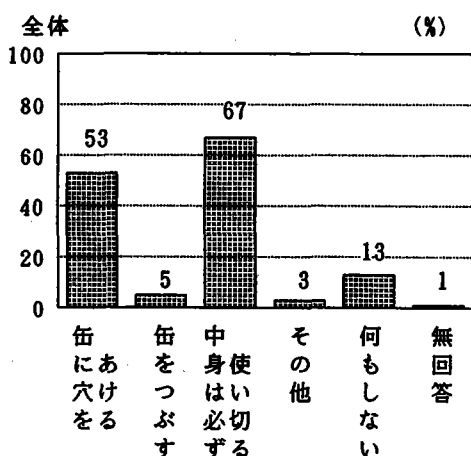
- ・「ステイオン・タブ」については、7割以上の人不知、まだ一般的な言葉としては認知されていない。しかし、「ステイオン・タブ」という言葉は知らなくても、こういうものだと言明すれば知っているのかもしれない。

〔ステイオン・タブの認知〕

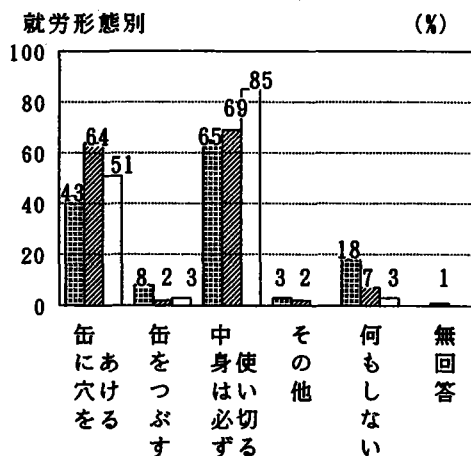


- ・「エアゾール缶」を処分する際には、約半数の人は「中身を必ず使い切る」「缶に穴をあけて」捨てている。
- ・地域別では世田谷区で「何もしない」人が多い。
- ・就労形態別ではパートタイマー、フルタイマー（ヒープ）より専業主婦の方が「何もしない」人が多い。

〔エアゾール缶を処分する際していること〕



■羽村市 ■世田谷区 □川崎市幸区

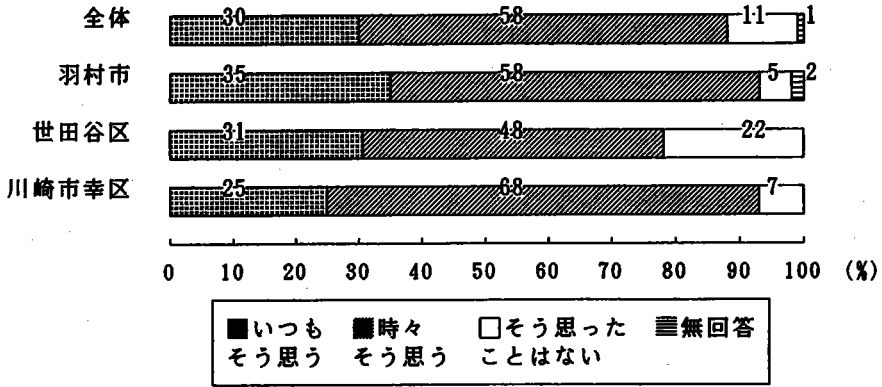


■専業主婦 ■パートタイマー □フルタイマー（ヒープ）

3. 包装について

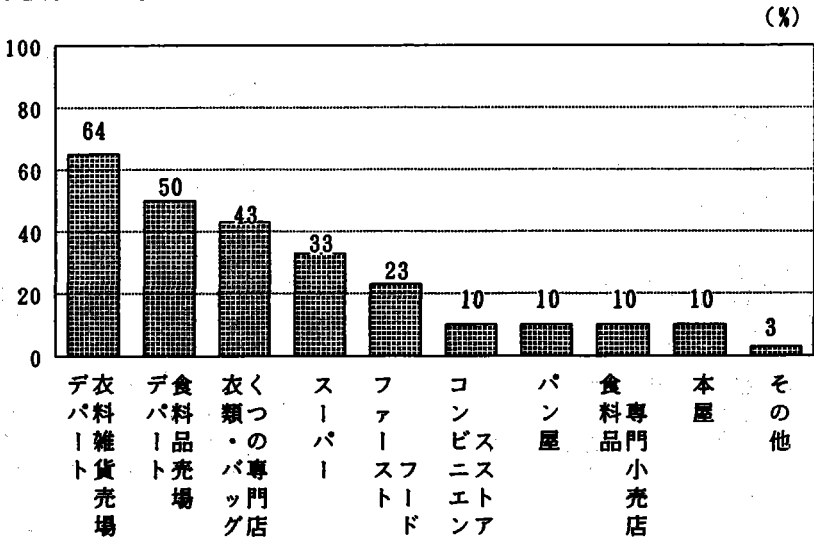
- ・ 8割以上の人々が、買物の場面で過剰包装と感じたことがある。

〔過剰包装と感ずる〕

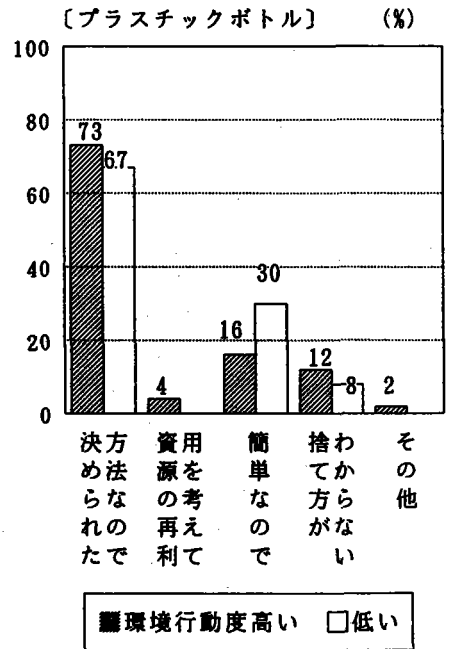
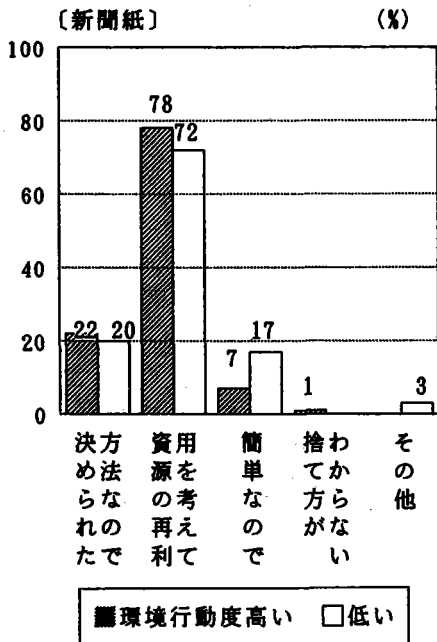
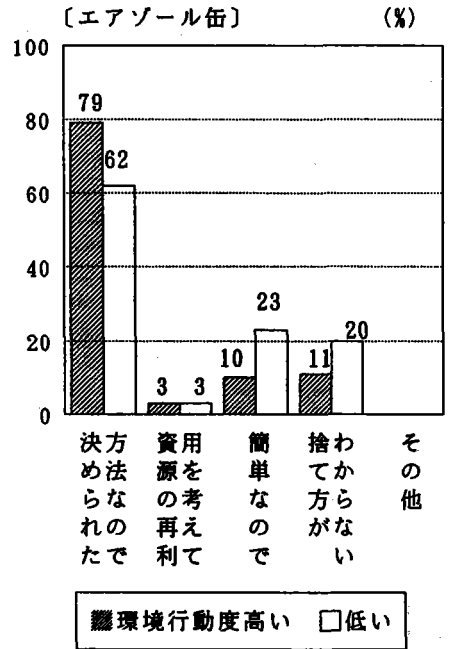


- ・ 過剰包装の多い店は下のグラフの通りで、上位にはデパート、スーパーなどの身近な大型小売店舗があげられている。

〔過剰包装が多いと思う店〕

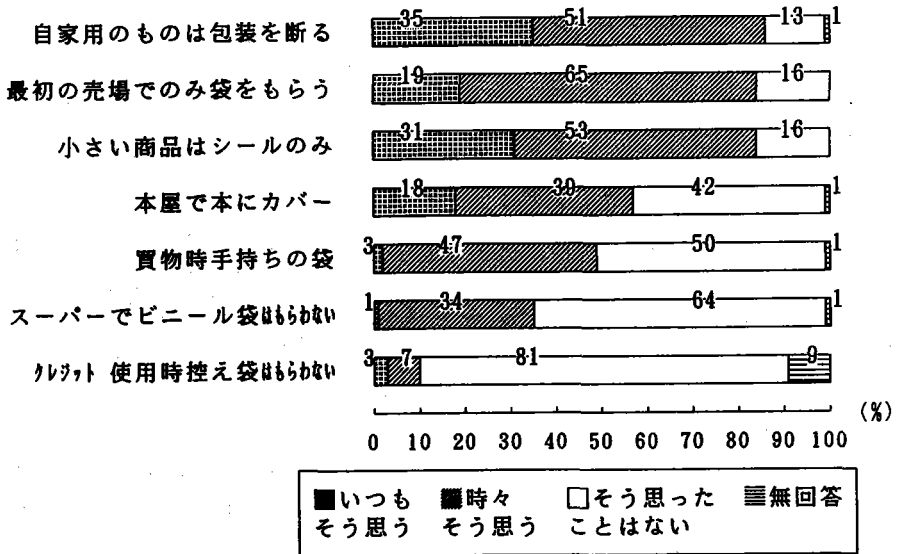


- ・エアゾール缶、新聞紙、プラスチックボトル、プラスチックトレイ・カップ、空き缶類は、環境保行動度が低いグループの方が「簡単なので」を理由にあげている人が多い。
- ・このうちエアゾール缶については、行動度が高いグループの方が「決められた方法なので」を挙げている人が多い。
- ・蛍光灯、電球は、行動度が低いグループで「わからない」と答えている人が、高いグループに比べて多い。



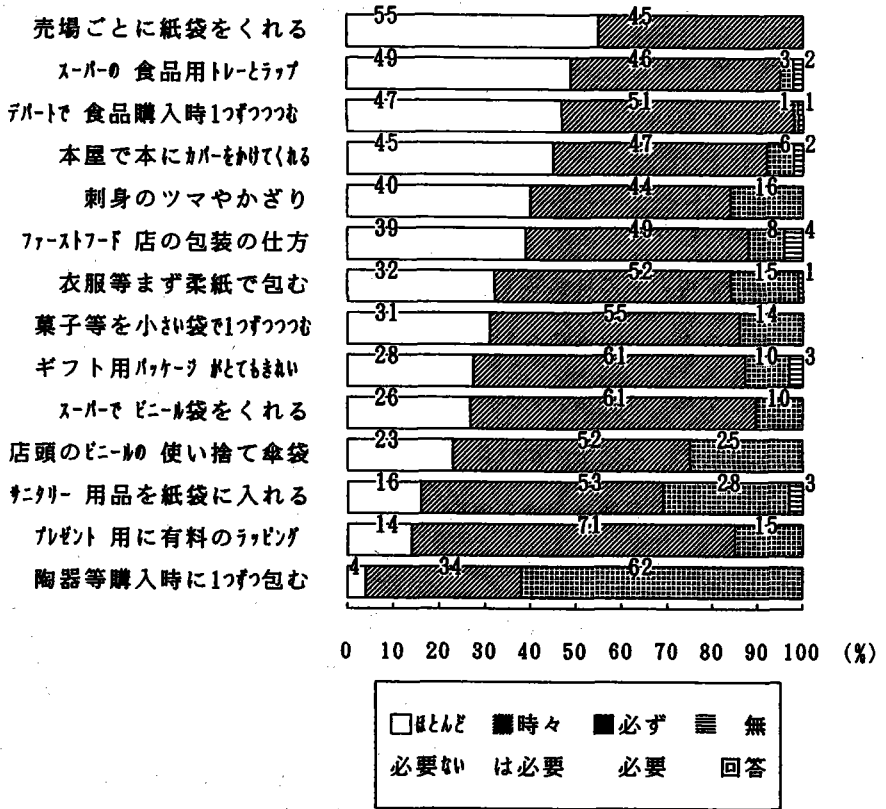
- ・自ら「包装を断る」行動の頻度については、断ることを『いつもしている』人と『時々している』人を合わせて多い順に項目をならべると、自家用のもの、小さいものは包装を断り、袋（手提げ袋）は最初の売場のみでもらっていることが多いことがわかる。

〔包装の断り方〕



- ・また、どんな場合に包装が必要であるかについては、『ほとんど必要ない』と答えた人の多い順に並べて“不必要度”をみると次ページのようになる。

〔包装の必要・不必要〕



・これらのことから、一般に大型小売店舗で商品を守るためになされている従来の包装の仕方はあまり重要視されておらず、自分のための買物であるかぎりには、包装は簡単でよいと考えられている。

しかし、便利さを拒否するところまではいっておらず、スーパーの手提げビニール袋や使い捨て傘袋などは必要と考える人が多く、また人に差し上げるものについては、きれいにラッピングすることが必要と考えられている。

〈生活者の声〉

*過剰包装について

- ・トレイは必要ないものが多いので極力減らしてほしい。
- ・発泡トレイを回収してほしい。
- ・包装が必要かどうか聞いてほしい。
- ・袋持参で買物に行くよう心がけている。

⋮	⋮
---	---

生活排水とゴミに関する調査

1991年 9 月

ごあいさつ

私ども日本ヒープ協議会*1エコリングフォーラムは、企業と生活者を結ぶヒープとして、環境問題を考えるために集まった自主研究会です。今回環境問題の中でも、特に家庭の生活排水とゴミを中心として研究を進めるために調査を行うことになりました。お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

あなた様がこの調査の対象者として選ばれましたのは、無作為抽出というくじびきのような方法によっており、お答えいただいた内容は統計以外の目的には絶対に使用いたしません。また、お名前が出るなど、後々ご迷惑をおかけすることは絶対にありませんので、調査の主旨をご理解の上、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、調査の実施は㈱日本リサーチセンターに委託しております。ご不明の点は日本リサーチセンターまで、お問い合わせ下さい。

〔調査主体〕 日本ヒープ協議会 エコリングフォーラム

〔調査実施機関〕 ㈱日本リサーチセンター 統計調査部

東京都中央区八丁堀2-8-5 Tel. 0120-024025(フリーダイヤル)

*1 日本ヒープ協議会とは

企業の消費者関連部門で働く女性の会です。この会は「消費者と企業のパイプ役として生活経験を仕事に活かす」ことを重視しています。変化する社会の中で、消費者と企業の信頼ある関係を願い、有意義な活動に努めています。

調査員名	検票者名

Q 1. 次の生活環境問題のなかであなたが関心をよせているのは何ですか。次のそれぞれの項目について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。また、このような問題はどれくらい深刻であると思いますか。それぞれの項目につき、1つずつ○をつけて下さい。(1つずつ)

	関心の度合い				問題の深刻さ			
	と心が もあ 関る	まが あ 関る	あ まが りな 関い	全 が く な 関い	非 題 常 に あ 関る	ま で あ あ 問 る 題	あ 題 ま で り な 問 い	全 で く な 問 い
a. 生活排水による河川の汚染	36	61	4	-	61	36	2	-
b. 家庭で出るごみの量の増大と処理	52	43	4	-	67	30	2	-
c. 紙、ガラス、アルミなど 資源のリサイクル	42	48	10	-	43	50	3	-
d. 電気、ガス、灯油、など エネルギーの大量消費	32	51	16	1	43	47	8	-
e. 居住地域の緑の減少	38	50	11	1	43	48	7	1
f. 排気ガスなどによる大気汚染	45	46	9	-	57	35	7	-
g. 農業などによる土壌汚染	35	52	11	1	49	40	9	-
h. 食品の安全性	59	37	4	-	62	34	3	-
i. 飲み水の安全性	52	42	5	-	54	36	9	-

Q 2. あなたはご自身の日々の暮らしが環境に負荷(悪影響)を与えていると思いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。(1つだけ)

- 18 1. とてもそう思う
62 2. ややそう思う
19 3. あまりそう思わない
1 4. 全くそう思わない
2 NA

Q 3. あなたにとって親しみを感じる水辺とは、どのようなところですか。次の中からいくつでも選んで○をつけてください。(いくつでも)

- 63 1. 河川 13 5. 水路、お堀
24 2. 溪流、滝 29 6. 公園
49 3. 海 1 7. その他(具体的に)
25 4. 湖沼、池 2 8. 特にな
2 NA

Q 4. あなたにとって身近な河川というと、次のどれにあたりますか。次の中からいくつでも選んで○をつけてください。(いくつでも)

- 3 1. 江戸川 5 5. 相模川
4 2. 荒川 8 6. 利根川
10 3. 隅田川 6 7. その他
88 4. 多摩川 (具体的に)
2 NA

Q 5. あなたは多摩川にお出かけになることはありますか。それはどれくらいに1回位でしょうか。次の中であてはまるもの1つに○をつけて下さい。(1つだけ)

- 4 1. 週に3回以上
10 2. 週に1~2回位
18 3. 月に1~2回位
20 4. 2~3ヵ月に1回位
21 5. それ以下
28 6. ほとんど行かない
- NA

Q 6. あなたは日頃の生活において、どのように河川と関わっていますか。あてはまるもの
 いくつでも○をつけてください。(いくつでも)

- 52 1. 河川敷や水路沿いの道で散歩したり、遊んだりする
- 22 2. 河川敷のグラウンドなどでスポーツをする
- 9 3. 魚つきをする
- 4 4. 河川敷や水路の掃除を手伝う
- 38 5. ほとんど関わりはない
- 2 6. その他 ()
- NA

Q 7. あなたは、身近な河川や海の水の汚れの原因は何だと思えますか。あてはまるもの
 いくつでも○をつけてください。(いくつでも)

- 64 1. 工場からの排水
- 38 2. 農地やゴルフ場から流出する農薬
- 40 3. 下水道処理場などから排出される処理水
- 80 4. 家庭の台所や浴室から流出した生活排水
- 57 5. ごみの投げ捨てや不法投棄
- 1 6. その他 ()
- NA

Q 8. あなたは、家庭で飲食に使っている水についてどのように感じていますか。

①味はいかがですか。ひとつだけに○をつけて下さい。(1つだけ)

- 18 1. おいしい 64 2. 普通 18 3. まずい NA-

②味や香りに何か異常がありますか。あてはまるものいくつでも○をつけてください。

- 4 1. カビ臭がある 3 5. 赤水である (いくつでも)
- 27 2. 塩素臭い 3 6. その他(具体的に)
- 7 3. 生臭い 62 7. 特にない
- 3 4. 濁っている 1 NA

Q 9. お宅では、次あげるものを利用したり、そのようなことを行ったりしたことがありますか。あてはまるもの全てに○をつけて下さい。

また、現在利用したり、行ったりしているものはどれでしょうか。現在利用・実践している、いないかに関わらず、今後行いたいと考えているものは何ですか。それぞれ、あてはまるものいくつでも○をつけてください。(いくつでも)

	過去 行った もの の	現在 行 っている もの の	今後 行 いたい もの の
おいしい水やミネラルウォーターなど飲料水の購入	11	21	18
飲食用の水は煮沸してから使う	12	22	12
浄水器を設置している	8	11	32
置き水をしている	6	12	11
その他 ()	1	1	3
特に何もしていない	41	42	21
NA	22	11	36

Q 10. お宅の台所、洗濯などで、生活排水をきれいにするための行動をとる時にどんなことが
 さまたげになりますか。次の中からあてはまるものいくつでも○をつけてください。

- 40 1. 台所仕事などに手間がかかる (いくつでも)
- 22 2. 費用がかかる
- 21 3. 個人が努力しても川や海はきれいにならない
- 36 4. 情報が不足している
- 11 5. なにが悪影響を及ぼしているのかわからない
- 27 6. なにをどうすればいいのかわからない
- 2 7. その他(具体的に)
- 1 NA

Q11. あなたは日頃ご家庭でごみや生活排水などの環境問題について家族と話をすることがありますか。(1つだけ)

1. ある 35 2. ない → Q12へ NA
65 -

(ある、とお答えの方に)

SQ. それはどのようなことについてですか。具体的にお書きください。

Q12. あなたは、環境を意識して次のようなことを行っていますか。それぞれあてはまるものに○をつけてください。また、現在行っているかいないかに関わらず、今後行いたいと考えているものは何ですか。それぞれ、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(いくつでも)

	現 在 行 つ も の ↓	今 後 た 行 い も の ↓
古新聞、古雑誌などを廃品回収やリサイクルに出す	89	23
空きビン、空き缶などを販売店に持参したり地域のリサイクルに出す	64	34
家具、家電はリサイクルセンターに持ち込んでいる	5	38
買物には買物袋やかごを持参する	21	38
環境保全に前向きな小売店で買物をする	17	28
エコマークがついている商品を利用するようにしている	18	25
エコマーク以外でも環境保全をうたった商品を利用するようにしている	22	22
コンポストを使って生ゴミを堆肥化している	6	24
生ごみを減らす調理の工夫をしている	29	28
飲料はなるべくプラスチック容器に入ったものは購入しないようにしている	22	25
ガレージセールに出店したり、リサイクルショップに品物を持ち込むようにしている	11	23
ガレージセールやリサイクルショップでよく買物をする	9	19
トイレトペーパーやノートなどは再生紙使用の商品を利用している	29	25
ちらしの裏をメモ用紙などとして使う	61	22
缶、ビン、たばこなどのポイ捨てはしない	82	22
節水・節電など省エネルギー・省資源を心がけている	76	25
食品は添加物の少ないものを選ぶようにしている	73	23
野菜は無(低)農薬のものを利用している	36	35
洗濯の洗剤は石鹼を利用している	23	22
自動車にはなるべく乗らないようにしている	23	23
休日には自然と親しむようにしている	30	31
テレビや雑誌などの環境問題の特集には目を通す方だ	37	23
自分でリサイクルグループや勉強会などを主宰している	3	14
リサイクルグループや勉強会などに参加している	6	14
環境保護団体の会員である	1	10
環境保護団体に寄付をした(1年に1回以上)	1	12

Q13. ふだん、あなたは次のような商品をお使いになりますか。それぞれにつきあてはまるものに1つずつ○をつけてください。(1つずつ)

	よ く 使 う	時 々 使 う	ほ と ん ど い	全 く な い
a. ウエットティッシュ	14	26	23	36
b. 紙おむつ	9	5	2	80
c. 使い捨て雑巾	4	11	17	67
d. 紙皿、紙コップ	2	22	42	32
e. 割箸	18	50	24	8
f. ペーパータオル	28	32	15	24
g. ラップ類	71	24	4	1
h. アルミ箔	48	39	10	3

Q14. 生活排水問題やごみ問題についての情報を何から得ていますか。あてはまるものいくつかでも○をつけてください。(いくつでも)

74	1. 新聞	8	7. 家族
82	2. テレビ、ラジオ	17	8. 知人、友人
27	3. 雑誌	6	9. 消費者センターなどの講習会
5	4. 書籍	22	10. 生協のパンフレットや勉強会
32	5. 行政が作成するパンフレットや 広報紙・誌	7	11. あまり得られていない
10	6. 企業や業界団体が作成する パンフレットや広報紙・誌	/	12. その他 ()

SQ. 現在あなたが、得ている情報について、その量や内容など、何かお感じのことがあれば自由にお書きください。

Q15. お宅の台所の設備はどのようになっていますか。次のそれぞれの質問について、あてはまるものに○をつけてください。

①シンクに排水口部のアミカゴはついていますか。(1つに○)

- 75 1. ついている
25 2. ついていない

②食器洗い器は持っていますか。(1つに○)

- 4 1. 持っている
96 2. 持っていない

Q16. お宅の浴室の設備はどのようになっていますか。次のそれぞれの質問について、あてはまるものに○をつけてください。

①浴槽のお湯はりの方法はどのタイプですか。(1つに○)

- 75 1. 蛇口から湯を入れる。(追いだきはできない)
48 2. 蛇口から湯を入れ、追いだきもする
35 3. 蛇口から水を入れ、たく
3 4. その他 ()

Q17. お宅の給排水の方法はどのようになっていますか。次のそれぞれの質問についてあてはまるものに○をつけてください。

①飲み水の給水はどの方法ですか。(1つに○)

- 1. 井戸水から給水する方法
- 24 2. 上水道からいったん水槽にためて、各戸に配給する方法
- 70 3. 上水道から直接給水する方法
- 4. その他 ()
- 5 5. わからない

②生活雑排水はどのように処理されていますか。(1つに○)

- 84 1. 下水道を通して処理場で処理
- 4 2. 合併浄化槽で処理
- 3. その他の簡易処理施設で処理
- / 4. 特に処理せずに川などに流れている
- // 5. わからない

③トイレからのし尿はどのように処理されていますか。(1つに○)

- 94 1. 下水道を通して処理場で処理
- 4 2. 合併浄化槽で処理
- / 3. 単独浄化槽で処理
- / 4. その他の簡易処理施設で処理
- 5. くみとり式

Q18. 家庭内での「炊事」について、現在どのようにしていますか。次のそれぞれの質問についてあてはまるものに○をつけ、必要事項をご記入ください。(ご家族全体についてお答えください。)

①家庭内での食事回数は何回位ですか。朝食、昼食、夕食それぞれについて週あたりの平均回数をご記入下さい。*家族が別々に取った場合はそれぞれ1回と数えて下さい。

朝食：週に (8.2) 回位

昼食：週に (6.1) 回位

夕食：週に (3.9) 回位

②調理クズ、食べ残しの固形物はどのように処理していますか。(いくつでも○)

- 47 1. 三角コーナーを使う(水切り袋をしている)
- 22 2. 三角コーナーを使う(水切り袋はしていない)
- 35 3. 排水口部のアミカゴを使う(水切り袋をしている)
- 23 4. 排水口部のアミカゴを使う(水切り袋はしていない)
- 22 5. 排水口部のアミカゴにはなるべくゴミをためないようにしている
- 6. ディスポーザーを使い、流している
- 27 7. できるだけシンク外のごみ箱に捨てるようにしている
- / 8. その他 ()
- / NA

③汁物(みそ汁やめんつゆ)はどのように処理していますか。(1つに○)

- 69 1. そのまま流している
- 27 2. なるべく流さないよう調理の工夫等をしている
- / 3. 庭に穴を掘り埋めている
- 3 4. その他 ()
- / NA

④米のとぎ汁はどのようにしていますか。(1つに○)

- 80 1. 常にそのまま流している
- 20 2. 利用している→使いみちは? ()

⑤お皿やなべに残った油やソースの汚れはどのように処理していますか。(1つに○)

- 37 1. そのまま洗い流す
- 59 2. 布や紙でふいてから洗う
- 3 3. ヘラでぬぐい落としてから洗う
- 1 4. その他 ()
- 1 NA

⑥お宅では揚げ物は月に何回位行いますか。

6.2 回

→全くしない人はQ19へ

⑦揚げ物に使った油は1度だけで捨てますか、それとも取っておいて揚げものや炒めものなどに使っていますか。(1つに○) N=177

- 13 1. 1度だけで捨てる
- 86 2. 揚げものや炒めものなどに再利用する
- 1 NA

⑧使用済の油はどのように処理していますか。主なものを2つまでお答え下さい。

- 34 1. 市販の処理剤を使い、ゴミに出す (2つまで○)
- 53 2. 紙等にすわせたりピンを使ったりして、ゴミに出す
- 1 3. 廃油回収に出す
- 25 4. 使い切る(炒めものなどに使って捨てることはない)
- 2 5. 排水管にそのまま流す
- 12 6. その他 ()
- 4 NA

Q19. 家庭内での「洗濯」について、現在どのようにしていますか。次のそれぞれの質問についてあてはまるものに○をつけ、必要事項をご記入ください。(ご家族全体についてお答えください。)

①洗濯の頻度は何回位ですか。週あたりの平均回数をご記入下さい。洗いからすすぎ、脱水までの洗濯1工程を1回と数えてください。毎日1回の際は「週に7回」になります。

週に(10.7)回位

②洗濯機の種類はどのタイプですか。(1つに○)

- 47 1. 1槽式(全自動)
- 14 2. 自動2槽(水が自動的に止まるタイプ)
- 39 3. 2槽式
- 0 4. その他 ()

③洗濯機での洗濯はどのようにしていますか。(いくつでも○)

- 62 1. 洗いの後で脱水している
- 37 2. すすぎはためすすぎをしている
- 50 3. すすぎは注水すすぎをしている
- 26 4. すすぎの途中で脱水している
- 39 5. 同じ洗濯液での2度洗いをしている
- 66 6. 糸くずネットを使用している
- 1 NA

Q20. 家庭内での「入浴」について、現在どのようにしていますか。次のそれぞれの質問についてあてはまるものに○をつけ、必要事項をご記入ください。(あなた自身についてお答えください。)

①あなたが風呂(湯船)に入る頻度は何回位ですか。週あたりの平均回数をご記入下さい。

週に(5.9)回位

②風呂以外のシャワーのみの頻度は何回位ですか。週あたりの平均回数をご記入下さい。

週に(2.7)回位

③あなたの洗髪の頻度は何回位ですか。週あたりの平均回数をご記入下さい。

週に(4.4)回位

④残り湯はどの様にしていますか。(1つに○)

27 1. 毎回すてている → Q21へ
 30 2. 時々活用している
 41 3. いつも活用している
 3 NA

⑤残り湯はどの様に活用していますか。(いくつでも○)

55 1. 洗濯機での洗濯
 12 2. 手洗いの洗濯
 32 3. 沸かし直して翌日の入浴に使う
 12 4. その他()
 28 NA

Q21. あなたが現在ご使用の洗剤を選んでいる理由は何ですか。①~⑬の項目についてそれぞれあてはまるものに○をつけ、必要事項をご記入ください。(いくつでも○)

	1 汚れ落ちがよい	2 香りや使用感が好き	3 肌や毛髪を傷めない	4 天然成分入りだから	5 石けん系だから	6 使用量が少なく済む	7 すぎが簡単	8 安全性が高い	9 環境にやさしい	10 効果・効能が高い	11 価格が安い	12 その他 (具体的に)	13 自分は選択していない
①食器洗い	39	9	13	19	9	10	15	24	15	5	26	2 ()	2
②洗濯	54	8	3	5	13	24	19	14	15	8	29	5 ()	3
③体洗い	14	38	32	5	16	1	3	12	5	3	14	5 ()	5
④洗髪	11	34	65	9	5	4	5	12	5	8	9	1 ()	2
⑤洗顔	14	30	38	9	7	3	5	16	3	6	10	1 ()	2
⑥歯磨き	12	34	2	1	3	4	2	18	3	23	20	2 ()	2

↓
SQ21へ

(①～⑥のどれかで9に○がついた方に)

SQ21 具体的な商品名とそれが環境にやさしいと考えられる理由をお答え下さい。

	商品名	理 由
①食器洗い		
②洗濯		
③体洗い		
④洗髪		
⑤洗顔		
⑥歯磨き		

Q22 あなたは洗剤を使いすぎない工夫をしていますか。①～⑥の行為についてそれぞれあてはまるものに○をつけ、必要事項をご記入ください。(いくつでも○)

	1 使用計 量を して いる	2 標り 準薄 使め 用て 濃使 度っ いよ てる	3 必洗 要剤 がを な使 いわ 時な はい	4 洗う 減頻 ら度 しを てい る	5 洗う 減も らし のを てい る	6 直付 接け 溶ス ずか ポ洗 ン洗 いて ジ桶 い に る	7 そ の 他 (具体的に)	8 特 に し て い な い も な い
①食器洗い	19	34	38	2	3	24	1 ()	9
②洗濯	82	12	2	2	4	×	1 ()	5
③体洗い	18	21	9	1	×	×	2 ()	41
④洗髪	26	22	5	9	×	×	1 ()	35
⑤洗顔	26	22	14	1	×	×	2 ()	37
⑥歯磨き	32	20	6	1	×	×	3 ()	39

(1つでも8を選んだ方へ)

SQ22 それはなぜですか。「何もしていない」とお答えになった項目番号とともにその理由をお書きください。

例 ⑤-余り影響は大きくないと思うから

Q23. あなたは水（湯）を使いすぎない工夫をしていますか。①～⑥の行為についてそれぞれあてはまるものに○をつけ、必要事項をご記入ください。（いくつでも○）

	1 まめに止し水をい る	2 水てす（湯す）ぎをた める	3 湯（船又は湯残）り を（湯）う	4 洗剤のく使用し量 を	5 必洗剤がな使用し は	6 洗う減ら頻度を い	7 洗う減らものを い	8 そ の 他 (具体的にお答え ください)	9 特 に な ら な い に も な い
①食器洗い	63	19	1	27	31	2	2	- ()	6
②洗濯	22	23	49	28	3	4	3	2 ()	10
③体洗い	42	20	24	7	6	1	×	1 ()	17
④洗髪	50	18	12	15	3	3	×	1 ()	16
⑤洗顔	49	21	9	9	9	-	×	1 ()	17
⑥歯磨き	72	5	-	14	4	-	×	1 ()	10

(1つでも9を選んだ方へ) ←

SQ23 それはなぜですか。「何もしていない」とお答えになった項目番号とともにその理由をお書きください。例) ⑤-余り影響は大きくないと思うから

Q24 以下にあげるものの中で、あなたが家庭からの排水など「水」について環境に悪影響を与えないように意識して行っていることはどれでしょうか。また、現在行っているかいないかに関わらず、今後環境を意識して行いたいと思っていることはどれですか。それぞれについて、あてはまるものをいくつでもお答え下さい。（いくつでも○）

		現在環境を 意識して 行っている	今後環境を 意識して 行いたい
〔炊事〕	1. 三角コーナーを使っている	62	19
	2. 三角コーナーや排水口のゴミ袋に水切り袋をしている	57	27
	3. 汁物（みそ汁や米のとぎ汁等）をなるべく流さないように工夫している	21	42
	4. お皿やなべに残った油やソースの汚れは拭き取る等してなるべく流さないように工夫している	54	41
	5. 使用済の油をなるべく流さないように工夫している	86	23
〔洗濯〕	6. ためすぎをしている	41	25
	7. 糸くずネットを使用している	65	24
	8. 自動洗濯機の洗濯工程の設定を工夫している	22	20
〔入浴〕	9. お風呂の残り湯を活用している	62	24
	10. 浴槽や洗い場から髪の毛等を流さないように工夫している	64	25
〔洗剤〕	11. 食器洗い用の洗剤を使いすぎない工夫をしている	65	30
	12. 洗濯用洗剤を使いすぎないよう工夫をしている	64	28
	13. その他の洗剤（体洗い、洗髪等）を使いすぎないよう工夫をしている	42	40
〔水〕	14. 食器洗い時、水を使いすぎないように工夫をしている	35	31
	15. 洗濯時、水を使いすぎないように工夫をしている	49	33
	16. その他時（体洗い、洗髪等）水を使いすぎないように工夫をしている	41	30
	NA	2	23

Q25 あなたの家庭では次の表のa～rのようなゴミは、お宅では過去1年間にでましたか。出たもの全てに○をつけ、○をつけたそれぞれについて、②③にお答え下さい。
 ②そのゴミはどのように処分していますか。あてはまるものに○をつけて下さい。③その方法で処分するのはなぜですか。あてはまる理由に○をつけて下さい。(①②③ともに○はいくつでも)

	② 処分方法											③ 左記の方法で処分する理由						
	行政のゴミ収集で処分					行政のゴミ収集以外で処分												
	1 燃えるゴミとして出す	2 燃えないゴミとして出す	3 行政の回収に出す	4 資源ゴミとして出す	5 行政に電話して取りに来してもらう	6 古物屋に出す	7 メイカーに取ってもらう	8 自治体などの回収に出す	9 家庭で処分する	10 販売店にもらってもらう	11 その他							
a. 生ゴミ	100	5	11	1	1	1	3	1	1	1	1	91	1	14	2	2	5	その他
b. 新聞紙	99	7	1	10	1	11	56	2	20	5	2	21	75	12	1	2	4	捨て方がわからないので
c. 雑誌	97	26	2	12	1	1	49	3	3	4	1	28	62	16	2	1	3	簡単なので
d. ダンボール	87	48	4	10	1	1	35	6	1	1	1	43	42	22	2	3	2	資源の再利用を考えて
e. 缶、びん、ペットボトル	97	49	6	4	1	1	31	6	4	3	1	40	37	25	4	2	1	決められた方法なので
f. 包装紙、紙袋	93	59	7	4	1	1	13	15	1	10	1	46	27	27	2	5	2	資源の再利用を考えて
g. 牛乳パック	99	52	2	7	5	1	18	4	4	9	1	34	34	27	6	6	2	簡単なので
h. 紙袋、リサイクル用品	72	65	20	10	1	1	1	5	1	1	1	52	2	33	16	2	2	資源の再利用を考えて
i. ガラスびん	96	10	60	6	7	1	10	13	1	1	1	69	22	19	9	1	1	決められた方法なので
j. プラスチック	94	18	69	10	1	1	1	2	1	1	1	70	2	23	10	1	1	簡単なので
k. プラスチック、紙、紙	89	19	67	11	1	1	1	2	1	1	1	67	1	25	10	1	1	資源の再利用を考えて
l. 発砲スチロール、紙	84	19	63	13	1	1	2	3	3	1	1	69	5	21	10	2	1	簡単なので
m. 空き缶類	100	1	66	1	15	1	2	1	1	2	1	61	27	15	3	4	2	資源の再利用を考えて
n. 乾電池	88	1	77	2	12	1	4	1	1	3	1	74	4	13	14	2	2	決められた方法なので
o. 蛍光灯、電球	99	12	68	9	6	1	3	1	1	2	1	70	2	21	13	1	1	資源の再利用を考えて
p. エアソール缶	90	5	82	3	6	1	2	7	1	1	1	70	3	17	16	1	1	簡単なので
q. 家具	44	1	15	4	4	70	2	5	4	2	1	72	10	12	10	1	1	資源の再利用を考えて
r. 大型家電製品	44	1	9	2	2	51	1	2	2	16	1	59	9	22	13	1	1	決められた方法なので

Q26. 空缶についてうかがいます。あなたは、清涼飲料水やビールの缶の種類に「スチール缶」と「アルミ缶」があるのをご存じですか？（1つに○）

91 1. はい
 9 2. いいえ → Q27へ
 1 NA

(Q26で1「はい」と答えた方に)

SQ あなたは「スチール缶」と「アルミ缶」の区別がつかますか？（1つに○）

82 1. はい
 18 2. いいえ

Q27. あなたは「ステイオン・タブ」という言葉を知っていますか。（1つだけ）

24 1. はい
 75 2. いいえ
 1 NA

Q28. ヘアスプレー、殺虫剤などのエアゾール缶を処分するときに、あなたがなされていることに、いくつでも○をつけて下さい。（いくつでも）

53 1. 缶に穴を開ける
 5 2. 缶をつぶす
 67 3. 中身は必ず使いきる
 3 4. その他()
 13 5. 何もしない
 1 NA

Q29. 買物をしたお店の包装について、過剰だと思われたことがありますか？あてはまるものひとつに○をつけて下さい。

30 1. いつもそう思う
 58 2. 時々そう思う
 11 3. そう思った事はない → Q30へ
 1 NA

(Q29で「いつもそう思う」「時々そう思う」と答えた方に)

SQ29-1. どのようなお店で過剰包装が多いと感じますか。いくつでもお答え下さい。（いくつでも）

57	1. デパートの食料品売り場	10	6. パン屋
64	2. デパートの衣料・雑貨売り場	10	7. コンビニエンスストア
33	3. スーパー	23	8. ファーストフード
10	4. 肉屋・魚屋・八百屋などの食料品の専門小売店	43	9. 衣類、バッグ、靴等の専門店
-	5. 酒屋	10	10. 本屋
		3	11 その他()

SQ29-2. あなたは次のようなことをしたことがありますか。それぞれについて、頻度をお答え下さい。（1つずつ○）

	いつも している	時々 している	したこと はない	NA
ア 買物をした時、商品は手持ちの袋に入れ お店の袋は断る	3	47	50	-
イ 売り場ごとに袋をくれる時は、最初の売り場 のみでもらい、後は断る	19	65	16	-
ウ 小さい商品をひとつ買う時は、シールを貼って もらうだけで包装は断る	31	53	16	-
エ 本屋で、本のカバーは断る	18	39	42	1
オ 贈り物でない自家用のものは包装を断る	36	57	13	-
カ スーパーでは店の手揚げビニール袋はもらわない	1	34	65	-
キ クレジットカード使用時には、控えを入れる袋を もらわない	3	7	87	9

SQ29-3. あなたは次の様なことは必要だと思いますか。それとも必要ではないと思いますか。
次にあげるそれぞれについて、1つずつお答え下さい。(1つずつ)

必ず 時々 ほとんど N/A
必要 必要 必要ない

ア	デパートなどで食品を買うと、ひとつずつ商品 を紙で包んでくれる	1	51	47	1
イ	デパートなどで売り場ごとに紙袋をくれる	-	45	55	-
ウ	中元や歳暮のギフト用のパッケージがとても きれいで凝っている	10	61	28	1
エ	衣服やバッグを買うとまず柔らかい紙で 包んでくれる	15	52	32	1
オ	陶器など割れやすいものを買うとひとつずつ 紙で包んでくれる	62	34	4	-
カ	スーパーの食品がトレーとラップで包まれている	3	46	49	2
キ	スーパーで買物の都度ビニールの手提げ袋を くれる	10	61	26	3
ク	ファーストフードの店で“持ち帰り”の時、 小さい袋に分けて包み、その上で手提げ袋に 入れてくれる	8	49	39	4
ケ	本屋で本を買うと、カバーをつけてくれる	6	47	45	2
コ	サニタリー用品を買うと、透けないように 紙袋に入れてくれる	28	53	16	3
サ	雨がふると、店頭でビニールの使い捨て傘袋が 用意されている	25	52	23	-
シ	刺し身を買うとツマやかざりがついている	16	44	40	-
ス	お菓子などひとつひとつが小さい袋に包装されて いる	14	55	31	-
セ	プレゼント用に有料で、個性的なラッピング サービスをしてくれる	15	71	14	-

SQ29-4. その他に過剰包装をなくすために努力していることや、お店やメーカーに対する要望・提案等あれば、ご自由にお書き下さい。

Q30. あなたは環境を考えた上で、ゴミを減らす工夫や資源リサイクルのための工夫をしていますか。ありましたら、Q25のa~rのような項目ごとに、できるだけ具体的にお書き下さい。また、ゴミの捨て方、処分方法について困っていること、問題点等がありましたら、併せて具体的にご記入下さい。

Q31. 家庭からの排水等「水」に関して、環境を考えた工夫や問題点、困っていること等ありましたら、具体的に記入してください。

【フェイスシート】

{この質問は調査を統計的に分析するためのものです。
全ての問にお答え下さい。}

F 1 あなたの年齢は次のどれにあたりますか。
(1つだけ)

- 23 1. 30~34歳
- 24 2. 35~39歳
- 22 3. 40~44歳
- 17 4. 45~49歳

F 2 あなたのお子さんで一番小さいお子さんの年齢は次のどれにあたりますか。
(1つだけ)

- 36 1. 小学校入学前
- 29 2. 小学生
- 22 3. 中学生・高校生
- 4 4. それ以上の学生
- 8 5. 社会人
- 6. その他 ()
- 1 NA

F 3 あなたが現在一緒にお住まいのご家族は次のどれにあたりますか。(1つだけ)

- 68 1. 自分の子供との核家族
- 25 2. 親子孫の3世代家族
- 6 3. その他 ()

F 4 では、あなたが現在一緒にお住まいのご家族は全部で何名ですか。

4.6 人

F 5 あなたは現在何かお仕事をしていますか。(1つだけ)

- 46 1. している
- 54 2. していない

F 6 あなたのお宅のお住まいは次のどれにあたりますか。(1つだけ)

- 62 1. 持家一戸建て
- 5 2. 分譲マンション
- 4 3. 民間の借家一戸建て
- 11 4. 民間の賃貸集合住宅
(アパート、マンションなど)
- 9 5. 公営の賃貸住宅
(公社・公団など)
- 8 6. 社宅、公務員住宅
- 1 7. 貸間、下宿
- 8. その他 ()
- NA

F 7 お宅の築年数をお答え下さい。

15.6 年

F 8 あなたの最終学歴は次のどれにあたりますか。(1つだけ)

- 50 1. 中学・高校卒
- 31 2. 短大・専門学校卒
- 15 3. 大学・大学院卒
- 4 NA

F 9 あなたは次のような生協の会員となっていますか。(いくつでも)

- 9 1. 生活クラブ生協
- 26 2. 生協(コープ)
- 4 3. その他(具体的に)
- 63 4. 入っていない
- 3 NA

F 10 お宅の世帯年収は次のどれにあたりますか。(税金込み)(1つだけ)

- 3 1. 300万円未満
- 18 2. 300万円以上 500万円未満
- 36 3. 500万円以上 800万円未満
- 15 4. 800万円以上1000万円未満
- 8 5. 1,000万円以上
- 20 NA

【長い間ご協力ありがとうございました】

○水質検査の結果	水道水	浄水器の水
1. 塩素		
2. 鉄分		
3. 硝酸		